

(二九一四)
大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二)

前 圭 一

I 論文篇

はじめに

1. 太魯閣原住民討伐作戦の概要
2. 保甲人夫徴用システム
3. 保甲人夫の動員
4. 出役人夫の状況
5. 監督警官の状況と役割
6. 人夫出役における保甲の役割
おわりに (以上前号)

II 史料篇 (本号)

III 写真篇

Ⅱ. 史料篇

① 保甲人夫徴用規定

(一) 一 保甲人夫徴用ノ件 [五七四二一一〇〇八] (※公文類纂目録番号、以下同じ)

第 號	大正三年四月一五日	文書掛
第 號	大正參年四月拾五日	受 額
第 號	大正參年四月拾五日	決 裁
第 號	大正參年四月拾五日	發 送

大正參年四月十五日 主任受領 南投廳ノ分ハ主任自分ニ代リ十八日發送ス

警察本署長 保安課長

民政長官

總審

年月日 民政長官代理

桃園、新竹、臺中、南投、嘉義

臺南、阿緞廳長宛

保甲人夫徴用ノ件

大正三年生蕃討伐陸軍部隊所要保甲人夫徴用規程別紙ノ通り被定候

右依命通達ス

終り

（一）―二 大正三年討伐陸軍部隊所要保甲人夫徵用規程 [五七四二―一〇〇〇九]

大正三年討伐陸軍部隊所要保甲人夫徵用規程

第一条 保甲人夫ノ供給庁ハ左ノ区分ニ依ル

一、軍隊行動開始前輸送ニ要スル人夫全部 臺中廳

二、軍隊行動開始後軍隊專屬人夫及輸送人夫 台南廳、嘉義廳、台中廳

桃園廳、南投廳、新竹廳、阿緞廳

第二条 軍需品輸送ノ為台中土城間及楠仔埔里間ノ輕便鉄道使用間ハ之ニ要スル台車後捍人夫ハ陸軍經理部長ト協議ノ上ニアラザレバ當該廳ニ於テ任意保甲人夫ニ充當スルヲ得サルモノトス

第三条 出役セシ保甲人夫ハ軍隊引揚又ハ輸送終了迄ハ交代帰還スルコトナシ但シ軍隊行動前ヨリ出役セシ輸送人夫ハ軍隊出動ノ際一回交代セシムルコトヲ得

第四条 陸軍經理部長ニ於テ保甲人夫ノ出役ヲ請求シ又ハ解散セシムルトキハ逃亡、死亡又ハ疫病等ノ為要スル補欠又ハ軍隊活動ノ關係上ヨリ豫測シ得サル場合ノ外七日以前ニ於テ所要人員及引渡場所等ヲ定メ請求スルヲ例トス

第五条 軍隊行動前ニ於テ各廳ヨリ保甲人夫供給ノ場合ハ人夫約五十名ニ對シ一名宛ノ巡查又ハ巡查補ヲ付屬セシメ服役其他一般ノ取締ニ任セシムルモノトス軍隊行動開始後ニ於ケル保甲人夫供給ノ場合ハ途中監督ノ為前項ノ割合ヲ以テ警察官ヲ附屬セシメ該警察官ハ人夫引渡後帰還スルモノトス

第六条 保甲人夫出役間ノ給與ハ左ノ各項ニ依ル

一、軍隊行動開始前輸送人夫ノ日給ハ左ノ区分ニ依ル但糧食ヲ自辨スルトキハ日給額ニ金貳拾錢ヲ増給スルモノトス

(1) 埔里社以西ニ宿泊スル人夫 金四拾錢

(2) 眉溪以東追分マヘボ以西ニ宿泊スル人夫 金五拾錢

二、軍隊行動開始後輸送及軍隊附屬人夫ノ日給ハ左ノ区分ニ依ル

(1) 埔里社以西ニ宿泊スル人夫ハ第一項ニ同シ

(2) 眉溪以東ニ宿泊スル人夫 金六拾錢 (蕃人ハ金參拾錢)

(3) 軍隊專屬人夫 金六拾錢 (但シ宿泊スルトキハ糧食ヲ官給ス)

三、保甲人夫ニハ出役間糧食ヲ官給ス其定量ハ左ノ如シ

(1) 主食 穀精米 (二等白米以下) 一人一日量七合五勺トス但シ労働激甚ナルトキハ八合ヲ給スルコ

トヲ得

(2) 副食物 一人一日量塩肉六拾匁以内乾物野菜式拾匁以内漬物拾五匁以内味噌三拾匁以内トス

第六条ノ二 人夫出役中逃亡シタルモノニハ既服役日数ニ対シテモ日給ヲ支給セサルモノトス

第七条 保甲人夫出役又ハ帰還ノ際ニ於ケル給與ハ左ノ各項ニ依ル

一、軍隊行動開始前出役セシ輸送人夫ハ出役又ハ解散ノ途中ハ汽車賃ノ実費ヲ陸軍カラ支弁スル外左ノ区

分ニ依リ日當ヲ給ス

(1) 土城ニ宿泊スルモノ 金貳拾錢

(2) 柑子林ニ宿泊シタルモノ 金參拾錢

(3) 埔里社ニ宿泊シタルモノ 金四拾錢

二、軍隊行動開始後出役セシ保甲人夫ハ出役又ハ解散途中ハ汽車賃実費ヲ陸軍ニテ支弁スル外左ノ区分ニ依リ日当ヲ給ス

（1）埔里社以西ニ宿泊スルモノ 金四拾銭 第一項ニ同シ

（2）眉溪以東追分及マヘボ以西ニ宿泊スルモノ 金六拾銭

（3）合歡山及ヒ中間以東ニ宿泊スルモノ 金壹円貳拾銭

第七條ノ二 前條ノ保甲人夫ニハ土城桶仔以東ニ在リテハ糧食ヲ官給ス

但シ現品ヲ以テ支給シ得サルトキハ一食七錢ノ割合ニテ金錢ヲ支拂フコトヲ得

第八條 保甲人夫ノ給料ハ帰還ノ際埔里社又ハ土城ニ於テ陸軍經理部出納官吏ハ人夫票丙號ニ依ル支払ヲナ

スモノトス但シ蕃人給料支払場所ハ適宜之ヲ定ム

第九條 保甲人夫ニハ所要ノ草鞋ヲ官給スルモノトス

第十條 保甲人夫ノ担送量ハ概ネ左ノ數量ヲ標準トス

（1）合歡山及壽萊主山南峯以西ハ八貫

（2）前項地点以東ハ四貫

第十一條 保甲人夫服役地到着ノ際ハ附屬警察官ヨリ附表第一號ノ人夫票（乙号丙号連續ノマ、）ヲ陸軍經理部員ニ提出スルモノトス但人夫票用紙ハ豫メ陸軍經理部ヨリ各廳ニ送付シ各廳ハ之ヲ關係警察官ニ配布シ置クモノトス

第十二條 陸軍經理部員ハ前條人夫票ヲ受クルトキハ乙号ヲ後日支拂照合用ニ供スル為メ出納官吏ニ送付シ丙号ハ第七條ノ日當及使用部隊號ヲ記入ノ上直ニ返付シ以降人夫ハ日々之ヲ使役中隊ノ係官ニ提出セシムルモノトス

第十三条 各部隊係官ハ人夫ヨリ日々人夫票丙号ヲ提出セシメ之ニ服役証印シ保甲人夫解散又ハ他部隊へ轉役スルトキハ更ニ署名調印シ服役ヲ証明スルモノトス

第十四条 蕃人ヲ使役スルトキハ附表第二号ノ人夫票ヲ日々交付スルモノトス

第十五条 保甲人夫出役ノ際汽車旅行ヲ要スルトキハ所管廳ニ於テ假乗車証ヲ發行シ置キ後日鉄道部ニテハ之ヲ取纏メ陸軍經理部ニ乗車券ト引替請求ヲ為スモノトス解散帰還ノ際汽車旅行ヲ要スルトキハ附屬巡查ヨリ人夫給料支拂ヲ受ケタル陸軍經理部出納官吏ニ就キ乗車券ヲ請求スルモノトス但シ假乗車証發行ニ関シ鉄道部トノ交渉ハ民政部ニ於テ為スモノトス

②後方事務取扱手續

(一) 太魯閣蕃討伐ニ関スル後方事務処理方 [五七四二一〇二五五]

太魯閣蕃討伐ニ関スル後方事務処理方

大正三年四月二十七日蕃庶々第二〇號
決 定

第一条 民政長官ハ後方事務ヲ統轄ス

第二条 財務長官ハ民政長官ノ命ヲ承ケ經理事務ヲ掌握ス

蕃務本署經理事務ニ就キ蕃務本署長ニ委任セラレタル職務ハ財務局長之ヲ行フ

第三条 警察本署長ハ民政長官ノ命ヲ承ケ職工及人夫ノ徵集ニ関スル事項ヲ掌理ス

第四条 蕃務本署長庶務課長ハ既定計画ノ範圍内ニ於ケル經理事項ノ處理ニ就テハ其ノ都度指揮ヲ受ケサルモ妨ケナシ

第五條 民政長官ハ地方廳其ノ他前各條以外ノ所屬民政官廳職員ニ對シ後方事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

（三） 太魯閣蕃討伐警察部隊後方事務取扱手續 [五七四二一〇二五六]

太魯閣討伐警察部隊後方事務取扱手續

大正三年四月二十二日
蕃庶々第二六號決定

- 一、事件費豫算ノ内往路旅費ハ關係廳長ニ其ノ他ハ蕃務本署長配賦スルモノトス
- 二、討伐隊ニ於テ物品ヲ要スルトキハ其ノ品目數量形狀等ヲ詳記シ廳長ニ請求スルモノトス
- 三、廳長ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ所要日限ヲ定メ蕃務本署内民政長官宛請求スルコト但シ一廉參百圓ヲ超ヘサル物品ニシテ地方購入ヲ利便ト認ムルモノハ蕃務本署派遣ノ現金前渡官吏ニ合議ノ上調辨スルコトヲ得
- 四、蕃務本署ニ於テ物品請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ經伺ノ上相當ノ處分ヲ為スモノトス
- 五、討伐隊所要物品ニシテ總督府ヨリ送付スルモノハ總テ當該廳物品會計官吏ニ保管轉換ノ手續ヲ為スモノトス
- 六、總督府ヨリ送付スル物品ハ花蓮港方面ハ廳所在地迄南投方面ハ庁所在地最近驛迄執レモ蕃務本署ヨリ輸送シ同地ヨリ討伐隊所在地迄ハ廳長之ヲ為スモノトス
- 七、討伐隊ニ於テ要スル職工、人夫ハ蕃務本署内民政長官宛之ヲ要求スルモノトス但事件地所轄廳管内ニ於テ募集シ得ヘシト認ムル場合ハ直接當該廳長ニ要求スルコトヲ得
- 八、人夫ノ勞力ニ對スル報酬ハ總テ均一ヲ方針トシ時宜ニ依リ必要ト認ムルトキニ限り差別ヲ設クルコト

アルヘシ

九、物品其ノ他傷病者ノ後送ハ廳長之ヲ為シ特ニ汽船、貨車、客車又ハ其ノ他ノ設備ヲ要スルトキハ豫メ
蕃務本署内民政長官宛報告スルコト

一〇、蕃務本署ニ於テ前項後送ニ関シ報告書ヲ受ケタルトキハ經伺ノ上相當手續ヲナシ其ノ旨廳長ニ通報
スルコト

一一、廳支廳又ハ派出所職員ヲ本事件ニ関シ出張セシメタルトキハ發令廳ヨリ其ノ時々前渡官吏ニ通報ス
ルコト

③人夫賃金

（四）太魯閣蕃討伐警察部隊使役職工人夫ノ給與ニ関スル件 [五七四二—一〇二五八]

太魯閣蕃討伐警察部隊使役職工人夫ノ給與ニ関スル件

大正三年四月二十九日
蕃庶出第七八號決定

一、職工及人夫ノ賃金ハ別表ノ區分ニ依リ使役日數ニ應シ解隊ノ際之ヲ支給ス但シ花蓮港ニ集合スルモ
ノニシテ該廳以外ヨリ召募スルモノニ對シテハ同地ニ到着ノ日ヨリ行動開始ノ前日迄各其ノ所定賃ノ
半額ヲ給ス

二、往復ノ際ニ於ケル鉄道賃、船賃、台車賃ハ別表ニ依リ官費支弁トス

三、出役中逃走シタルモノニハ既服役日數ニ對スル賃金ヲ支給セス

別表

種別	一日ノ賃金額	花蓮方面ニ使役スルモノ	
		旅費	花蓮港到着ノ日ヨリ行動開始マデノ賃金
内地職工	壹円八拾銭 (食料式拾銭ヲ含ム)	船賃及臺北基隆間ノ鉄道賃ハ往復共官給其ノ他ハ一切自辨	食料ヲ除キタル一日賃金額ノ半額
内地人夫	壹円貳拾銭 (同)		
本島人夫	壹円貳拾銭 (同)		
本島人夫	八拾銭 (同)	出發集合地ヨリ到着集合地迄ノ往復台車賃車賃船賃官給	貳拾銭
蕃人人夫	參拾五銭 (食料自弁)		

- (一) 輸送上ノ都合ニ依リ乗船地ニ宿泊セシメタルトキハ其ノ宿泊料ハ官費トス船中ニ於テ賄ヲ為サ、ルトキノ食料亦同シ
- (二) 手當ハ解散帰還ノ際モ同額支給ス
- (三) 一日ノ賃金額ハ勞務及業務ノ状態ニ依リ等差ヲ設ルコトアルヘシ

(五) 人夫賃金ニ関スル件 [五七四二一〇二三五]

大正三年七月十九日 關ヶ原倉庫

臺中廳警部山中孫一郎 (印)

警察本署長

警視總長龜山理平太殿

人夫賃金ニ關スル件

昨十八日付電報ニテ報告候人夫賃ノ件ハ當倉庫長ハ人夫ノ待命休業者ニ對シテハ賃金ヲ支拂フ能ハザルト主張セシニ付小官ハ其主張ノ不当ナルヲ説明シタルモ更ニ聞キ入レザルニヨリ電報ヲ以テ伺ヒヲ發シ置未タ部下巡查ニ其旨傳イザル内午後五時半頃ニ至リ人夫引率ノ巡查ハ倉庫事務所ニ至リ待命人夫ノ人夫票ニ(出役ヲ證スル倉庫員ノ印)押印方申込ミタルニ倉庫長ニ於テハ前記ノ主張ノ通り押印ヲ拒ミタルヨリ人夫引率ノ巡查其他人夫頭等異口同音ニ人夫賃不拂ノ不法ナルヲ口外シ挙動稍不穩ナルヲ認メタルニ依リ小官ハ部下巡查ニ對シ本件ハ目下本署ニ電報ニテ伺ヒ中ナル旨ヲ申聞セ懇諭シツ、アル折柄倉庫長ハ小官等ノ宿所ニ來リテ本件人夫賃ヲ支拂フ能ハザル理由ヲ説明セリ其ノ理由トスル處ハ軍經理部長ノ命令ニ今後不必要ノ人夫ハ隨時埔里社ニ後送シ同地ニ於テ解傭スル筈ナリ其間假令バ當關ヶ原ヨリ埔里社へ後送途中ノ日數ニ對スル人夫賃ハ支拂フ為サズトアルヲ以テ此点ヨリ推例スルトキハ本日ノ如ク担送スベキ荷物ナク待命休業中ノ人夫ニ對シテ絶對人夫賃ヲ支拂フベキモノニアラザルトノ主張ナリシニ依リ小官ハ倉庫長ノ解釈ノ失當ナルヲ反駁シ一時担送スベキ荷物ナク待命セシメタル人夫ニ對シテ人夫賃ヲ支払フハ當然ノ事ニシテ更ニ疑ヒヲ入ル、余地ナキヲ說キ交渉約三十分間ニ涉リタルガ結局倉庫長ハ一應軍經理部長ニ伺ヒタル上ニセントテ小官等ノ宿所ヲ立ち出テ候處約二十分間ヲ經テ倉庫長ハ更ニ小官等ノ宿舎ニ來リテ本件電話ニテ經理部長ニ伺ハ

ントセシモ電話不通ニ付キ伺ヲ發スル能ザルニ依リ待命休業者ニハ絶對人夫賃ハ支拂フ能ハザルモ只今ヨリ（午後六時頃）雜役トシテ三十分間ニテモ出役セシメラル、ニ於テハ擲進相當人夫票ニ認印ヲ為サントノ申出デナリシニ依リ小官ハ倉庫長ノ眞意ガ自己主張ノ不當ナルヲ覺リ言茲ニ至リタルモノト推察候ニ付更ニ争フノ必要ナシト思料シ直チニ部下巡查ニ命シテ待命人夫ヲ出役セシメ倉庫附近ノ掃除其他ニ約五十分間就業セシメ待命人夫六百餘名ノ人夫票ノ認印ヲ取ル事ニ相成候次第ニ付以上ノ事情報告候也
追而當倉庫長ハ陸軍二等主計夏目新次郎ナルモノニ付申添候也

（六）保甲人夫ノ給與 「五七四二—一〇三九九」

保甲人夫ノ給與

- 一 人夫ノ賃金ハ別表ノ区分ニ依リ使役日数ニ應シ解散ノ際之ヲ支給ス
- 二 往復ノ際ニ於ケル鉄道賃、船賃、台車賃、ハ出發集合地ヨリ到着地点迄ノ分ヲ官給ス
- 三 出役中逃走シタル者ニハ既服役日数ニ對スル賃金ヲ支給セス

賃金表

一日ノ賃金額		集合地出發ヨリ 乗船迄ノ手當
金八拾錢 (食料貳拾錢ヲ含ム)	花蓮港到着ノ日ヨリ 行動開始迄ノ賃金 食料ヲ除キタル一日 賃金ノ半額	貳拾錢

備考

- 一 輸送上ノ都合ニ依リ乗船地ニ宿泊セシメタルトキハ其ノ宿泊料ハ官費トス船中ニ於テ賄ヲ為ササルトキ亦同シ
- 二 手當ハ解散帰還ノ際モ同額ヲ支給ス
- 三 一日ノ賃金額ハ勞務及業務ノ状態ニ依リ等差ヲ設クルコトアルヘシ

〔七〕（電報訳文） [五七四五—一〇一七四]

紙用文譯報電		甲號
大正 年 月 日 午前 後 分 發信		警察本署長是 保安課長閣了 (細井)
指定	受信者名	発信地
保安課長		神田□□
譯文 人夫解備ニ際シ合歡山以東ノ倉庫ヨリ埔里社倉庫ニ轉属セシメ直ニ埔里社倉庫ニテ解備ノ形式ヲ取り帰還手當四〇錢ヲ給スルノミ而シテ其合歡山以東ノ倉庫ヨリ埔里社倉庫ニ着スル期間二日乃至三日ニ対スル人夫賃ハ之ヲ休業セシモノトシテ取扱ヒ居レリ（病氣後送ハ之ニ含まス）右ハ軍經理部長ノ命令ナリト云フモ人夫徴用規程ニ照シ矛盾セサルヤ御研究ヲ乞フ○埔里社倉庫ニ於ケル人夫賃支拂箇處ハ一ヶ處アルノミニテ一日僅ニ三四百名ヲ支拂ヒ得ルニ過キス為ニ頗ル涉ラス少クトモ四、五箇處ノ支拂箇處ヲ設クル様經理部ニ交渉アタリシ		
大正 年 月 日 午前 後 分 受信		

④ 臨時保甲規約

（八） 一 臨時保甲規約ノ件 [五七四二一一〇〇五三]

本保第五〇七號	大正 年 月 日	文書掛 受領	淨書
號	大正 年 月 日	決裁 發送	校正
	大正三年 四月 廿二日	主任受領 立案	

至急 保安課長 保安掛長

警察本署長

年月日

警察本署長代理

各廳長宛（澎湖、臺東、花蓮港廳長ヲ除ク）

臨時保甲規約ノ件

本年実施ノタロコ蕃討伐ニ際シ人夫徴用ニ付テハ別紙臨時保甲規約標準ニ據リ各保甲ニ規約ヲ制定セシムル
カ又ハ規約標準ノ趣旨ニ依リ人夫徴用可被成

右通牒ス

追テ臨時保甲規約ヲ設ケス別紙標準ノ趣旨ニ依リ人夫ヲ徴用セラル、向ハ其ノ旨通報相成度此段申添候

終り

印 印 印

（八）―二 臨時保甲規約標準 [五七四二―一〇〇五五]

臨時保甲規約標準

第一條 本規約ハ官廳ノ命令ニ依ル人夫出役ニ関シ締結スルモノトス

第二條 保甲民ハ人夫出役ニ付テハ官廳及保甲役員ノ命令ヲ遵守スヘキモノトス

第三條 保甲役員ハ人夫ノ出役ニ関シ其ノ責ニ任スルモノトス

第四條 保甲内ニ於ケル二十歳以上五十歳以下ノ身体強壯ナル者ハ人夫ニ出役スル義務アルモノトス但鉄道

輕鉄通信ノ事務ニ従事スル者、官廳ニ奉職スル者、区長、区書記、保甲役員、壯丁團長、副團長、保甲書記、農会埤圳ノ事務其他公共團體ニ従事スル者、不具者、病者ニシテ出役スル能ハサル者ハ保甲會議ノ議

決ニ依リ出役ノ義務ヲ免除スルモノトス

第五條 人夫出役ノ方法ハ保内ニ於テ豫メ抽籤ヲ行ヒ出役順序ヲ定メ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出役スルモ

ノトス保正ハ出役人夫名簿ヲ作り豫メ抽籤ヲ行イ出役順序ヲ登記シ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出役發セシムルモノトス但出發順序ハ本人ノ志望又ハ其他ノ事由ニ依リ保甲會議ノ決議ニ依リ変更スルコトアルヘシ

第六條 一家ニ数人ノ出役義務者アル場合ハ同時ニ出役セシメサルモノトスコノ場合ニ在リテハ保甲會議ノ

議決ヲ經テ適當ニ其順序ヲ定ムルモノトス

第七條 保甲民ハ出役義務ヲ免ル、目的ヲ以テ他出シ又ハ他管内ニ転居セサルモノトス

第八條 抽籤前ヨリ他出シ保内不在ノ者ニシテ故ナク居住地ニ復帰セサル者ハ出役義務ヲ免ル、為他出シタ

ル者ト看做ス

第九條 抽籤順序ニ依リ出役スヘキ者已ムヲ得サル事故ノ為豫メ出役義務ノ免除ヲ望ムトキハ保甲會議ノ議

決ヲ經テ特別ニ其ノ義務ヲ免除シ次番ノ者出役スルモノトス

此場合ニ在リテハ免除セラレタル者ハ其ノ資産ニ應シ十円以上五十円以下ノ醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ圖ルモノトス

第十條 第四条但書ニ依リ出役義務ノ免除（保甲役員壯丁團長ヲ除ク）ヲ受ケタル者及各家長ハ其ノ資産ニ應シ相當醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ圖ルモノトス但シ醸金シタル家長ニシテ自己又ハ其ノ家族タル出役義務者全部出役ノ義務ヲ全ウシタル場合ハ其ノ醸金ヲ返還スルモノトス

第十一條 前條ノ醸金ハ保正之ヲ保管シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者ノ家族生活困難ナル者ニ前貸ヲ為シ又ハ救助ヲ與ヘ若クハ官廳ノ命令ニ依ル人夫携帶品ヲ購入シ又ハ出役人夫ノ死傷手當賞與其ノ他必要ナル費用ニ充テ尚殘餘アルトキハ出役人夫全員ニ其ノ出役日數ニ應シ分配スルモノトス

前項ノ規程ハ聯合保甲ニ在テハ各保共通スルコトヲ得ルモノトス

第十二條 保正ハ第十條第十條ノ醸金収支明細簿ヲ作り其ノ収支ヲ明ニスルモノトス

第十三條 出役人夫ハ集合時間ニ遅レ又ハ逃走セサルモノトス

第十四條 保内ニ本居又ハ寄留籍ヲ有セサル者ト雖モ五日以上居住スル者ニシテ居住地ニ於テ出役義務ヲ免レ居ル者ト認ムルトキハ保内ニ居住ノ者ト看做シ出役ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

前項ノ者ニシテ出役義務ヲ盡サバルトキハ居住地（本居又ハ寄留地）ニ於テ臨時保甲規約ニ違反シタルモノト看做ス

第十五條 本規約ニ依ル醸金、過怠金ノ徴収及醸金分配ノ方法ハ廳長ノ認可ヲ受クルモノトス

保正ハ事件終了後三十日以内ニ人夫徴収ニ関スル収支決算ヲ廳長ニ報告スルモノトス

第十六條 出役人夫逃走シタルトキハ甲内各家長ヲ連座處分ニ付スルコトアルヘシ

第十七條 本規約ニ違反シタル者ハ百円以下ノ過怠金ヲ徴ス

前項ノ過怠金ハ普通過怠金ト區別シ整理スルモノトス

(九) 臨時保甲規約 [五七四二—一〇〇五八]

臨時保甲規約

第一条 本規約ハ官廳ノ命令ニ依ル人夫出役ニ関シ締結スルモノトス

第二条 保甲民ハ人夫出役ニ付テハ官廳及保甲役員ノ命令ヲ遵守スヘキモノトス

第三条 保甲役員ハ人夫ノ出役ニ関シ其ノ責ニ任スルモノトス

第四条 保甲内ニ於ケル二十歳以上五十歳以下ノ身体強壯ナル者ハ人夫ニ出役スル義務アルモノトス、但鐵

道輕鐵通信ノ事務ニ従事スル者、官廳ニ奉職スル者、區長、區書記、保甲役員、壯丁團長、副團長、保甲書記、農會埤圳ノ事務其他公共團體ニ従事スル者、不具者、病者ニシテ出役スル能ハサル者ハ保甲會議ノ議決ニ依リ出役ノ義務ヲ免除スルモノトス

第五条 人夫出役ノ方法ハ保内ニ於テ豫メ抽籤ヲ行ヒ出役順序ヲ定メ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出役スルモ

ノトス保正ハ出役人夫名簿ヲ作り豫メ抽籤ヲ行イ出役順序ヲ登記シ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出發セシムルモノトス但出發順序ハ本人ノ志望又ハ其他ノ事由ニ依リ保甲會議ノ決議ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第六条 一家ニ數人ノ出役義務者アル場合ハ同時ニ出役セシメサルモノトス此ノ場合ニ在リテハ保甲會議ノ

議決ヲ經テ適當ニ其順序ヲ定ムルモノトス

第七条 出役義務アル者十日以上他出セムトスルトキ小出棄前保正又ハ警察官吏ト届出ツルモノトス

〔※欄外記入「削」〕

第八七条 保甲民ハ出役義務ヲ免ル、目的ヲ以テ他出シ又ハ他管内ニ転居セサルモノトス

第九八条 第七条ニ違反シタル者若小抽籤前ヨリ他出シ保内不在ノ者ニシテ故ナク居住地ニ復帰セサル者ハ出役義務ヲ免ル、為他出シタル者ト看做ス

〔※欄外記入「ノ」〕

第十九条 抽籤順序ニ依リ出役スヘキ者己ムヲ得サル事故ノ為豫メ出役義務ノ免除ヲ望ムトキハ保甲會議ノ議決ヲ經テ特別ニ其ノ義務ヲ免除シ次番ノ者出役スルモノトス

此場合ニ在リテハ免除セラレタル者ハ其ノ資産ニ應シ十円以上五十円以下ノ醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ図ルモノトス

第十條 第四条但書ニ依リ出役義務ノ免除（保甲役員壯丁團長及副團長ヲ除ク）ヲ受ケタル者及各家長ハ其ノ資産ニ應シ相當醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ図ルモノトス但シ醸金シタル家長ニシテ自己又ハ其ノ家族タル出役義務者全部出役ノ義務ヲ全フシタル場合ハ其ノ醸金ヲ返還スルモノトス

〔※欄外記入「ノ」〕

第十一條 前二条ノ醸金ハ保正之ヲ保管シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者ノ家族生活困難ナル者ニ前貸ヲ為シ又ハ救助ヲ與ヘ若ハ官廳ノ命令ニ依ル人夫携帯品ヲ購入シ又ハ出役人夫ノ死傷手當賞與其ノ他必要ナル費用ニ充テ尚殘餘アルトキハ出役人夫全員ニ其ノ出役日数ニ應シ分配スルモノトス

前項ノ規程ハ連合保甲ニ在テハ各保共通スルコトヲ得ルモノトス

第十三條 保正ハ第十條第十一條ノ醸金収支明細簿ヲ作り其ノ収支ヲ明ニスルモノトス〔※付箋〕
第十三十四條 出役人夫ハ集合時間ニ遅レ又ハ逃走セサルモノトス

第十四十五條 保内ニ本居又ハ寄留籍ヲ有セサル者ト雖モ五日以上居住スル者ニシテ居住地ニ於テ出役義務ヲ免レ居ル者ト認ムルトキハ保内ニ居住ノ者ト看做シ出役ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

前項ノ者ニシテ出役義務ヲ盡ササルトキハ居住地(本居又ハ寄留地)ニ於テ臨時保甲規約ニ違反シタルモノト看做ス

第十五條 本規約ニ依ル醸金、過怠金ノ徴収及醸金分配ノ方法ハ廳長ノ認可ヲ受クルモノトス

保正ハ事件終了後三十日以内ニ人夫徴収ニ関スル収支決算ヲ廳長ニ報告スルモノトス

第十六條 出役人夫逃走シタルトキハ甲内各家長ヲ連座處分ニ付スルコトアルヘシ

第十七條 本規約ニ違反シタル者ハ百円以下ノ過怠金ヲ徴ス

前項ノ過怠金ハ普通過怠金ト區別シ整理スルモノトス

(一〇) 一 人夫徴用ニ関スル件 [五七四二一〇〇九九]

本保第三〇一號	大正 年 月 日	文書掛 領	淨書印
第 號	大正三年三月十四日	決	校正
第 號	大正三年三月十七日	發	送
	大正三年三月十二日	立	主任受領 案

警察本署長印

保安課長 閱了

民政長官

總督 地方部長

印

年月日

警察本署長代理

各廳長宛

人夫徵用ニ関スル件

本年花蓮港廳下タロコ蕃討伐實施相成候ニ付テハ糧食其ノ他ノ物件輸送ノ為多大ノ人夫使役ノ必要有之既往
數年間ニ於ケル人夫徵用トハ其ノ事情ヲ異ニスルヲ以テ各廳ヨリ人夫ヲ徵用スル豫定ニ有之候然ニ從來各廳
ニ於ケル人夫徵用方法ヲ見ルニ区々ニシテ統一シタル處無之ニ付本年ハ可成同一ノ方法ニ依リ人夫ヲ徵用シ
人民ノ負擔ヲ輕減シ且ツ其ノ逃走ヲ防止スル策ヲ講スルハ最モ緊要ノコト、被認候條此際臨時保甲規約ヲ締
結セシメ人民一般ニ人夫出役ノ義務ヲ負擔セシムルコトニ致度別紙規約草案 部及送付候條至急御意見承知
致度

右照會ス

追テ別紙規約第四條ヲ実行セシムルニ就テハ市街地ニ於ケル保甲ハ困難ナル事情モ可有之ト被存候條普
通ノ保甲区域ニ依ラス特ニ隣接ノ村落ト合併シ特ニ編成相成候モ差支無之候條此斷申添候

台北廳 十四部 桃園廳 七部 宜蘭廳 五部 新竹廳 十一部 台中廳 十部

南投廳 五部 嘉義廳 十三部 台南廳 十四部 阿緱廳 十部 台東廳 三部

花蓮港廳 二部 澎湖廳 三部

計九十七部

(一〇) 一 臨時保甲規約草案 [五七四二一〇一〇二]

臨時保甲規約草案

第一條 本規約ハ官廳ノ命令ニ依ル人夫出役ニ関シ締結スルモノトス

第二條 保甲民ハ人夫出役ニ付テハ官廳及保甲役員ノ命令ヲ遵守スヘキモノトス

第三條 保甲役員ハ人夫ノ出役ニ関シ其ノ責ニ任スルモノトス

第四條 保甲内ニ於ケル二十歳以上四十五歳以下ノ男子ニシテ身体強壯ナル者ハ總テ人夫ニ出役スル義務アルモノトス但シ鉄道、通信ノ事務ニ従事スル者、官廳ニ奉職スル者、区長、区書記、保甲役員、保甲

書記、農會埤圳ノ事務ニ従事スル者、不具者、病者、赤貧者ニシテ出役スル能ハサル者ハ保甲會議ノ議決ニ依リ出役ノ義務ヲ免除スルモノトス

第五條 人夫出役ノ方法ハ保内ニ於テ豫メ抽籤ヲ行ヒ出役順序ヲ定メ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出役スルモノトス

ノトス

第六條 一家ニ数人ノ出役義務者アル場合ハ同時ニ出役セシメサルモノトス此場合ニ在リテハ保甲會議ノ議決ヲ經テ適當ニ其順序ヲ定ムルモノトス

第七條 出役義務アル者二日以上他出セントスルトキハ出発前警察官吏ニ届出ツルモノトス

第八條 保甲民ハ出役義務ヲ免ル、目的ヲ以テ他出シ又ハ他管内ニ転居セサルモノトス

第九條 抽籤前ヨリ他出シ保内不在ノ者ニシテ故ナク本居住地ニ復帰セサル者ハ出役義務ヲ免ルル為他出シタル者ト看做ス

第十條 抽籤順序ニ依リ出役スヘキ者已ムヲ得サル事故ノ為豫メ出役義務ノ免除ヲ望ムトキハ保甲會議ノ議決ニ依リテ特別ニ其ノ義務ヲ免除シ次番ノ者出役スルモノトス此場合ニ在リテハ免除セラレタル者ハ

決ニ依リテ特別ニ其ノ義務ヲ免除シ次番ノ者出役スルモノトス此場合ニ在リテハ免除セラレタル者ハ

其ノ資産ニ應シ十円以上三十円以下ノ醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ図ルモノトス

第十一條 第四条但書ニ依リ出役義務ノ免除（保甲役員ヲ除ク）ヲ受ケタル者及各家長ハ其ノ資産ニ應シ相當

醸金ヲ為シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益ヲ図ルモノトス但シ醸金シタル家長ニシテ自己

又ハ其ノ家族タル出役義務者全部出役ノ義務ヲ全フシタル場合ハ其ノ醸金ヲ返還スルモノトス

第十二條 前二条ノ醸金ハ保正之ヲ保管シ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者ノ家族生活困難ナル者ニ前貸ヲ為シ

又ハ救助ヲ與ヘ若ハ官廳ノ命令ニ依ル人夫携帯品ヲ購入シ又ハ出役人夫ノ死傷手當ニ充テ尚殘餘アルトキ

ハ出役人夫全員ニ其ノ出役日数ニ應シ分配支給スルモノトス

第十三條 出役人夫ハ集合時間ニ遅レ又ハ逃走セサルモノトス

第十四條 保内ニ本居又ハ寄留籍ヲ有セサル者ト雖五日以上居住スル者ニシテ居住地ニ於テ出役義務ヲ免レ

居ル者ト認ムルトキハ保内ニ居住ノ者ト看做シ出役ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

前項ノ者ニシテ出役義務ヲ尽ササルトキハ居住地（本居又ハ寄留地）ニ於テ臨時保甲規約ニ違反シタルモノ

ト看做ス

第十五條 本規約ニ違反シタル者ハ百円以下ノ過怠金ヲ徴ス

本規約ハ誓テ其ノ実行ヲ期シ保正、甲長及家長ハ其ノ家族ヲ代表シ署名捺印シ正副二通ヲ作り副本ハ之ヲ監

督官廳ニ提出シ正本ハ保正ニ於テ保存ス

（一）人夫徴用ニ関スル件 [五七四二—一〇〇六九]

本保第三〇一號

大正三年四月十一日

阿緱廳長 佐藤謙太郎 印

民政部警察本署長

代理 中山左之助殿

阿警ホ第一七七一號

人夫徴用ニ関スル件

大正三年三月十六日付本保第三〇一號ヲ以テ御照會相成候人夫徴用ニ関スル臨時保甲規約草案ニ對スル意見

左記ノ通りニ有之候条

右回答ス

左記

第四條中二十歳以上トアルヲ十八歳以上ト致度、病者ノ次ニ「其他ノ者」ノ四字必要ト認メラレ候

理由

現行保甲規約第三十二條二十七歳以上ハ壯丁タル義務アルモノト規定アリ故ニ十八歳以上ナレハ出役シ得ルモノト認メラレ候官廳事業タル林業試験場、種畜場等ニ使役セラルル苦力ニシテ一定ノ役務ヲ担当スルモノヲ出役セシムレハ直チニ差支ヲ生スルカ如キハ等シク保甲會議ノ議決ニ依リ出役ヲ免除セシムルニ有之候

第八條ニ左ノ一項ヲ加ヒ度候

前項ノ義務ニ違背シタル者ハ出役順序ニ拘ラス出役セシムルモノトス」

理由

取縮上本項ヲ加フルハ適切ナルモノト思料セラレ候

第十二條 死傷手當ノ次ニ「及賞與金」ノ四字必要ト認メラレ候

理由

出役人夫ニシテ功勞顯著ナルモノニ對シテハ保甲會議ノ決議ニ依リ賞與金ヲ與ヘントスルニ有之候

終り

（一二） 人夫徴用ニ關スル件回報

〔五七四二—一〇〇七二〕

本保第三〇一號

印

南警ホ第一二二九號ノ一

大正三年四月十日

南投廳長石橋亨印

民政部警察本署長代理中山左之助殿

人夫徴用ニ關スル件回報

大正三年三月十六日付本保第三〇一號ヲ以人夫徴用ニ關スル臨時保甲規約草案ニ對シ意見提出方御照會ニ依リ取調候處左記ノ通り訂正致度候條

右回報ス

左記

一 規約草案第四條第一項「二十歳以上四十五歳以下」トアルヲ「二十歳以上五十歳以下」ト訂正シタシ

理由

本島人ノ二十歳前後ニテハ未タ體力發達セス人夫トシテ使用ニ堪ヘサル者アルヘキモ之ニ反シ五十歳迄ハ勞力盛ナルヲ以テナリ

二 同第四條但書中保甲役員ノ次ニ「壯丁團員」ヲ加ヘ猶左ノ一項ヲ加ヘタシ

「輕便鉄道運轉手、火夫、車掌又ハ臺車押ニ從事スル者若ハ轎夫ヲ常業トスル者ニ對シテハ必要ノ場合ニ限り前項但書ニ準シ出役ヲ免除スルモノトス」

理由

(一) 壯丁團員ハ人夫カ輸送途中ニ於テ疾病其他事故ニ依リ勞役ニ從事スルコト能ワサル場合若ハ急速ヲ要スル物品ニシテ普通ノ人夫ヲ使役シテハ間ニ合ワサル場合ニ於テ壯丁ヲ召集シ遲滞ナク之ヲ運搬セシムル等之レカ準備ニ最モ必要ナルニ依ル

(二) 輕便鉄道運轉手、火夫、車掌又ハ台車押ノ類ハ當廳ノ如キ物資輸送路ニ當ル處ニ於テハ唯一ノ輸送機關ニシテ之カ熟練ハ輸送力ニ大關係ヲ有シ他人ヲ以テ代フルコトヲ得サルモノナリ又從來ノ實驗ニ依レハ討蕃行動中往々多数ノ轎ヲ要スルコトアリ為メニ昨年ノ討蕃中並ニ探検行動中ハ轎夫ハ出役ヲ全部免除シタリ、轎夫不足ノ場合ニ他地方ヨリ募集スルモ山路不熟練ニシテ全ク勞役ニ堪ヘ難シ

三 同第十條中「十元以上三十元以下」トアルヲ「十元以上五十元以下」ト訂正シタシ

理由

實際ニ於テ討蕃人夫代理者ニ三十円ヲ支払フノ例尠カラス小額ニ失スルノ感アリ其適用ニ付テハ當局

者ノ斟酌ニ依リ弊害ヲ来ス虞ナシト信ス

以上

（二三）人夫徴用ニ関スル件回報 「五七四二一〇〇七三」

本保第三〇一號

大正三年四月十三日

臺南廳廳長松本茂俊印

民政部警察本署長代理中山左之助殿

臺南警ホ第一、八七六號

人夫徴用ニ関スル件回報

三月十六日付本保第三〇一號ヲ以テ御照會ニ係ル太魯閣蕃討伐用人夫徴用ノ為メ締結セシムヘキ臨時保甲規約草按ニ對スル意見ハ左記ノ通ニ有之候

右回報ス

左記

一、第四條中「農會及埤圳ノ事務」ノ下ニ「其他公務ニ從事スルモノ又ハ学生」ヲ入レ以下草按ノ通り

理由 学學生ニシテ二十歳以上ノ者アリ又農會埤圳事務ノ外公務ニ関係シ居ル者アレハナリ

一、第五條ノ主意カ若シ義務年齢内ノ者全部ニ對シ豫メ抽籤ヲ行ヘ總体ノ出役順序ヲ定メ置クモノナリトセハ該条文中「豫メ」及置キ」ノ四字ヲ削除シ裁量ノ餘地ヲ存シタシ

理由 義務年齢内ノ全員ニ對シ豫備の抽籤ヲ行ヒ悉皆ニ順序ヲ定メ置クハ徒ラニ煩雜ヲ見ルノミナラ

ス一般ノ杞憂ヲ招キ且ツ又本件抽籤順ナルモノハ實際ニ當リ狂ヒヲ来スコト多カルヘク尚各保

トシテノ出役要員ハ左程多数ニモアラサルヘケレハ寧口人員ノ配當アリ次第其所要ニ應シ迅速
抽籤ヲ行ヘ又ハ人選ヲ為シ出役セシムルヲ遙カニ利便ナリト思料セラルヘハナリ

一、第十條ノ醸金ハ拾円以上五拾円以下ニシタシ

理由 最高三拾円ニテハ小額ニ失シ場所ニ依リテハ免除出願者ノ續出セシ虞アレハナリ

一、條文ニ對スル意見ハ右ノ如クナルカ結局圓滿ナル出役ヲ期スレハ手當ノ如何ニ帰スヘシ故ニ官給手當ノ
外ニ從來中北部討蕃徴用ノ際ニ於ケル如ク保甲全体ヨリ相當醸金ヲ為サシメ加給ヲ要スヘク而シテ此ハ
各廳餘リニ区々ヲ見ルトキハ自然人夫間ニ不平等ヲ惹起シ却テ不結果ヲ生スヘケレハ可成平衡ヲ保ツコ
トニ協定ヲ要スト認ム差向キ當市街保正等ノ意向ニ依レハ人夫一人ニ付當籤者自カラ出役スルト代人ヲ
出ストニ拘ラス拾圓位ヲ補助センカト称シ居ルモ這ハ他廳ノ振合ニ依リ適當ニ變更ヲ得ヘシ尤モ規約ニ
定メタル醸金ニシテ充分餘裕アル如クハ強イテ一般的醸出之要ナカルヘシ

以上ハ警務課及支廳ノ意見ヲ綜合考究シテ可然カト認メタルモノニシテ猶支廳意見中前文ニ記セサル重ナル
モノ左ノ如クアルモ特ニ緊要ト認ムル程ノモノニアラサレハ御參考迄附記ス

一、醸金及過怠金ヲ最高五百圓迄シタシトノコト （一支廳）

一、醸出丈ヲ五百圓迄ニシタシトノコト （一支廳）

一、同シク三百圓迄ニシタシトノコト （二支廳）

一、同シク百圓迄ニシタシトノコト （一支廳）

一、同シク五圓以上三十圓迄ニシタシトノコト （一支廳）

一、醸金不能者ト認ムルトキハ保甲役員ノ議決ヲ經テ之ヲ免スルコトヲ設定シ置キタシトノコト （一支

廳）

一、逃走者ヲ出シタルトキハ甲内各家長ヲ連座ノ責ニ任スルコトヲ設定シ置キタシトノコト（二支廳）
 一、人夫出役者ヲ左ノ如ク甲乙丙ノ三段ニ區別シ甲ヨリ順次抽籤ニ依リ徴用スルコトニシタシトノコト

（一 支廳）

（甲）家事ニ係累ナク且勞役ニ從事スルニ最モ適當ナルモノ

（乙）家事ニ多少ノ係累アルモ勞役ニ堪ユルモノ

（丙）家事ニ係累アリ且勞役困難ト認ムルモノ

（一四）人夫徴用ニ関スル件 「五七四二一〇〇七六」

以上

本保第三〇一號二	大正 年 月 日	受文書領掛	淨書匣
號	大正三年四月九日	決済	校正
	大正三年四月九日	主任受領	立案

保安課長 保安掛長

警察本署長

年月日 警察本署長代理

南投、臺南、阿緘廳長宛

人夫徴用ニ関スル件

大正三年三月十七日付本保第三〇一號ヲ以テ御照會セシ臨時保甲規約草案ニ對スル御意見及四月十七日本保

第四号ヲ以テ保安課長ヨリ警務課長ヘ照會シタル人夫徴用ニ関スル件于今回答此ナシ取扱上差支候条至急回報相成度

右照會ス

〔※欄外記入「至急」〕

終リ

（二五）人夫徴用ニ関スル件

〔五七四二一〇〇七八〕

本保第三〇一號

大正參年四月壹日

印

宜蘭廳長 小松吉久 印

民政部警察本署長代理殿

宜警保第一五一〇號ノ四

人夫徴用ニ関スル件

大正三年三月十六日附本保第三〇一號ヲ以テ照會相成候臨時保甲規約草案ニ對スル意見及同月十七日附警保第四號ヲ以テ保安課長ヨリ照會相成候調査事項左記ノ通ニ有之候条此段及回答候也

左記

一 臨時保甲規約草案ニ對スル意見

第四條中出役義務免除者ノ内ニ壯丁團員ヲ加フルコト（鐵道ハ輕便ヲ包含スルコトニ解釈ス）

（理由）壯丁團ハ犯罪其他變災ニ際シ警防ニ従事スルノ任務ヲ有スルヲ以テ必要ノ員數ヲ常備セシムルヲ

要ス故ニ保甲會議ノ決議ニ依リ平常ヨリ遞減シタル程度ニ於テ要員ヲ定メ免除スルヲ可トスヘシ
第五條ニ但書ヲ加ヘ「出役順序ハ本人ノ希望又ハ其他ノ事由ニヨリ保甲會議ノ議決ニ依リ變更スルコトアルヘシ」トスルコト

（理由）家事其他ノ事故ニヨリ出役順序ヲ變更スルヲ正當ト認ムルトキハ之ヲ繰上ケ又ハ繰下クルノ餘地ヲ與ヘ置クヲ可トスヘシ

第六條ノ次ニ左ノ一箇條ヲ追加セラレタシ

出役ノ義務ヲ終リタル者ニシテ再ヒ出役ヲ希望スル者アルトキハ保正ニ於テ便宜順序ヲ定メ出役セシメルコトヲ得

（理由）山脚地方在住ノ労働者ニシテ本人ヨリ特ニ志望スル者アルハ從來實驗スル處ナレハナリ

第十條ノ次ニ左ノ一箇條ヲ追加セラレタシ

出役義務者ニシテ已ムヲ得サル事故ノ為出役シ難キトキハ第四條該當者ニシテ自己ノ出役義務ニ支障ナキ者ヲ代理出役セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ代理者逃走シタルトキハ本人之カ責ニ任スルモノトス
前項ノ場合ニ在テハ第十條ノ醸金ヲ免除スルモノトス

（理由）従来ノ實例ニ徴シ今ク出役義務ヲ有セサル内地人其他地方ノ者等ヲ備入レ代理出役セシムルノ便アレハナリ

第十四條ノ次ニ左ノ二箇條ヲ追加セラレタシ

「本規約ニ依ル醸金、過怠金ノ徴収及出役義務者ニ醸金分配ノ方法ニ関シテハ所轄廳長ノ認可ヲ受クヘシ」

「保正ハ事件終了後三十日以内ニ人夫徴収ニ関スル収支決算ヲ所轄廳長ニ報告スルモノトス」

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

（理由）管内各保ノ平衡ヲ保持シ併テ經理監督上ノ必要アルニ依ル
保安課長照會調査事項

一、農繁及農閑ノ時期

農繁 二月三月六月下旬ヨリ八月上旬迄十月十一月

農閑 一月四月五月九月十二月

二、労働者普通賃金

平地 金五拾錢

蕃地 金八拾錢

三、人夫徴用最大人員

農繁 二千人

農閑 四千人

（二六）人夫徴用ニ関スル件

〔五七四二一〇〇八一〕

本保第三〇一號

大正三年四月四日

臺北廳長井村大吉印

臺灣總督府警察本署長殿

臺警乙第五九二六號

人夫徴用ニ関スル件

三月十六日付本保第三〇一號臨時保甲規約締結ニ関シ御照會ノ件審議スルニ左記ノ通りニ有之候条
右回報ス

追テ労働賃金其他別紙ノ通りニ付申添候

記

第四条 保甲役員ノ下「壯丁團役員」ヲ病者ノ下「其他ノ事由アル者」ヲ加フルコト

第五条 ヲ次ノ如ク変更スルコト

保正ハ出役人夫名簿ヲ作り豫メ抽籤ヲ行ヒ出役順序ヲ登記シ置キ官廳ノ命令ニ依リ順次出役セシムルモノトス

第七条 出発前ノ下「保正又ハ」ヲ届出ツルモノトスノ下「期限内ニ帰来シ能ハサルトキ亦同シ」ヲ加フルコト

第九条 ヲ次ノ如ク変更スルコト

第七条ニ違背シタル者又ハ故ナク期限内ニ帰来セサル者若クハ抽籤前ヨリ……………看做ス

此場合ニ在リテハ次番ノ者出役スルモノトス

第十条 免除セラレタル者ノ下「又ハ第八条及ヒ第九条前段ニ該當シタル者」ヲ加ヘ十円以上三十円以下ヲ十円以上八十円以下トスルコト

第十一条 括弧内保甲役員ノ次ニ「壯丁團役員」ヲ加フルコト

第十二条 死傷手當ノ下「其他必要ナル費用」ヲ加ヘ次ノ一項ヲ加フルコト

保正ハ醸金受払簿ヲ備ヘ収支ヲ明記スルモノトス

（一七）人夫徴用ニ関スル件 [五七四二—一〇〇八四]

本保第三〇一號

中警保第二三〇四號ノ一

大正三年四月一日

臺中廳長 枝徳二函

民政部

警察本署長代理中山佐之助殿

人夫徴用ニ関スル件

三月十六日本保第三〇一號ヲ以テ人夫徴用ニ関スル件御照會ノ趣了承當地方ハ匪徒事件發生以來未タ間モナキヲ以テ右規約實行ノ曉ハ種々ナル謠言浮説統出シ多少人心ニ影響ヲ及ホスノ嫌ヒナキニアラサルモ全島一律ニ行ハル、事ナレハ之カ論議ヲ為スモ左程困難ハ無之若シ出来得ヘクンハ此際別段臨時保護規約ヲ論議セシテ其ノ草案ノ趣旨ニ依リ人夫出役ヲナサシムルモ差シタル困難ハ無之ト思料セラレ候尚規約草案ニ對スル意見ハ別紙ノ通ニ候
右回答ス

臨時保甲規約草案

一 第四条ノ「身体強壯ナル者」ヲ削り及但書中保甲役員ノ下ニ「壯丁團役員」ヲ埤圳下ニ（其他公共團體）ヲ加フルコト

理由

身体ノ強壯ナルト否トハ其ノ程度標準ノ識別ニ困難ヲ感シ且其ノ間種々ナル弊害ヲ生スルノ虞アリ故ニ身体強壯ナラサル者ハ但書ニテ免除スルヲ可トス又壯丁團ノ役員タル壯丁團長及副團長ノ如キハ保甲役員ト其ノ位置同一ナレハ之ヲ追加スルヲ適當ト信ス

二 第七条ヲ削除スルコト

理由

二日以上ノ他出者ニ對シ此ノ大多数ノ義務者ヨリ一々届出セシムルカ如キハ甚々煩雜ニ堪ヘサルノミナラス之カ實行ニハ殆ント困難ナリ且其ノ保内ノ者ニシテ他行スルトキハ必ス保正ニ届出他行簿ニ記入スルスルコト、ナリ居ルカ為此ノ条文ハ左程ノ必要ナキカ如シ若シ之ヲ届出シムル如クセハ多數ノ違犯者ヲ出シ一々之ヲ處分セサルヘカラス如此ハ却テ實益ナク他ノ条文ニテ充分取締ルコトヲ得レハナリ

三 第十条以下第十二条ノ醸金前貸救助等ハ其ノ保ノミニ止メスシテ聯合保甲区域則チ一派出所管内ニ共通セシメタキコト

理由

標準ニ依レハ保ニ制限ナキモ一保ハ約百戸ナルヲ以テ只一保ノミニテ總テヲ處理スルハ尚物足ラサルヤノ感アリ或保ニ於テハ多額ノ醸金ヲナシ或保ニ於テハ少ナク若シ前貸又ハ救助ヲナス者蒿ムトキハ遂ニ資金ニ不足ヲ告ルニ至ルヘシ依テ其ノ区域ヲ擴張シ一警察官吏派出所管内ニ於テ公平ニ支出スルヲ可トス

四 第十二条ノ死傷手當ハ豫メ標準額ヲ定メ置カレタキコト

理由

給與類額ヲ一定セサレハ公平ヲ欠ク嫌アリ仮令ハ死傷手當ヲ給スルニ甲保ニ於テハ百円ナルニ乙保ニ於テハ二百円ト云フカ如キニ於テハ實際出役スヘキ者ノ感想ニ多大ノ影響ヲ及ホスカ故ニ全廳一律ニ之ヲ規定スルヲ可ト信ス

五 左ノ事項ヲ追加セラレタキコト

出役人夫カ官廳ヨリ命セラレタル期間誠實ニ出役シタル者ニ對シ之カ奨励法トシテ慰勞金ヲ交付スル制度ヲ設クルコト

以上

（一八）人夫徴用ニ関スル件回答 [五七四二—一〇〇八七]

本保第三〇一號

大正三年三月三十日

桃園廳長武藤針五郎 印

民政部

警察本署長代理中山佐之助殿

桃警保第一一七七號ノ一

人夫徴用ニ関スル件回答

大正三年三月十六日本保第三〇一號御照會ノ臨時保甲規約草案ニ對スル意見左記ノ通りニ有之候

右回答ス

左記

第一條 草案ノ通り

第二條 同

第三條 草案ノ通り

第四條（改正）保甲内各家長ハ二十歳以上四十五歳以下ノ身体強壯ナル男子一人宛ヲ人夫トシテ輪番出役

ノ義務アルモノトス但シ出役ヲ免除スル必要アルモノハ保甲會議ノ議決ニ依リ出役義務ヲ免除スル
コトヲ得

第四條ノ二（追加） 家長不在又ハ事故アルトキハ家長ノ義務ハ家族之ヲ行フ家族ノ行為ニ付テハ家長其

責ニ任ス

第五條（改正） 保甲ハ人夫出役ノ義務アル各家長ノ順位ヲ抽籤ニ依リ定メ置キ名簿ヲ作製シ官廳ノ命令

ニ依リ順次出役スルモノトス

第六條 削除

第七條 削除

第八條 草案ノ通

第九條 同

第十條（一部改正） 抽籤順序ニ依リ人夫出役ノ義務アル家長ニシテ出役スヘキ者ナキ場合若ハ事故ノ為

メ豫メ出役義務ノ免除ヲ望ムトキハ保甲會議ノ議決ヲ經テ其義務ヲ免除シ次番ノモノ出役スルモノ
トス此ノ場合免除セラレタル家長ハ其ノ資産ニ應シ保甲會議ノ指定ニ依リ三十円以下ノ醸金ヲ為ス
ヘキ義務アルモノトス

第十一條 削除

第十二條 「前二條」トアルヲ「第十條」ト改メ以下草案ノ通り

第十三條 草案ノ通り

第十四條 削除

第十五條 草案ヲ一項トシ第二項ニ左記ヲ加フ前項過怠金ハ普通過怠金ト區別シ第十二條ノ醜金ニ準シ支出

スルモノトス

末文ハ全部草案ノ通

以上

理由説明

一、草案第四条ニ依ルトキハ保甲内住民ニシテ二十歳以上四十五歳以下ノ身体強壯ナル男子ハ全部人夫トシテ出役ノ義務ヲ負フコトトナリ居ルモ従來行ヒ来リタル實驗ニ徴スルニ斯ノ如キ多数ノ人夫ヲ要スルコトナシ大正二年六月「ガオガン」方面蕃地前進當時ニ於ケル出役人夫延人員ニシテ桃園廳ヨリ出役シタルハ式拾萬六千餘人ニ過キス之ヲ管内本島人戸数ニ鑑ミルニ昨年末三萬五千九百餘戸ナルヲ以テ一戸ノ員摺六人弱（延人員）ナリ故ニ一保百戸アリト仮定シ抽籤セシムルモ出役義務ヲ尽スニ至リタル者共半数ニ達セサリシナリ「タルコ」蕃討伐ノ出役人ハ其需要数幾何ナルヤヲ知ラサルモ草案ノ如キ規約ヲ全島ニ及ホストセハ其要スヘキ人員ハ「ガオガン」蕃地前進ニ於ケル當廳出役人夫数ヲ（當廳管内ノ出役員摺割）超過スルコト蓋シ稀ナルヘキヲ推定スル難カラサルナリ、然レハ其ノ出役義務ヲ保甲内ノ戸ヲ標準トシ人ヲ標準トセサルヲ可ナリト信ス加之二十歳以上四十五歳以下ノ男子ヲ目的トスレハ富有者ニシテ女子ノミ多キ戸ノ如キハ其義務ヲ免ルルモ生計豊ナラサルモ多数ノ該當男子アレハ其義務ヲ負フヘ

キ公事ヲ失スルノ奇觀ヲ呈スルコトナシトセス

故二人夫出役義務ハ之ヲ戸ヲ以テ標準トシ若シ出役セシムヘキ者ナキ場合ハ其醸金義務ヲ負ハシムルハ保甲内住民ニ對スル公平ナル方法ナルヘシト信セラレ

又草案但シ書ノ出役義務免除者ハ保甲トシテハ何等理由ナカルヘシ何トナレバ鉄道、通信ノ事務ニ従事スルモノ又ハ官公吏ノ事務ニ従事スルモノハ何故ニ免除ノ理由トナルヤ其免除以外ノ者ト雖日常ノ生計上必要ナル正業ニ従事シアルモノナリ直接國家又ハ公共ノ事務ニ従事シ生計ヲ營ミ居ルモノト間接ニ正業ニ従事シ國民ノ本分ヲ尽シ生計ヲ營ミ居ルモノトハ保甲ノ規約ニ於テ何等軒輕ノ差ナシ

然レハ此ノ義務ハ苟モ保甲内ニ一戸ヲ構ヘ居ルモノハ均等ニ其義務ヲ負擔シ自ラ出役シ能ハサルモノハ免除ヲ要求シテ之レニ代フルニ醸金ノ義務ヲ尽サシムルハ頗ル公平ニシテ而カモ當然ノ結果ナルヘシ之レ本条ヲ改正セントスル理由ナリ

二、第四條ニ追加トシテ記シタルハ第四條ヲ家長本位トシタル以上其責任ノ歸スル所ヲ明ラカニスル必要上當然ノ結果ナリ

三、第五條改正ノ理由ハ各家ニ對スル出役義務順序ノ名簿ヲ保甲ニ作製セシメ順次之レヲ輪環出役セシムルノ便ニ供セントスルニアリ

四、第六條ハ前各項ノ趣旨ニ依ル結果トシテ不用ノ條文タル為メナリ

五、第七條ハ出役義務ヲ負フヘキ全部ノ者ニ對スルハ其繁ニ耐ヘサルヘシ元來出役義務ノ實行ハ要求人夫ノ數ニ依リ定マル然ルニ實行不確定ノ場合ノ者ニ對シ他出ヲ悉ク明瞭ナラシムヘキ手續ヲ為サシムルハ却テ其繁ニ堪ヘサルノミナラズ多少保甲ノ生計ノ妨害トナルノミナラズ違反者ヲ續出處罰スルノ結果ヲ見ルニ至ル故ニ本条ハ其必要ナシト思料ス

六、第十條ヲ改正セントスルハ家長ヲ其責ニ任セシメントスル結果ニシテ贖金ヲ提出セシムヘキ方法ニ外ナ
ラス又草案ニ三十円以下トシタルハ其最高額ヲ示シ低額ノ範圍ハ家長ノ資産生計ニ鑑ミ適切ナル金額ヲ
指定セシメンガ為ナリ若シ最低額ヲ十円トセハ赤貧者ト云フニ至ラサルモ生計困難ノ徒ニ對シテハ其義
務荷重ニ失スルノ嫌ヒナシトセズ

七、第十一條ハ前各項ノ趣旨ニ依ル結果トシテ不用ノ條文トナル

八、第十四條ハ出役義務ノ責任ヲ家長ニ負ハシメタル以上ハ規約上共一個人ヲ省ミルノ必要ナク且ツ本條ノ

目的ハ第八條第九條ニ依リ之ヲ徹行スルヲ得ルヲ以テ削除セントス

九、第十五條ニハ第二項ヲ加ヘタシ本規約過怠金ハ普通規約ニ依ルニアラズシテ臨時ノ特別規約ナルニ付其
規約ニ依ル過怠金モ規約ノ精神ニ副ハシムルヲ適當ト信ス

（一九）人夫徴用ニ関スル件 「五七四二一〇〇九三」

本保第三〇一號

大正三年三月三十一日

嘉義廳長津田毅一印

民政部

警察本署長殿

嘉警保第二四八九號

ノ一

人夫徴用ニ関スル件

三月十六日本保第三〇一號ヲ以テ御照會相成候臨時保甲規約ニ關スル件警務課及各支廳ノ意見ヲ徴シタルニ

左記要領ノ通りニ有之候条
右回報ス

記

一、下湖口支廳長

部内ノ多クハ従来漁業ヲ專業ト為シ来リタルモ近来海濱ノ状態ハ之ヲ專業トシテ生計スル能ハサル事情モアリテ田畑ノ如キモ耕作ニ適セサル等其多クハ常ニ各地方ニ出稼シアリ人夫徴用ニハ多大ノ困難ヲ来スベシト云フ

一、東石港支廳長

民心ヲ動揺セシムルノ虞アリ尚ホ抽籤ニ依ルトキハ實際勞役ニ適當ナル者ヲ得ルニ困難ナル事情アリ故ニ本規約ヲ締結セシメズトモ相當ノ人夫ヲ徴用シ得ベシト云フ

一、竹頭崎支廳長

部内ノ状況ハ毎季農耕製紙業等ノ為メ各地方ヨリ多数ノ労働者ヲ雇入ルノ状況ニテ一般ニ出稼ヲ嫌忌スル風習アリテ本規約ニ依リ人夫ヲ徴用スルハ民意ニ副ハサルノ虞アリト云フ

一、撲仔脚支廳長

年々バスト病發生シ為メ今此規約ニ依リ人夫ヲ徴用セントセバ該病毒ノ傳播ヲ来スノ虞ナシトセズ故ニ當管内ノ人夫徴用ハ一考ヲ要スルト云フニアリ

一、土庫支廳長

抽籤ヲ廢シ出役者ヲ指名シ更ニ志願者ヲ採用シ出役義務免除者ヨリノ醵金ヲ廢スベシト云フ

一、斗六支廳長

規約ノ組織ヲ直轄（支廳）又ハ一派所ヲ一區域ト為スベシト云フ

一、中埔、店仔口支廳長

規約第四条但書ニ常務壯丁團員ヲ加フベシト云フ

一、西螺支廳長

蕃地ニ使役スル勞役者ヲ平地ヨリ徴スルハ策ノ得タルモノニアラズ亦タ本規約ハ民心ノ動揺ヲ来ス虞ナ

シトセスト云フ

一、其他ノ支廳警務課ニ在ツテハ別ニ意見ナシ

各支廳長ノ意見ハ上記ノ通ニ有之候處抑モ本規約ヲ締結シテ人夫ノ徴用ヲ実行スル時ハ當廳ノ如キ從來討
蕃隊附人夫ノ徴用ヲ為シタルコトナキ地ニ在リテハ元ヨリ困難ナルコトハ免レサル處ニ有之從テ多少民心ノ
動揺ヲ来スモノト豫測セラレ候得共之レカ徴用ヲ各廳ヲ通シテ其時機ヲ等フスルニ於テハ以テ聊カ其動揺ヲ
豫防スルノ手段トナルヘキカト存セラレ候又規約第四条但書並ニ二十一条括弧内ニハ常務壯丁團員ヲ加フルノ
必要ヲ認め候其他ニハ格別ノ意見モ無之尚御照會ニ係ル農業繁閑時期其他ハ左記ノ通りニ有之候

一、農業ノ繁閑時期

農繁

四、五、六、七、八、九ノ各月

農閑

十一、十二、一、二ノ各月

一、徴用シ得ヘキ人夫最大人員

農繁 千拾名

農閑 三千二百七十五名

一、賃金

金五拾錢

終り

（二〇）人夫徴用ニ関スル件回答

〔五七四二—一〇〇九六〕

本保第三〇一號

澎湖保第二三七五號ノ四

大正三年三月二十五日

澎湖廳長澤井瀬平 叩

民政部

警察本署長代理中山佐之助殿

人夫徴用ニ関スル件回答

大正三年三月十六日本保第三〇一號ヲ以テ臨時保甲規約草按ニ對スル意見ノ有無御照會ニ依リ調査候處當廳ハ他廳ト大ニ其趣ヲ異ニシ居リ生計ノ大部分ハ二十歳以上四十五歳以下位ノモノ、出稼ニ依リ支持シ居ラル、モノナレハ今是等ノ者ノ出稼ヲ禁シ之レヲ本居地ニ留メ置ク事ハ到底為シ能フ處ニ無之就テハ該草按ヲ左記ノ通りニ変更スルニアラサレバ實行難致思料致候尚小池角支廳長意見書寫相添ヘ
右回答ス

追テ網按支廳ノ分ハ交通上ノ關係ヨリ書類未着ニ付到着次第送附可致候モ同支廳下ハ離島ニシテ交通上不便ナルヲ以テ本規約ヲ設クルトモ至急ノ場合到底徴用ニ應シ難キモノト認メ候条申添候也

變更ノ點

第四條 各甲ニ於テ二十歳以上四十五歳以下ノ身體強壯ナル男子中ヨリ一名ヲ抽籤セシメ出役人夫タル義務

ヲ負ハセ置クモノトス（但シ以下ハ草按ト同文）

第五條 前條抽籤スヘキ者ニシテ當選ヲ免カレタルモノハ毎月拾錢宛ノ醸金ヲナシ保甲會議ノ決議ヲ經テ出

役義務負担者總員ノ利益ヲ圖ルモノトス

第六條 本條ハ削ル

第十條 抽籤ニ依リ出役人夫ノ義務ヲ負ヒタル者已ヲ得サル事故ノ為メ豫メ出役義務ノ免除ヲ望ムトキハ保

甲會議ノ決議ヲ經テ特別ニ其義務ヲ免除シ更ニ其後任ヲ抽籤シ置クモノトス此ノ場合ニアリテハ免除

セラレタル者ハ其資産ニ應シ三十円以内ノ醸金ヲナシ保甲會議ノ議決ヲ經テ出役者全員ニ對スル利益

ヲ図ルモノトス

人夫徴用ニ関スル件

小池角支廳長意見

三月二十日付澎警保第二三七五號ノ二ヲ以テ臨時保甲規約草按御送付ニ依リ意見左ノ如シ

左記

一、規約第十條中已ムヲ得サル事故ノ為メ出役義務免除希望者ニ免除セラレタル時ハ其資産ニ應シ拾円以上參拾円以下ノ醸金ヲ要スル旨記載シアルモ已ムヲ得サル事故ノ爲ニ出役免除ヲ受ケタルモノニ拾円以上

ノ釀金ト最少額ヲ限定セルハ少シク苛酷ノ嫌アリ

二、其他草案ニ関シテハ別ニ意見ナキモ元來當地方ハ出稼本位ノ土地柄ナリト雖官廳ノ命令ニ依ル出役人員ハ不定時ノ要求ナレハ常ニ出稼者多ク故ニ實際ニ徴用シ得ラル、人員ハ至極僅少ノ數ニシテ或ハ目的ヲ達シ得ラレサルノ恐アリ

(二一) 臨時保甲規約ノ件 [五七四二一〇一二〇]

本保第五〇七號

嘉警保第三六六九號ノ一

大正三年四月二十七日

嘉義廳長 津田毅一 印

民政部警察本署長殿

臨時保甲規約ノ件

四月二十二日本保第五〇七號ヲ以テ臨時保甲規約制定方ニ關シ御通牒相成候處當廳ニ於テハ別ニ右規約ヲ制定セシメス該趣旨ニ依リ徴用可致候條

右通報ス 終

(二二) 臨時保甲規約ノ件 [五七四二一〇三一九]

① 大正三年五月十一日

本保第五〇七號

臺北廳長井村大吉

警察本署長殿

臺警乙第九〇〇三號ノ二

臨時保甲規約ノ件

大正三年四月二十二日付本保第五〇七號ヲ以テ通牒ニ係ルタロコ蕃討伐用人夫徴用ニ付臨時保甲規約ノ件當
 廳警務課直轄臺北城内、大稻埕、及小基隆、士林、新庄、頂雙溪ノ各支廳ニ於テハ規約ヲ設ケス該標準ニ依リ其
 他ハ規約ヲ締結徴用可致候条
 右回報ス

（終り）

⑤徴用対象

（二三）——蕃人使役ニ関スル件

[五七四二一〇〇〇四]

文書課
長捺印

民□□第八二八號	大正三年四月十四日	受文書課	淨書
第 號	大正參年四月拾五日 決 済	發 送	校正
	大正參年四月拾五日 發 送	主任受領	
	大正三年四月十四日 立 案		

警察本署長印 保安課長印

民政長官印

印

印

總督印

年月日 民政長官代理

臺東、花蓮港廳長宛

蕃人使役二関スル件

電柱改築ノ為通信局ニ於テ別紙ノ通蕃人使役ニ付供出方御取計可被成尚蕃人出役ニ際シテハ蕃語ニ通スル巡查ヲ各所ニ屯名宛派遣可被成

右依命通達ス

追テ蕃人ヲ使役スル時期ハ四月下旬頃ナルモ確定日ハ派遣技術員ヨリ直接貴廳へ申出ツル筈ニ有之候

終リ

写 (二三) 一 二 各地蕃人使役見込數 [五七四二一〇〇六]

各地名	蕃人使役見込數	延人員
チャカン溪	十日間	百人
タピラ溪	五日間	五十人
瑾石閣街	十二日間	百二十人
清水溪	二十日間	三百人
新武壠溪	三十日間	四百五十人
太麻里溪及 蚶仔崙溪	三十日間	六百人
大竹高溪	二十日間	四百人
巴壠街間	六十日間	二千四百人

(二四) 脳丁ニ関スル件 [五七四二一〇二八三]

本保第五五四號	大正 年 月 日	文書領掛
號	大正 年 月 日	決濟
	大正三年 五月 一日	主任受領 立案
		校正

至急

保安課長 保安掛長

警察本署長 委任

年月日

警察本署長代理

專賣局長宛

脳丁ニ関スル件

大正三年四月三十日付專腦第八九八號ヲ以テ照會相成候現在就業中ノ脳丁ヲ討蕃人夫ニ使役セサル件右ハ拙當籤ニ依リ出役ノ義務アル者ハ免除スルコトヲ得サルモ保甲ニ備ハレ出役スルカ如キコト無之様關係各警務各廳長へ通知致置候条御承知相成度
右回答ス

第二案

年月日

警察本署長代理

終り

臺北、宜蘭、桃園、新竹

臺中、南投、嘉義、阿緞

廳長宛

腦丁ニ関スル件

各廳下製腦業者ノ使役スル腦丁ニシテ討蕃隊人夫募集ノ為多少動揺ヲ来タシ往々該募集ニ應シ製腦地ヲ離レタル者モ有之趣果シテ右様ノ事實アリトセハ漸次休憩腦社ヲ生シ延テ本年ノ生産額ニ影響ヲ及ホス虞アルニ依リ現ニ就業中ノ腦丁ハ使役セサル様專売局長ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付テハ腦丁ニ對シ人夫出役ノ義務ヲ免除スルハ公平ヲ缺ク嫌アルヲ以テ專売局長ノ照會ニ應スルコトヲ得サルモ當籤セサル者ヲ保甲ニ於テ傭入シ出役セシムルガ如キコト無之様御取扱可相成

右通牒ス

終り

(二五) 腦丁取締ニ関スル件

[五七四二一〇二八六]

本保第五五四號

文書課
長捺印

專腦第八九八號

大正三年四月三十日

專賣局長山脇春樹印

警察本署長殿

腦丁取締ニ関スル件

近來各廳下製腦業者ノ使役スル腦丁ニシテ討蕃隊人夫募集ノ為多少ノ動揺ヲ来タシ就中既ニ該募集ニ應シ製

腦地ヲ離レタルモノ尠カラサル趣果シテ右様ノ事實有之候ハ、多數ノ休憩腦社ヲ生シ延テ本年度ノ生産額ニ影響ヲ及ホス虞有之候条就業中ノ腦丁ハ右人夫ニ使傭セシメサル様此際特ニ御配慮相願度此段及照會候也

(二六) (電報訳文) [五七四二一一〇二九〇]

苗栗驛

機関庫

譯文

生蕃討伐人夫ニ関スル規程変更ノ為勤務二年以下ノモ補充スル旨支廳ヨリ通知アリテ勤務ニ□□支ル何分ノ交渉願フ

(二七) 徴用人夫ニ関スル調査表 (※臺北廳) [五七四二一一〇〇八三]

支直 廳轄 別及		農 月 繁 期 別	農 月 閑 期 別	勞 働 者 ノ 普 通 賃 金	農 繁 期	農 閑 期	徴 用 シ 得 ル 最 大 人 員	摘 要
第一監視区	三、四、七、八、九	五、六、一〇、一一 一、二、一、二	低高 四〇	五、四、四	一、一九七			
第二監視区	三、六、七、一〇、一一	四、五、八、九、一二 一、二、一〇、一一	低高 五〇	二〇〇	五〇〇			茶ノ取引盛ナル為メ他ト農繁期ヲ異ニス
第三監視区	一、二、三、四、七、八、九	五、六、一〇、一一	低高 七〇	八〇	一八〇			百八十名ハ農繁期ヲ問ハズ
士林支廳	三、四、五、六、七、八、九 一〇、一一	一、二、一、二	低高 四〇	一、五八〇	二、八五〇			

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

⑥ 徴用人員

（二八） 人夫徴用ニ関スル件

〔五七四二一一〇一一五〕

計	錫口支廳	水返脚支廳	新店支廳	深坑支廳	頂双溪支廳	瑞芳支廳	基隆支廳	金包里支廳	小基隆支廳	淡水支廳	枋橋支廳	新庄支廳
	三、七、八、一一	三、四、五、六、七、一〇	三、四、五、六、七、一〇	一、三、四、五、六、七、一〇	六、七、一〇	一〇、三、四、五、六、七、九	三、四、七、八、一〇、一一	三、四、五、六、七、八、九	三、四、五、六、七、八、九	一〇、一、三、四、五、六、七、八、九	一、三、四、六、七、八、一〇	二、三、六、七、八、一一
	九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六	二、九、一一、一二、一三、一四、一五、一六	二、九、一一、一二、一三、一四、一五、一六	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五	八、九、一一、一二、一三、一四、一五	二、八、一一、一二、一三、一四、一五	一、二、三、四、五、六、七、八、九	一、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇	一、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇
低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高	低高
三〇	三〇	四〇	四〇	六〇	六〇	七〇	八〇	五〇	六〇	五〇	四〇	四〇
六、一七八	二七六	一五〇	一、六〇〇	二五〇	一〇〇	二四〇	三〇〇	一〇〇	八〇	三四八	一〇〇	二二〇
一、二八一九	八三八	二五〇	三、一〇〇	八〇〇	一五〇	四八〇	四二五	二〇〇	一〇〇	一、一九四	二二〇	三四五
											労働賃金ハ食事自弁トス	

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

	號	本保第五〇六號
	大正 年 月 日	大正 年 月 日
	大正三年 四月廿二日	大正 年 月 日
	立 案	受 領
	主任受領	文書課
	送 済	領 課
	校 正	浄 書

保安課長 ㊟

保安掛長 ㊟

警察本署長 ㊟

年月

警察本署長代理

桃園、新竹、臺南、阿緞廳長宛

人夫徴用ニ関スル件

本年実施ノタロコ蕃討伐軍隊所要ノ人夫トシテ貴廳下ヨリ徴用スヘキ豫定人員左記ノ通ニ有之候条御承知相

成度

右通知ス

左記

桃園廳 千八百人

新竹廳 二千二百人

臺南廳 二千人

阿緞廳 二千人

㊟

㊟

(二九) 電報案

[五七四二一〇二一七]

午后一時發送

本保第五一七號	大正 年 月 日	受文書額掛
號	大正 年 月 日	決済
	大正三年 四月廿四日	主任受領 立案

浄書印

校正

保安課長印

保安掛長印

警察本署長印

電報案

警察本署長

臺中廳長宛

土木局ニテ土城埔里社間道路改修ニ付貴廳ヨリ人夫四百名及取締トシテ巡查十五名来ル式七日土城ニ到着
 スル様供出セラルヘシ ○日給、及往復ノ手當並ニ携帶品ハ軍隊所要ノ人夫ト同シ ○出張中ノ食事ハ南
 投廳保甲ニ於テ供給準備ス ○出役期日ハ約二十日 ○汽車輸送ノ時間ハ土木局ヨリ通知ス ○警察官ノ
 配置ハ土木局員ノ指揮ニ從ハシメラレタシ

印

印

（三〇） 人夫徴用ニ関スル件 [五七四二一〇一五九]

本保第五一五號	大正 年 月 日	受文書領掛	浄書
號	大正 年 月 日	決 済	校 正
	大正三年 四月 廿四日	主任受領 立案	①

保安課長 ① 保安掛長 ①

警察本署長 ①

年月日

警察本署長代理

臺北宜蘭廳長宛

人夫徴用ニ関スル件

本年実施ノタロコ蕃討伐ニ付貴廳ヨリ花蓮港方面へ出役セシベキ人夫 ① 豫定人員 ① 豫定日時左記ノ通ニ有之候条豫メ御承知相成度

右通牒ス

左記

臺北廳ノ分

三千人

①

①

① ①

宜蘭廳分

壹千四百九十一人

壹千九百四十一人

終り

（三一）人夫徴集ニ関スル件 [五七四二一〇二六〇]

本保第四七五號

大正三年四月十七日

蕃務本署長事務取扱代理

警視 後藤 祐明

印

警察本署長殿

蕃庶々第二〇號

人夫徴集ニ関スル件

太魯閣討伐行動上必要ニ付キ左記ノ通り本島人人夫徴集方御取計相成度

追而給與ハ合議ノ上決定スヘク別ニ手續中

尚輸送期日ニ就テハ追テ合議ノ筈

左記

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

南投方面所要人員表 (警察費所属)									
廳名	警部	警部補	巡查	徴用人夫	備考				
臺北			二七	二七ノ内(二五)ハ桃園ニ (二七)ハ新竹ニ派遣ノコト					
桃園		一	二〇	一、八〇〇					
新竹		一	一五	二、二〇〇					
臺中	一	二	七〇	二、八〇〇					
嘉義		一	三八	一、四〇〇	此ノ外土エトシテ四〇〇名ヲ要ス				
臺南		一	六五	二、〇〇〇					
阿緞		一	六二	二、〇〇〇					
計	一	七	二七〇	一一、二〇〇					

〔※欄外記入〕本件ニ関スル照從ニハ本書ノ番号ヲ記入セラレタシ「保安課長(印)警察本署長」

面方投南			面方港蓮花		方面
合計	計	輸送	計	輸送	隊附
四、九八六	四五	四〇	四、九四一	三九〇	四、五五一
			五	同	同
			合歛山ニ集合		花蓮港ニ集合
			一日ノ平均人員ヲ示ス、本人夫ハ常時備入ヲ要セス 必要ニ應シ出役セシムルモノトス(一日最多人員約百人)		
					摘要

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徵用 (二) (前)

台北	本署	廳名	警部	警部補	巡查	工事	工夫	計	總計
二									
六九	二七								
一	一								
六九	二七								
九六	一								
	巡查二七ノ内一五ハ桃園二二二ハ 新竹ニ派遣スヘキモノ								

討伐應援人員表

計	花蓮港	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	臺中	新竹	桃園	宜蘭	臺北	本署	廳名
五	一						一	一	一	一			警部
				一	一	五	二	四	四	二	二		警部補
五六六			六二	六五	三八	六六	七〇	六六	七八	二八	九三		巡查
二		一							一				工事
九	三	一						一	一	一	一		工夫
六〇四	四	二	六三	六六	三九	七一	七三	七二	八五	三二	九六		計

討伐應援人員表

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

廳名	警部	警部補	巡查	工手	工夫	計	備考
本署					一	一	
臺北		二	六六		一	六九	
宜蘭		二	二八		一	三二	
桃園		三	五八	一	一	六四	
新竹	一	三	五一		一	五六	

花蓮港方面召集人員表 (警察費所屬)

計	花蓮港	台東	阿緞	台南	嘉義	南投	台中	新竹	桃園	宜蘭
一	一						一	一	一	一
一四八			一	一	一	四一	二	三一	三一	二
二九八	二九七		六二	六五	三八	六六	七〇	五一	五八	二八
二		一							一	
九	三	一						一	一	一
二九八	三〇六	四	二	六三	六六	三九	七〇	五六	六四	三二
六〇四	四	二	六三	六六	三九	七一	七三	七二	八五	三二
本表ノ外警視一名總督專屬トシテ 警察費所屬ヨリ附屬ノコト										

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

(三三二) 電報譯文 [五七四二一一〇二九三二]
 電報譯文

大正三年五月七日着

印

面方投南				面方港蓮花				花蓮港 南投	
合計	後方輸送 計	總督專屬員附 後方輸送	後方輸送 計	隊 附	内地職工	本島職工	内地人夫	本島人夫	蕃人人夫
五八	一	一	五七	五七	三三二	三三二	一八九	四、五五一	
三三一			三三一	一八〇	二二四	二二四	二二四	二二四	
二〇六	七	二	一九九	三九〇	四、九八一	四、九八一	二二四	二二四	
四、九八六	四五	四〇	四、九四一	四、五五一					
二二四			二二四	二二四					
五、四九六	五三	四二	五、四四三	四、八二九					
				計					

秘

計	花蓮港	臺東	南投
四	一		
一五			五
二六九			六六
二		一	
九	三	一	
二九九	四	二	七一

保安課長
警察本署長

閱了

本署長宛

南投廳長発

軍隊物資輸送用保甲人夫徴備方電報ニ接シタルモ目下當廳ニ於ケル準備行動ノ為メ埔里社眉溪間輕鉄工事六百名眉溪其他患者宿泊所建築工事百名サラマオ線延長前進工事百五十名霧社鞍部以北電話架設五十名電話材料其他糧食運搬三百名土城埔里社道改修六百名新城ギウトン間輕鉄附換工事百名南投集々道開鑿六百名使役中ニシテ尚ホ追分ゴウセンガン間及ヒボアルンキライシユ山ニ至ル電話架設無線電信設置等多數ノ人夫出役ヲ命シ居レリ其他合歡山及ヒキライシユ山ニ至ル電話架設無線電信設置等多數ノ人夫出役ヲ要シ到底本廳内ニ於テ徴募ノ餘裕無シ他廳ヨリ徴備方御取計ヒヲ乞フ

合計三千三百名出役シ居レリ

(三三)

電報案

〔五七四二一〇二九一〕

本保第六〇七號	大正 年 月 日	文書掛 受領
號	大正 年 月 日	決濟 發送
	大正三年 五月八日	主任受領 立案

浄書

印校正

保安課長

閱了

保安掛長

印

印

警察本署長 閱了

電報案

警察本署長

埔里社支廳 付

土屋經理部長宛

人夫四百名補欠要求セラレタル處此人夫ハ後方ノ者ヲ^①以テ補欠スルコト出来サルヤ非更ニ補欠出スコト、セバ補欠徴募上^②必要アルヲ以テ逃走シタル人夫ハ何ノ廳ノモノナルヤ折返シ返 ○更ニ補欠スルトセバ本日ヨリ七日間ヲ要スルヲ以テ御承知ヲ乞フ

(三四) 生蕃討伐軍隊所要人夫集会所及集合時間一覽表 (※台南廳)

〔五七四二一一〇三六六〕

生蕃討伐軍隊所要人夫集会所及集合時間一覽表			
集会场	集合日時	所要部隊	所要人員
眉溪	五月十八日午後四時 (五月十六日台中下車)	澎湖島白砲小队	一一二
	五月廿一日午後四時 (五月十八日台中下車)	山砲兵第二中队	三〇〇
總計			四二二
			四二二

備考 土城宿泊、埔里社宿泊、眉溪着

〔※欄外記入「台南廳ノ分」〕〔※新竹庁の分は論文篇二四頁に収録している〕

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

總計	二 八 水										集合場						
											集合時間						
南タロワン	五月二十一日 (五月一九日台中下車)			五月十六日 午後四時			五月十六日 午後四時			五月十三日 午後四時		所要人員					
經理部 倉庫	同	同	同	步兵第二聯隊第三大隊本部	第二守備隊司令部	同	同	同	同	步兵第二聯隊本部	機關銃隊	同	同	同	同	步兵第二聯隊第二大隊本部	計
	一、〇〇〇	五〇	五〇	五〇	五〇	三九	一〇	五〇	五〇	五〇	一〇〇	七〇	五〇	七五	五〇	五〇	四〇
	一、八三四	二〇〇			二九九			一九五			一四〇						

生蕃討伐軍隊所要人夫集合所及集合時間一覽表

(三五) 生蕃討伐軍隊所要人夫集合所及集合時間一覽表 (※阿緞廳)

〔五七四二一〇三六七〕

備考 五月一九日臺中へ下車スル一、〇〇〇人ハ同日土城宿泊廿日埔里社宿泊廿一日南タロワンへ
着

〔※欄外記入「阿緞廳ノ分」〕

（三六） 討伐軍隊輸送人夫所要数並ニ時期集合場一覽表 〔五七四二一一〇三七四〕

〔※保甲人夫請求書第五號別表〕

討伐軍隊輸送人夫所要数並ニ時期集合場一覽表〔※の部分、印刷不鮮明につき解説不能〕

部隊號	人夫集合地	集合期日	使用区域	所要人員	所要人夫内訳
歩兵連隊第一大隊本部 同第十一中隊 同第十二中隊 同機關銃小队	台中	五月十二日 午後四時	自台中 至目的地	一七五	本部 一〇 五〇 五〇 埔里社交付品 三五
憲兵隊	同上	五月十三日 同上	同上	三	
第一、二作業隊 第一、二衛生隊	同上	五月十三日 同上	同上	三五八	
第一、二電話隊 電信隊	同上	五月十六日 同上	同上	三六〇	第一電話 <input type="text"/> 電信 <input type="text"/>

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

歩兵第一連隊本部 同第五中隊 同第六中隊	同第一大隊本部 同第一中隊 同第二中隊 同機関銃小队	歩兵聯隊第二大隊本部 同第五中隊 同第七中隊	同第八中隊 同機関銃隊 同第六中隊	歩兵第二聯隊本部 同第四中隊 同第一大隊本部 同第二中隊 同第三中隊
台 中			二 八 水	
五月十七日 同上	五月十九日 同上	五月十三日 同上	五月十四日 同上	五月十六日 同上
同上	同上	自二八水 至目的地	同上	同上
一八〇	一七五	一四〇	一九五	二六〇 一三三〇
本部 第五中隊 第六中隊 埔里社交付品	本部 第一中隊 第二中隊 機関銃隊 埔里社交付品	第二大隊本部 第五中隊 第七中隊 埔里社交付品	第六中隊 第八中隊 機関銃隊 埔里社交付品	連隊本部 第二中隊 第三中隊 第四中隊 第一大隊本部 埔里社交付品
五〇 五〇 五〇 五〇 五〇	一〇 五〇 五〇 五〇	一〇 一〇 一〇 一〇	五〇 七〇 二五	五〇 五〇 五〇 五〇 一〇 五〇

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

澎湖島白砲小隊	基隆白砲中隊	第二 第四 第五 第六 患者輸送部	第三 第七 第八 患者輸送部	同第七中隊	同第十二中隊 同第十一中隊 同第九中隊 步兵連隊第三大隊本部	第二守備隊司令部
眉 溪		埔 里 社			二 八 水	
五月十八日 同上	五月十七日 同上	五月十六日 同上	五月十五日 同上	五月十五日 同上	五月十八日 同上	五月十六日 同上
同上	自眉溪 至目的地	同上	同上	自埔里社 至目的地	同上	同上
一一二	三〇〇	一一三	八三	六〇	二〇〇	三九
		埔里社交付品 第二 第四 第五 第六	埔里社交付品 第三 第七 第八	埔里社交付品 第七中隊	埔里社交付品 第十二中隊 第十一中隊 第九中隊 第三大隊本部	司令部 埔里社交付品
		二〇 一三三 □ □ □	□ 一三三 一三三 二四	一〇 五〇	四〇 五〇 五〇 五〇 一〇	九 三〇

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

山砲兵第二中隊	眉溪	五月二十日 同上	同上	三〇五三	
合計				三〇五三	

（三七）電報案

〔五七四二一〇四四九〕

第 號	大正 年 月 日	受文書領掛	淨書
號	大正 年 月 日	決済送	校正
	大正三年五月廿一日	主任受領立案	

保安課長 保安掛長(印)

(印)

警察本署長

電報案

警察本署長

臺中廳長宛

千七百名解隊ノ筈○

保甲人夫千五百名来ル廿六日霧社へ到着スル様徴用セラルヘシ ○人夫票ハ小包ニテ送ル○来ル二十四日

〔※欄外記入「取消シ(印)」〕

(三八) 軍隊専属出役人夫人員表

[五七四四—一〇三六五]

軍隊専属出役人夫人員表			
月日	出役人員	逃走人員	帰還人員
自五月十二日 至 十九日	三、〇五三		
五月廿五日	一六八		
			病死
			差引残
			三、〇五三
			三、二二一

(三九) 一 保甲人夫徴用ノ件
至急

[五七四三—一〇〇八一]

民警第一五二六號	大正三年六月十六日	文書課
號	大正三年六月十六日	領
號	大正三年六月十六日	決
號	大正三年六月十六日	送
號	大正三年六月十六日	主任受領
號	大正三年六月十六日	立案

校正 浄書

印

警察本署長 印 保安課長 印

警務課長 印

警察本署長 印

警務課長 印

年月日

民政長官 委任

總督 委任

年月日

民政長官代理

新竹、臺南廳長宛

保甲人夫徴用ノ件

生蕃討伐部隊所要人夫別紙第一表ノ通り徴用シ保甲人夫徴用規程第五條後段ニ依リ巡查、巡查補ヲ附スル外途中一般ノ取締ニ任スル為警部又ハ警部補一名ヲ附属セシメ第二表ニ依リ汽車輸送ヲ為シ霧社倉庫長ノ指示スル倉庫長ニ引渡可相成
右依命通達ス

終リ

（三九） 一二 保甲人夫徴用人員表

〔五七四三一一〇〇八二〕

第一表 保甲人夫徴用人員表		新竹廳	
霧社倉庫	到着月日	徴用人員	經路
六月	二十日	五〇〇人	六月十八日土城宿泊、十九日埔里社宿泊二十日霧社到着
備考 此ノ人夫ハ霧社ノ前方ニ使役スルモノナルヲ以テ霧社陸軍倉庫長ノ指示ニ依リ引渡地点迄警察官ヲシテ引率セシムルモノトス			

(三九) 一三 保甲人夫徵用人員表 [五七四三一〇〇八四]

第一表 保甲人夫徵用人員表		臺南廳	
霧社倉庫	到着月日	徵用人員	經路
六月	二十日	五〇〇人	六月十八日土城宿泊、十九日埔里社宿泊二十日霧社到着
備考 此ノ人夫ハ霧社ノ前方ニ使役スルモノナルヲ以テ霧社陸軍倉庫長ノ指示ニ依リ引渡地点迄警察官ヲシテ引率セシムルモノトス			

(四〇) 人夫出役方ノ件 [五七四三一〇三四六]

臺經庶第二七六號

人夫出役方ノ件

大正三年七月六日 臺灣總督府陸軍經理部長土屋善龜

臺灣總督府民政長官内田嘉吉殿

討伐軍隊へ補給スヘキ糧食品ハ紅毛田新竹間破壊橋梁ノ復膺ヲ待ツヲ得サル事情ノ為本日ヨリ汽車不通ノ箇所ヲ担送トシ急送致度候ニ就テハ該橋梁ノ復膺迄毎日人夫百參拾名宛(本日ハ午後五時迄)紅毛田ニ於テ受領シ得ル如ク御配慮相煩度及御依頼候也

追テ人夫賃金其他ニ付鉄道部トノ権衡モ有之本日部員ヲ現地及新竹廳ニ出張為致候間申添候

〔※欄外記入「電話ニテ新竹廳長へ通達済」〕

(四一) 電報案

[五七四三一〇五三一]

午後四時二十分發

本保第九四一號	大正 年 月 日	文書領掛
號	大正 年 月 日	決済
	大正三年 六月 廿七日	主任受領案
		立案
		校正
		淨書印

保安課長 保安掛長

警察本署長

電報案

警察本署長

臺北、桃園、新竹、臺中
臺南、阿緘、廳長 宛

討蕃軍隊所要所要人夫來 日 名ヲ徴用シ臺中駅ニ下車スル様供出セラレタシ○汽車輸送計畫上必要ニ
付人夫ノ乗車駅名及人員ヲ折返シ返電セラレタシ

臺北廳 六月三十日 五〇〇人

臺中廳 六月三十日 五〇〇人

一、七月三日 〇〇〇人

桃園廳 七月一日 五〇〇人

印

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

阿緬廳	七月一日	五〇〇人
臺南廳	七月二日	五〇〇人
臺中廳	七月四日	一、〇〇〇人
新竹廳	七月三日	十、〇〇〇人
	七月二日	五〇〇人

（四二）〔電報訳文〕 [五七四四—一〇〇〇四]

文譯電	答、討伐隊補充苦力ハ百名以上ニ達シタル補充方要求ノ件貴見通ニテ支ヘナシ 警察本署長 不在 警察本署長 不在 専 属 (サイン) 保安課長 警務課長 蕃務本署長 不在 庶務課長 理蕃課長 花蓮港廳長 蕃務本署長 受信人 七月六日 着信 午前 午後五時三〇分 發信人 日 時	譯文者
		花蓮港廳長 蕃務本署長 受信人
		發信人 七月六日 着信 午前 午後五時三〇分 日 時

(四三) (電報譯文)

[五七四四一〇〇〇五]

午後八時五〇分發

第 號	大正 年 月 日	文書掛 受領
號	大正 年 月 日	決濟 發送

淨書

校正

大正三年七月二日

主任受領
立案

理蕃課長

庶務課長 (花押)

專 属

蕃務本署長

警務課長

警察本署長

保安課長

花蓮港廳長宛

五名又ハ二、三十名ノ補充人夫ノ派遣方ヲ要求セラル、ニ於テハ各支廳ヨリ基隆迄ノ引率巡查ノ旅費等ノ異儀モアリ廳ニ於テモ迷惑尠カラサルニ付今後補充人夫ノ要求ハ百名以上ニ達シタルトキニ於テ要求セラル、コトニ總司令部ト交渉シ其ノ指引キ返

(※サイン)

印

印

〔四四〕（電報訳文） [五七四四—一〇〇〇七]

電 譯 文	蕃務本署長 庶務課長（花押） 課長 民政長官 專 属 總督	着信	七月二日	受信人	本署長	譯 文 者
		日時	午後一時二〇分	發信人	花蓮港廳長	
答補充人夫ハ宜蘭廳羅東支廳四、臺北廳錫口支廳三、臺北五、基隆支廳四、新店支廳三、枋橋支廳二、瑞芳支廳二、深坑支廳一、金包里支廳二、頂双溪支廳八、計三三名ナリ 三四〇一						

〔四五〕 人夫名簿ニ関スル件 五七四四—一〇〇七—

本保第一〇四二號	大正 年 月 日	文書掛領	淨書印
號	大正 年 月 日	決濟	校正
	大正三年七月十一日	主任受領	

保安課長（花押） 保安掛長
 警察本署長 不在

年月日

警察本署長

桃園、新竹廳長宛

人夫名簿ニ関スル件

自今貴廳下ヨリ討蕃ノ為メ出役スル人夫ハ宜蘭及花蓮港廳下へ派遣スルコト、相成候ニ付テハ蕃務本署ノ請求ニ依リ本記様式ノ人夫名簿ヲ調製シ人夫ト共ニ宜蘭廳又ハ花蓮港廳へ引渡スコトニ相成候条御承知相成度右通知ス

様式

人夫名簿

警察官吏 派出所名				住 所		姓 名		年 齢	
何 派		警 察		第何保	第何甲	何 某		何 才	
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

注意 住所ト募集保トヲ異ニスル場合ハ第何保募集ト記入スヘシ

〔※欄外記入「至急」〕

㊟

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

(四六) 人夫徴用豫定人員ノ件 [五七四四—一〇〇七三]

本保第一〇四三號	大正 年 月 日	文書領掛
號	大正 年 月 日	洪濟
	大正三年七月十三日	發送
	大正三年七月十一日	主任受領立案
		校正
		淨書 ^①

保安課長 (花押) 保安掛長 ^①

警察本署長 [不在]

警務課長^①

年月日

警察本署長

各廳長宛 (花蓮港廳臺東廳長ヲ除ク)

人夫徴用豫定人員ノ件

貴廳下ヨリ今後保甲人夫

名討蕃隊物資輸送ノ為徴用ノ豫定ニ有之候条御承知置相成度

右通知ス

終リ

臺北廳 五、五〇〇名

宜蘭廳 二、五〇〇名

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

（四七）（電報訳文） [五七四五―一〇一三四]

計	澎湖廳	阿緞廳	臺南廳	嘉義廳	南投廳	臺中廳	新竹廳	桃園廳
四〇、〇〇〇名	八〇〇名	三、〇〇〇名	六、〇〇〇名	六、二〇〇名	三、〇〇〇名	六、〇〇〇名	四、〇〇〇名	三、〇〇〇名

總督 民政長官 警察本署長 蕃務本署長 理蕃課長 蕃務課長 專属	着信	七月廿八日	受信人	本署長	譯文者 ①
	日時	午前十時四十分	發信人	宜蘭廳長	

電 譯 文

後方ニ於ケル物資陸送ハ運搬券ヲ用フルコト、シ製腦會社南田ヲシテ其ノ人員ヲ供出セシメタル二十三名一回三十名一回使用シタルノミニテ同人ヨリ供出困難ノ事情ヲ申出デ之ヲ拒絶シ来レリ且ツ運搬券制度ノ人夫ハ實際ニ於テ其ノ人員不足ニシテ確實ナル輸送計画ヲ為スコト能ハザルニ付保甲人夫ヲ使用スルノ止ムナキヲ認ム目下後方輸送隊ニ属スル保甲人夫ハ五百六十一名ニシテ内百十名ハ後方電話電信線架設ニ充用シ約一割ハ身体虚弱運搬ニ堪ヘザルヲ以テ担送実員ハ四百名内外ニ過ギス内地人夫百五十八名アルモ担送ニ適セス漸次解備シテ汽船ノ荷役及各倉庫ノ整頓ニ従事セシムル人員ニ止メントス就テハ現在第二長仁丸ヲ使用シ居ルモ浪速方面波浪高ク陸揚ヲ為スコト能ハザルコト今日迄既ニ二回之方為メ討伐隊ノ要求ニ應ジ得ベキ物資ヲ輸送スルコト克ハス隊ノ行動上ニ影響スルノ遺憾ナシトセズ且ツ交通途絶ノ場合ヲ顧慮シ此際保甲人夫八百名大至急御派遣相成タシ此人夫増員ハ南湾ニ物資集積ヲ終タル時期ニ於テ減員スル見込

陸送ノ場合ニ於ケル人夫監督巡查ハ現在員ニテハ既ニ不足ト認ムルヲ以テ本件人夫増員ト共ニ警部補一、巡查十八名（内八名ハ警手ニテモ支ナシ）應援トシテ御派遣相成タシ

〔四八〕（電報訳文） [五七四五—一〇二〇二]

電報譯文	着信	七月卅拾日	受信人	蕃務本署長	譯文者
	日時	午後六時十五分	発信人	宜蘭廳長	
<p>民政長官 蕃務本署長(印) 理蕃課長 蕃務課長 專 属 保安課長 千四百人派遣ヲ要ス(印)</p> <p>永田討伐隊長ヨリ左記ノ通り人夫増員要求アリ御派遣相成度○各隊ノ前進ト共二人夫増加ヲ要求シ置キタル本嶋人夫四七二〇ノ内本月二十四日蘇灣ニテ三一三一ヲ受取りタルニ付残り一四八九ヲ八月二日迄ニ浪速ニ到着スル様御派遣相成度</p>					

〔※欄外記入〕「要求ノ人夫供出ノコトニ取計ヒ可然哉仰御決裁」

⑦ 人夫輸送

〔四九〕 軍夫輸送ニ関スル件 [五七四二—一〇二八〇]

本保第五四四號

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

嘉警保第三四九五號ノ二十一

大正三年四月二十八日

嘉義廳長 津田毅一印

民政部警察本署長殿

軍夫輸送ニ関スル件

大正三年度タロコ蕃討伐陸軍部隊所屬保甲徴用人夫ノ輸送ニ就テハ阿里山作業所々屬鐵道及私營鐵道ニ関シテモ徴用規程第十五條ニ準シ左記ノ通り假乗車証ヲ發行シ輸送セシメ候條鐵道部ト同様陸軍經理部ニ於テ承認方御交渉相成度
右照會ス

記

所屬鐵道名	駅名	人員
阿里山作業所々屬鐵道	自竹頭崎駅 至嘉義駅	五〇
明治製糖會社蒜頭第二工場鐵道	自港崁駅 至嘉義駅	五〇
同	自朴仔脚駅 至嘉義駅	一〇〇
北港製糖會社鐵道	自下湖口駅 至嘉義駅	五〇
同	自北港駅 至嘉義駅	一五〇

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

大日本製糖會社鉄道

自土庫駅
至他里霧駅

五〇

塩水港製糖會社鉄道

自塩水港駅
至新宮庄駅

四二

以上

（五〇）人夫輸送通知ノ件 〔五七四二一〇三一二〕

本保第六二二號	大正 年 月 日	文書掛 受領	淨書
號	大正三年 五月九日	決濟 發送	校正
	大正三年 五月九日	主任受領 立案	

印

印

保安課長 印 保安掛長

警察本署長 印

年 月 日 警察本署長代理

臺中廳長宛

人夫輸送通知ノ件

生蕃討伐所要人夫別表（※）ノ通り輸送候条下車駅ニ於テ雑踏セサル様相當取締相成度
右通知ス

〔※欄外記入「至急」〕

〔※別表は論文篇二五頁に収録している〕

（五一）生蕃討伐所要人夫徴用人員及輸送計画表

〔五七四二一一〇三九七〕

終り

生蕃討伐所要人夫徴用人員及輸送計画表						
月日	乗船地	船名	出帆時間	上陸地	徴用人員	引渡先
五月廿二日	基隆	天長丸	廿三日午後六時	花蓮港	一、五〇〇	花蓮港廳
五月廿三日	同	安平丸	廿三日午後六時	同	五〇〇	同
五月廿三日	同	基隆丸	同	同	五〇〇	同
計	同	小倉丸	同	同	三、〇〇〇	同

〔※欄外記入「台北へ」⑩〕

（五二）電報訳文 〔五七四二一一〇四三九〕

⑩

五月二十三日

嘉義廳長

警察本署長宛

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

電報訳文

答、人夫ハ二十六日

斗六駅 二〇〇

打猫駅 五〇

嘉義駅 二〇〇

新營庄駅 五〇

ヲ乗車セシメ二十七日

他里霧駅 一〇〇

嘉義駅 一〇〇

ヲ乗車セシム

（五三） 生蕃討伐所要人夫徴用人員及輸送計画表

〔五七四二一一〇三九六〕

生蕃討伐所要人夫徴用人員及輸送計画表						
月 日	乗船地	船名	出帆時間	上陸地	徴用人員	引渡先
五月二十四日	蘇澳	天長丸	廿四日午後十二時	花蓮港	九四一	花蓮港廳
同二十五日	同	奉天丸	廿五日午後十二時	同	五〇〇	同
同二十六日	同	小倉丸	廿六日午後十二時	同	五〇〇	同
計					一、九四一	

〔※欄外記入「宜蘭」印〕

(五四) 人夫汽車輸送表 [五七四二—一〇四二四]
 第二表

人夫汽車輸送表		嘉義廳	
月日	發着時間	乘車 下車 駅名	乘車 下車 人員
五月廿六日	午前四時十五分發	新營庄	五〇人
〃	同六時五十分發	嘉義	二〇〇人
〃	同六時廿五分發	打猫	五〇人
〃	同七時十分發	斗六	二〇〇人
〃	同十時四十分着	台中	(下車) 五〇〇人
五月廿七日	同十時廿分發	嘉義	一〇〇人
〃	同十一時十分發	他里霧	一〇〇人
〃	午後一時五十五分着	台中	(下車) 二〇〇人
備考	人夫二昼食ヲ携帶セシメルタルヘシ		
臨時列車トス			
		摘要	

(五五) 人夫汽車輸送表 [五七四二—一〇四二五]
 第二表

人夫汽車輸送表		臺南廳	
月日	發着 時間	乘車 下車 駅名	乘車 下車 人員
五月廿六日	午前四時五十四分發	鳳山	七八
		摘要	

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

備考 人夫ニハ昼食ヲ携帯セシメラルヘシ	◇	午後一時五十五分着	台中	(下車) 三〇〇人
	◇	◇ 午前八時四十分	香仔田	一三〇
	◇	◇ 午前八時廿分	洪裡	三三
	五月廿七日	午前七時廿五分發	台南	一三七
	◇	午後一時五十五分着	台中	(下車) 五〇〇
	◇	◇ 八時五十四分	林鳳營	二二
	◇	◇ 八時四十分	香仔田	七一
	◇	午前八時廿分	洪裡	二二
	◇	◇ 七時五十九分	新市街	三九
	◇	◇ 七時廿五分	台南	四四
	◇	◇ 七時一分	車路崁	一五
	◇	◇ 六時四十六分	大湖街	三二
	◇	◇ 六時三十七分	半路竹	一三
	◇	◇ 六時廿一分	阿久店	四四
◇	◇ 六時十一分	橋仔頭	三一	
◇	◇ 六時	楠梓坑	四三	
◇	◇ 五時四十四分發	旧城	一六	
◇	◇ 五時三十分發	打狗	三〇	
臨時列車トス				

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

（五六） 一 保甲人夫徴用ノ件 [五七四三一〇〇一二]

□ □ 第一三九二號	大正三年六月四日 文書課 受領	淨書
第 號	大正三年六月四日 決了 了裁	校正
第 號	大正三年六月四日 發送	

大正三年 月 日 主任受領
 六月四日 立案

警察本署長 不在

保安課長 印

警務課長 印

民政長官 委任

總督 委任

年月日

民政長官代理

臺中、嘉義廳長宛

保甲人夫徴用ノ件

生蕃討伐部隊所要人夫別紙第一表ノ通り徴用シ保甲人夫徴用規程第五條後段ニ依リ巡查、巡查補ヲ附スル外途中一般ノ取締ニ任スル為警部又ハ警部補一名ヲ附属セシメ第二表ニ依リ汽車輸送ヲ為シ到着地ニ至リ同地駐在ノ陸軍經理部員ノ指示スル倉庫長ニ引渡可相成

右依命通達ス

印

〔※欄外記入「至急」〕
 〔※台中庁の第一表第二表は論文篇二六・二七頁に掲載〕

第一表
 (五六) 一 二 保甲人夫徴用人員表
 〔五七四三—一〇〇一五〕

保甲人夫徴用人員表		嘉義廳	
到着月日	到着地	徴用人員	適 用
六月九日	霧社鞍部	一、〇〇〇人	六月七日土城宿泊八日埔里社宿泊九日霧社鞍部へ到着
備考 此ノ人夫ハ霧社ノ前方ニ於テ使役スルモノニシテ何ノ地ニ於テ引渡ラ了スルモノナルヤ不明ニ付霧社駐屯ノ經理部員ノ指示ニ依リ引渡地点迄警察官ヲシテ引率セシムルモノトス			

第二表
 (五六) 一 三 保甲人夫汽車輸送時間表
 〔五七四三—一〇〇一六〕

保甲人夫汽車輸送時間表				嘉義廳	
乗 車	時 間	下 車	人 員	摘 要	
六月七日	午前五時四十分発	嘉義	四〇〇人	普通列車嘉義発上り一番	
同	同五時五十九分着	打猫	一〇〇人		
同	同四時廿三分発	台中	(下車)五〇〇		
同	同四時十五分発	新営庄	一〇〇		
同	同四時廿三分	后壁寮	一〇〇		

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

同	同六時五十五分	他里霧	一〇〇
同	同七時十八分	斗六	二〇〇
同	同十時四分着	台中	(下車) 五〇〇人

注意 人夫及引率警察官ハ昼食ヲ携帯セシメラレタシ

臨時列車

(五七) 保甲人夫之件

[五七四三一〇〇九一]

新保第三四七号ノ二

大正三年六月十四日

本保第八三〇號

新竹廳長家永泰吉郎印

民政部警察本署長亀山理平太殿

保甲人夫之件

来ル十八日出発セシムヘキ保甲人夫ハ左記ノ通りニ有之候条乗車時刻御通知相成度候也

左記

課支廳別	人夫人員	乗車驛名
警務課	九四	新竹
新埔	五七	紅毛田
樹杞林	三六	新竹
北埔	三〇	新竹

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

頭份	五七	中港
後壠	四五	后壠
苗栗	五六	苗栗
大湖	四一	苗栗
三叉河	三〇	三叉河
通霄	五四	銅鑼灣
計	五〇〇	

（五八）（人夫徴用の件）

〔五七四三一—一〇五二八〕

民ケ第一六二九號	大正三年六月二七日	文書課 受領
第 號	大正 年 月二七日	決裁
第 號	大正三年六月二七日	發送

校正 浄書

大正三年六月廿七日 主任受領
立 案



警察本署長 閱了

保安課長 閱了

民政長官 委任

總督 委任

年月日 民政長官代理

臺北、桃園、新竹、臺中

臺南、阿緱 廳長

討蕃軍隊所要人夫別紙別表（※）ノ通り徵用シ保甲人夫徵用規程第五條後段ニ依リ巡查巡查補ヲ附スル外輸送途中一般ノ取締ニ任スル為警部又ハ警部補一名ヲ附属セシメ汽車輸送ヲ為シ到着地ノ陸軍經理部員ヘ引渡可相成

右依命通達ス

追テ汽車輸送時間ハ後ヨリ通達ス

終リ

〔※欄外記入「至急」〕

〔※通達文中にある別表は論文篇二八頁の表6に収録〕

（五九）電報案 「五七四三一一〇四四九」

午後三時半發送

第 號	號	大正 年 月 日	受文書掛
	號	大正三年七月一日	決濟
		大正三年七月一日	發送
		大正三年七月一日	主任受領
		立案	

印

淨書

校正

印

保安課長 印 保安掛長 印

警察本署長 不在

電報案

警察本署長

南投廳長宛

烏溪増水交通途絶ニ付爾今人夫ヲ員林ニ下車セシメ南投集々ヲ經オ埔里社ニ向ヒ出發セシメントス印其ノ経路及宿泊地ハ何ヲ適當トスルヤ直ク返但シ員林ノ下車時間ハ午後二時ノ豫定

終リ

〔※欄外記入「後認」〕

(六〇) 電報譯文 [五七四三一〇四七二]

大正三年七月一日

印

臺中廳長

警察本署長殿

電報譯文

昨夜來濁水溪増水ノ結果二八水桶仔間鉄道線路ニ破損ヲ生シ本日一番列車ヨリ運轉ヲ中止セリ破損ノ場所ハ今取調中

〔※欄外記入「保安課長、警察署長印」〕

(六一) 電報譯文 [五七四三一〇四八一]

大正三年七月一日

印

臺中廳長

警察本署長殿

電報譯文

臺北廳出役人夫五百名ハ午後二時臺中着健康診断ノ結果二十五名不合格トナリ他ハ悉ク暴風雨ヲ犯シ直チニ土城ニ派遣出發セシメルモ出水ノ為烏溪ノ仮橋流失シタルヲ以テテツバイニ乗セ又ハ輕鉄線路ノ橋梁ヲ臺車ニテ約二百八十八先方ニ渡タルモ風荒ク雨激シ烈シキ為残り三百名ハ遂ニ渡渉スル事能ハス依テ止ムナク万斗六ニ收容セリ明早朝ハ如何トカシテ渡渉セシムル筈

〔※欄外記入「保安課長㊦警察本署長不在」〕

（六二）電報譯文 〔五七四三一—〇四五〇〕

大正三年七月二日

㊦

臺中廳長

警察本署長宛

電報譯文

昨夜マン斗六ニ收容セシ臺北廳出役人夫ハ總計二百二拾二名ナリマン斗六臺中間ノ交通モ途絶セルヲ以テ今尚同地ニ滞在中

〔※欄外記入「保安課長㊦警察本署長不在」〕

(六三) 電報案 [五七四三一〇四三〇]

午前九時十五分発

本保第九七六號	大正 年 月 日	受文書領掛
號	大正三年七月三日	決済
	大正三年七月三日	主任受領案

浄書[㊦]

校正

後認 保安課長[㊦] 保安掛長 [㊦]

警察本署長 不在

電報案

警察本署長

臺南廳長宛

來ル四日貴廳ヨリ供出セラルヘキ人夫一、〇〇〇名ハ豫テ通知シタル時間ノ通汽車輸送セラレタシ ○五百名ノ輸送ハ[㊦]曲時小東ニ通知ス來六日輸送セラルヘシ[㊦]某乗車時間ハ豫テ通知シタル通り

(六四) 新募帰還人夫輸送計画一覽表 [五七四四一〇二八〇]

新募 帰還 人夫輸送計画一覽表

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

計	船名	往航		復航				
		輸送人員	基隆発 日時	花蓮港着 日時	輸送人員	花蓮港発 日時		
四、〇〇〇	奉天丸	一	七月廿五日 午後六時	七月廿六日 朝	五、〇〇〇	七月廿七日 朝	七月廿八日 午後二時	○
	安平丸	六五〇	七月廿五日 午後六時	七月廿六日 朝	七〇〇	七月三十一日	八月一日 午前五時	
	小倉丸	一、〇〇〇	七月廿八日 午後八時	七月廿九日 朝	九〇〇	七月三十日	八月一日 午前五時	
	長春丸	一	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	二五〇	七月廿八日	七月廿九日 午後二時	○
	撫順丸	六五〇 木七五	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	一	七月廿八日	七月廿九日 午後二時	
	安平丸	七〇〇 木七五	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	七〇〇	七月廿八日 午後二時	七月廿九日 午後二時	
	奉天丸	一	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	四五〇	七月廿八日 午後二時	七月廿九日 午後二時	
	小倉丸	一、〇〇〇	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	九〇〇	七月廿八日 午後二時	七月廿九日 午後二時	
	撫順丸	一	七月廿八日 午後六時	七月廿九日 朝	六〇〇	七月廿八日 午後二時	七月廿九日 午後二時	
	船名							

(六五) 帰還人夫輸送計画表 [五七四五—一〇二三一]

計		花蓮港発		基隆着		船名	所 属 廳			備 考
		日 時	日 時	日 時	台北廳		宜蘭廳	計		
	七月三十日夜半	七月三十一日午後二時	小倉丸	三二〇	三一〇	六三〇	蘇澳二寄港ス			
	〃三十一日夜半	八月一日午後二時	長春丸	三四五	三五	三八〇	〃			
	〃	〃	安平丸	二四六	二五四	五〇〇	〃			
	八月二日夜半	八月三日午後二時	奉天丸	二四四	二〇三	四四七	〃			
	〃三日夜半	〃四日午後二時	小倉丸	五八四	一	五八四	〃			
				一、七三九	八〇二	二、五四一				

(六六) 討伐軍隊及人夫輸送計画

[五七四六一〇一七五]

討伐軍隊及人夫輸送計画

陸軍運輸部基隆支部

船名	乗船人員	乗船地	乗船月日	揚陸地	揚陸月日
長春丸	人夫三七八名	花蓮港	八月二十八日	打狗	八月三十日
奉天丸	人夫五〇〇名	同右	八月三十一日	基隆	九月一日
長春丸	人夫六五〇名	同右	九月一日	同右	九月二日
長春丸	基隆行殘餘ノ人員	同右	九月十日	同右	九月十一日
長春丸	人夫八〇〇名	同右	九月四日	打狗	九月七日
福岡丸	軍隊將校 四 下士卒九四	同右	九月十日	卑南	九月十一日
福岡丸	人夫四〇〇名	同右	九月一日	打狗	九月三日

備 一、人員ハ増減スルコトアルヘシ

二、食事ハ乗船日ノ昼食ハ携行シ揚陸ノ際ハ船内ニテ一食分準備携帶ノコト

考 三、船積ニ餘裕アルトキハ警察隊ノ協議ニ依リ該隊人夫ヲ乗船セシムル事ヲ得

右ノ外九月二日花蓮港發同月四日打狗着能登丸ニハ人夫二百五十名以内ヲ輸送スルコトヲ得又夕九月十日花蓮港發同月十二日打狗着福岡丸ハ船載ニ餘裕アルヲ以テ當日人夫アルトキハ之ヲ輸送スルコトヲ得

摘要

⑧ 人夫出役に関する通達

（六七） 保甲人夫ニ関スル件 「五七四二一一〇四〇六」

本保第五〇八號	大正 年 月 日	受文書額掛	浄書印
	大正 年 月 日	決 済	
	大正三年 四月 廿二日	主任受領 立 案	印校正

保安課長印 保安掛長

警察本署長印

年月日

警察本署長代理

各廳長宛（澎湖、花蓮港、臺東廳長ヲ除ク）

保甲人夫ニ関スル件

本年実施ノタロコ蕃討伐ニ付徴用スル人夫ハ討伐終了スル迄交代セシメサル筈ニ有之候条最モ身体強壯ナル者ヲ選抜徴用可相成

右通牒ス

追テ保甲ニ對シテハ交代セサル旨明示セサル方徴用上便宜ト被存候条御含置相成度為念申添候

終リ

「※欄外記入「至急」」

印

（六八）人夫携帯品ノ件 [五七四二一〇二五四]

本保第五二九號	大正 年 月 日	受文書領掛
號	大正 年 月 日	決濟
	大正三年 四月 廿七日	主任受領 立案
		校正

保安課長[㊟] 保安掛長

警察本署長 委任

年月日

警察本署長代理

桃園各廳長宛（臺中、嘉義、澎湖、花蓮港、臺東廳長ヲ除ク）

人夫携帯品ノ件

人夫携帯品ノ件ニ付テハ曩ニ及通知置候處尚ホ左記ノ物品携行セシ[㊟]ト[㊟]メラレ度

右通報ス

左記

一水筒、 臺灣刀、

終リ

〔※欄外記入「至急」〕

(六九) 人夫使役上ニ関シ通牒 [五七四二—一〇三一]

臺經庶第三九一號 ㊦

㊦ 人夫使用上ニ関シ通牒

大正三年五月五七日 臺灣總督府陸軍經理部長土屋善亀

各倉庫長宛

㊦

人夫傭役ニ関シ今般台副第三〇号ヲ以テ通牒相成候ニ就テハ各倉庫ニアリテモ之カ使用上ニ関シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ苛酷ニ失セサルハ勿論或ル程度迄ハ愛撫的使役ヲナスニ努メ以テ豫期以上ノ好果ヲ収メラレ度近ク某二、三倉庫ニ於テ人夫ノ殴打事件アリタルノ報告ニ接セリ而テ其原因ハ何レモ内地人夫ノ彼等ヲ苛酷ニ遇スルニ基クモノ、如シ将来内地人夫ニ對シテハ一層其取締ヲ嚴重ニナシ爾後断シテ斯ル所爲無之様注意相成度候也

〔※欄外記入「保安課長㊦警察本部長㊦專屬技官」〕

(七〇) 人夫使役ニ関スル件通牒 [五七四二—一〇三一〇]

臺副臨第三〇號

㊦

㊦ 人夫使役ニ関スル件通牒

大正三年五月九日 臺灣總督府陸軍參謀長木下宇三郎

㊦ 各部隊長各倉庫長宛

㊦

討伐軍隊ニ要スル輸送荷物ハ全部之ヲ人夫ノ擔送ニ依ルヲ以テ蕃地ニ於ケル人員ハ唯一ノ輸送機關ナリトス然レ共傭役中ニ於テ逃亡者ノ続出スルハ從來多クノ実例ヲ見ル處ニシテ之カ原因ハ蕃害ヲ怖ルルニ依ルモノ

アリト雖モ又以テ使役ノ方法ノ誤レルニ起因スルモノナシトセス假令ハ言語不通ヨリ相互意志ノ疎通ヲ欠キ為ニ徒ニ之ヲ毆打又懲戒スルカ如キ之レアリ而シテ今回ノ討伐行動ノ如キ比較的多數ノ人夫ヲ使役スルニ當リ其ノ取扱苛酷ニ失シ為ニ逃亡者ヲ出シタリトセンカ延テ輸送上ニ大ナル蹉跌ヲ来タシ豫期ノ行動を採ル能サルニ至ル場合ナシトセサルヲ以テ之カ使役ニ関シテハ特ニ注意ヲ払ハレ度右通牒候也

〔※欄外記入「保安課長㊦警察本署長專屬技官㊦」〕

（七一）保甲人夫徴用ニ関スル件通牒 〔五七四二—一〇四〇五〕

臺經庶第一八七號

㊦ 保甲人夫徴用ニ関スル件通牒

大正三年五月十九日 臺灣總督府陸軍經理部長土屋善龜㊦

臺灣總督府民政長官内田嘉吉殿

目下各部隊へ交付シアル隊附專屬人夫ハ体質概シテ羸弱ニシテ定量ノ擔送ニ堪ヘサルノミナラス各自ノ攜帶品多量ニシテ一層負擔力ヲ減殺セシムル為メ部隊ヨリ苦情續出スルノミナラス行動ニ支障ヲ来スコト尠ナカラス候間将来ノ募集ニハ如斯者出ササル様御注意相煩度候也

（七二）保甲人夫徴用ニ関スル件 [五七四二一一〇四〇三]

本保五〇八號ノ一	大正 年 月 日	受文書領掛
號	大正 年 月 日	決済送校正
	大正三年五月廿日	主任受領立案

保安課長 保安掛長

警察本署長

年月日

警察本署長

桃園、新竹、臺中、嘉義、

臺南、阿緱廳長 宛

保甲人夫徴用ニ関スル件

討蕃軍隊所要保甲人夫徴用方ニ関シテハ本年四月二十二日付本保第五〇八號ヲ以テ身体強壯ナル者ヲ徴用相成様通牒致置候ニ付右ノ趣旨ニ依リ徴用セラル、事トハ被存候得共今回陸軍部ヨリ軍隊専属ノ人夫ハ概シテ羸弱ニシテ定量ノ擔送ニ堪ヘサル者有之且ツ各自ノ携帶品多量ニシテ負担力ヲ減殺セシムル為部隊ヨリ苦情有之趣通報有之候付テハ将来人夫徴用ニ際シテハ一層御注意相成様致度

右通牒ス

印

(七三) 電報案 [五七四二一〇四五]

本保第五二九號	大正 年 月 日	文書掛 受領	浄書
	大正 年 月 日	決濟 發送	校正
	大正三年五月廿三日	主任受領 立案	

保安課長 保安掛長

警察本署長 不在

警察本署長

南投廳長宛

二十三、后一時四十分發送ス

電報案

土城ニ於ケル陸軍ノ倉庫ハ廿四日限り引揚ケニ付自今同地ヲ通過スル人夫ノ宿泊及食事ハ警察官吏監督ノ下ニ保甲ヲシテ供給セシメラルヘシ其食料ハ一食七錢ニシテ給與後直チニ埔里社經理部ニ於テ支拂ヲ為ス人夫ノ宿泊所ハ陸軍ニテ設備シタルモノヲ使用セラルヘシ

来ル二十五日廿六日廿七日ノ三日間毎日一千人宛二十八日五百人ノ人夫土城へ宿泊シ霧社へ向ヒ出發ニ付同日ノ夕食翌日ノ朝食及昼食ヲ供給セラルヘシ○解隊帰還スル人夫人員ハ埔里社經理部員ヨリ草鞋墩支廳長ニ

終り

通報ス帰還者ノ食料ハ人夫引率ノ警察官ヨリ受領セラルヘシ

(七四) 对蕃出役人夫調査ノ件 [五七四四一〇一二四]

本保第七一二號	大正 年 月 日	文書掛 受領	浄書
號	大正 年 月 日	決濟 發送	校正
	大正三年 五月 二七日	主任受領 立案	

保安課長 (印) 保安掛長 (印)

警察本署長

年月日 警察本署長名

臺北、宜蘭、桃園、新竹、臺中、南投、嘉義、臺南、阿緞ノ各廳長宛

对蕃出役人夫調査ノ件

調査上必要有之候条对蕃出役人夫五月三十一日マテノ実況左記様式ニ依リ調査ヲ遂ケ六月一日發ニテ通報相成度而シテ本件通報ハ尔今行動中毎月十五日開簿及月末ニ提出相成様致度

右通牒ス

(印)

(印)

年月日

警察本署長名

各廳長宛 (臺東、花蓮港、澎湖廳ヲ除ク)

保甲人夫徴用方ニ関スル件

討伐ニ要スル保甲人夫ハ身体強壯ナル者ヲ徴用スルコトニ相成居候處往々阿片療者等アリテ目的地ニ到着スルモ直ニ勞働ニ堪ヘサル者多々有之候趣ニ付尔今保甲人夫ニハ阿片療者ヲ徴用セサルコトニ御配意相成度為念右通牒ス

追テ人夫引率警察官吏ノ注意不充分ナル為往々人夫離散シ到着地ヲ誤リ宿舍及食事給與上困難ニ陥リシモノアリシ趣是又尔後出發ニ際シ引率官吏ニ御注意相成度申添候

終

(七六) 保甲人夫ニ関スル件 [五七四三一—〇〇四一]

本保第七七一號	大正 年 月 日	文書掛 受領
號	大正 年 月 日	決濟 發送
	大正三年 六月 六日	主任受領 立案

浄書

校正

保安課長 保安掛長

警察本署長 不在

警務課長

年月日

警察本署長

陸軍經理部長宛

保甲人夫二関スル件

討蕃軍隊所要保甲人夫ハ身体強壯ニシテ担送ニ堪ヘ得ル者ヲ選抜徴用シ阿片吸食者ハ将来徴用セサルコト客月十日[㊦]十七日及本月一日付ヲ以テ各廳長へ通牒致置候ニ付爾今各廳ヨリ供給スル人夫ニシテ身体虚弱ナル者ヲ供出シタルトキハ其都度所屬廳及支廳名並人員通報相成様致度而シテ目下出役中ノ人夫ノ狀況ニ依レハ副食物ニ脂肪類ナキ為[㊦]漸次衰弱スル模様有之候ニ付副食物ニハ毎日脂肪類（豆油類ナキ差支ナシ）ヲ給與相成候ハ人夫ノ健康[㊦]維持上[㊦]好都合ト被存候条最モ必要ト被認候条可然御取斗相煩度
右照會ス

〔※欄外記入「至急」〕

（七七）人夫徴用規程ニ関スル件 [五七四三一〇〇五七]

本保第八〇五號	大正 年 月 日	文書掛 受領
號	大正 年 月 日	決濟 發送
	大正三年 六月 十一日	主任受領 立案

淨書[㊦]
校正

保安課長[㊦] 保安掛長

㊦

警察本署長 不在

警務課長 印

年月日

警察本署長

桃園、新竹、台中、南投
廳長 宛

嘉義、台南、阿緘

人夫徴用規程ニ関スル件

討蕃軍隊所要保甲人夫ヲ引率スル警察官ニシテ保甲人夫徴用規程ヲ知ラサル 印 者多ク為カ人夫ノ賃金、日當及食料ノ支給額ヲ承知セサルニ依リ往々埔里社陸軍倉庫長 印 井於サヨリ現金ノ支払ヲ受クルニ當リ其ノ計算ニ行違ヲ生ルルシタル 印 虞聞有之候条自今人夫取締トシテ出張スル警察官ニハ保甲人夫徴用規程ヲ熟知セシメラレ度
右通牒ス

終り

〔※欄外記入「至急」〕

（七八）討蕃用人夫二千スル件

〔五七四三―一〇三四三〕

南警ホ第二九四十號

大正三年六月三十日

本保第九八五號

南投廳長 石橋亨 印

警察本署長殿

討蕃用人夫二千スル件

各廳募集ニ係ル軍用人夫ニシテ廳下土城ニ宿泊食事ヲ供給スベキモノハ夫々へ前以テ通知有之候處今般該徵用人夫ニ對シ臺中廳ニ於テ体格検査ノ上合格者ノミ派遣ノ事ニ相成候哉ニ付テハ自然豫報人夫數ニ異動ヲ生ジ食事準備上不都合ヲ來シ候條爾今検査ニ合格シタル派遣人員ハ臺中廳ヨリ電話ヲ以テ所轄草鞋墩支廳へ直接通知セシムル様御取斗相成度
右及照會候也

（七九）陸軍倉庫付警察官へ訓示ノ件

〔五七四四一〇一二八〕

本保第一〇五六號	大正 年 月 日	文書掛 受領
號	大正 年 月 日	決裁 發送
	大正三年 七月十五日	主任受領 立案

浄書印

校正

保安課長印

保安掛長

警察本署長 不在

警務課長印

年月日

印

印

警察本署長

臺北、桃園、新竹、臺中

廳長宛

南投、嘉義、臺南、阿緘

陸軍倉庫付警察官へ訓示ノ件

大正三年七月十五日陸軍倉庫付警察官へ対シ別紙ノ通訓示致置候条御承知相成度
右通知ス

訓示案

終り

目下実施中ニ係ル生蕃討蕃討伐隊ノ物資輸送ニ従事スル人夫ハ今ヤ三萬餘人ノ多ニ達スト雖モ病氣、逃走其ノ他ノ事故ニ依リ前線ニ在ル戦闘員ハ終始粗食ト甘シ今尚ホ減食シツ、アル狀況ニシテ其ノ困苦名状スヘカラサルモアリ曩ニ總督閣下陸軍參謀長及陸軍經理部長ハ物資輸送ニ付顧慮セラレ各部隊長及倉庫長ニ對シ人夫ハ唯一ノ輸送機關ナルヲ以テ其ノ使役方法ヲ誤ルトキハ輸送上ニ大ナル蹉跌ヲ来シ豫期ノ行動ヲ採ル能ハサルニ至ヲ以テ人夫使役上ニ関シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ苛酷ニ失セサルハ勿論或程度迄ハ愛撫的使役ニ務メ豫期以上ノ好果ヲ収ムヘキ旨各部隊長及倉庫長ニ訓示セラレタリ其ノ結果各部隊ニ於ケル人夫ノ使役及待遇漸次改善セラレタルヲ見ル然レ二人夫中偶々担送荷物ノ重量規定ニ超過スルトキハ其ノ賃金ノ割増ヲ要求シ又ハ糧食ニ對スル不平ヲ唱ヘ或ハ疾病者ニ對スル待遇冷酷ナリトノ風説ヲ流布スルモノアリト聞ク右ハ戰況及物資輸送狀況ノ全般ヲ知悉セサル頑冥ナル人夫ノ風評又ハ不平ニ過キサルヲ以テ萬一警察官ニシテ直チニ之ニ同情ヲ表セムカ人夫ノ不平心愈々増長シテ底止スル處ナク物資輸送上ニ不尠障礙ヲ来ス虞ナキヲ保セス
従來陸軍ニ於テ往々規定ノ重量ヲ超過スル荷物ヲ担送セシメタルカ物資輸送ノ現況ニ照シ一時不得已處置ニ

出テタルモノト認メラレ加之現今ニ於ケル人夫ノ糧食ハ最高幹部及戰闘員ニ於テ粗食ニ甘シ減食スル今日ニ在リテハ決シテ粗悪ナリト謂フヲ得ス而モ疾病者ニ對スル待遇冷酷ナリトノ風評ハ軍医ノ不足ト衛生材料ノ欠乏ニ起因スルモノト思料セラレ一面人夫取締ニ任スル警察官ノ保護足ラサルノ責ヲ免ル、コトヲ得ズ故ニサルモノト認ム故ニ以テ倉庫付警察官吏ハ終始討蕃行動ノ全局ニ注意シ人夫ノ使役ニ付テハ愛撫ニ流レス過酷ニ失セス其ノ監督及保護ノ責任ヲ尽謁シ人夫ニ不心得ノ者アルニ際シテハ之ヲ懇諭シ疾病者ニ對シテハ其治療及后送方法等ニ付キ衛生部員ニ協議シ適當ナル手段ヲ講シ以テ人夫ノ不平心ノ根絶ニ努ム物資輸送ヲシテ遺憾ナカラシムヘシ苟モ其ノ言行ニ就キ他ヨリ非難セラルトカ如キ失態ナキヲ期スベシ
右訓示ス

⑨ 出役人夫状況報告

（八〇） 徵用人夫ニ關スル件

〔五七四二一〇一八六〕

嘉警保第四〇六八號ノ一

⑩

大正三年五月六日

嘉義廳長津田毅一印

本保第五九八號

民政部警察本署長殿

徵用人夫ニ關スル件

當廳下ヨリ南投廳下ニ出役中ナル人夫ノ狀況ニ關シ左記ノ通り監督警部補ヨリ報告ニ接シ候条御參考迄

右通報ス

記

一、當廳出身ノ人夫ハ山地生活ニ馴レサル為他廳ニ比シ病者多ク担夫トシテ不適當ノ模様アリ

〔※欄外記入「嘉義廳人夫ハ他廳人夫ニ比シ山地ノ担夫ニ不適當ナリ」

二、本島人ハ油類葱等ノ類ヲ常ニ副食シ殊ニ當地方ハ多量ニ常用スルノ傾キアルニ出役人夫ノ副食物ハ官給ナル為メ多クハ之ニ反シ居ル趣キニテ何レモ苦痛ノ狀況ニアリト云フ

〔※欄外記入「副食物ハ野菜ナキニ困難ス」

三、眉溪其他ニ在ル人夫小屋ハ何レモ不完全ニシテ甚シキハ雨漏ヲ凌キ難キ箇所モ有之内ニシテ多少氣候ノ変化アル地ノ出稼人夫ニハ健康上最モ憂慮スヘキ状態ニ在リト云フ

〔※欄外記入「人夫小屋不完全ニテ雨漏ヲ滲ル」

四、出役人夫病氣ニ罹ルモ醫師ノ配置ナキガ為メ非常ニ困難シ居ル状態ニシテ土城ヲ除ク外柑仔林、眉溪ニハ賣薬店モナク病夫ニ関シテハ引率警察官吏ノ携帶スル所持薬ヲ與ヘ居ルモ限りアル數ニシテ將ニ盡キントシツ、ツアル狀況ニテ其治療上意ノ如クナラスト云フ

〔※欄外記入「醫師ノ配置ナキ為メ人夫罹病ノ際治療スルヲ得ス」

五、山間ノ溪谷ニ架シ在ル鉄線橋數ヶ所在ル内ニテ當廳出身ノ人夫ハ是等ノ歩行ニ慣レサル為非常ニ苦心シ居ル趣キニテ彼等カ昨今直遺族等ニ発信シタル處ニヨレハ荷物ヲ負フテ此長キ鉄線橋ヲ渉ルコトハ甚タ危険ナルカ為他ヨリ出役シ居ル經驗アル者ニ託シテ漸ク渡涉シツ、アルト云フ而シテ此依頼賃ハ一回ニ付金式拾銭ヲ支拂ヒツ、アリト云フ

六、苦力賃ハ任務ノ終了後ニ受取ルヘキ事ニ相成リ居ル為メ間食ヲ以テ唯一ノ慰樂トシ居ル苦力ノ多數ハ携

帶シタル小使錢ハ已テニ費消シ了シ在所ニ向テ小使錢ノ送付方ヲ申シ送ルモノ儘々アル為メ在所ニ於テハ苦力ヲ義務的勞働ニシテ賃金ヲ受クルコト能ハサルモノナルヲ模ヒ居ル輩アリト云フ

終

（八一）出役人夫ノ狀況ニ関スル件 [五七四二一〇一七八]

中警保第三九九九號

大正三年五月十二日

本保第六四九號 臺中廳長 枝徳二

民政部警察本署長龜山理平太殿

出役人夫ノ狀況ニ関スル件

一、土城經理部倉庫所屬保甲人夫本月八日ノ現在ハ九百名ナリシカ鳥溪混濁ノ為メ飲料水ニ最モ不便ヲ感シ之ヲ濾過シ使用シ来レリ然ルニ衛生狀態ハ良好ニシテ四月二十一日ヨリ五月八日迄ノ間ニ於テ病氣掃還ヲ命シタル者四十二人逃走者十一人ナリシ之等ハ全ク土地ノ于係上部落ニ接近セルト一面輸送距里他ニ比シ近キ為逃走者少ナキモノ、如シ五月九日土城二人夫百三名ヲ残シ他ハ悉ク埔里社ヘ向ケ出發セシメタリ

二、柑仔林經理部倉庫所屬保甲人夫ハ五月八日ノ現在ハ百九十四人（内嘉義廳ノ人夫オモ含ム）ナリシカ同九日ニハ二百七十人ヲ残シ他ハ悉ク埔里社ニ引揚ケタリ同地ハ地勢上最モ不便ナルモ飲料水ハ清水ヲ使用シツ、アリ左レト山間僻地ナルカ故ニ比較的病人多ク現ニ本月九日ノ如キハ總人員ノ一割ハ罹病担送

シ堪ヘサルノ有様ナリ且医事機関上トテモ何等設備ナク之レ等ハ多少罹病者ノ増加スル原因ナランカ逃走者ハ九日ノ現在ニテハ總計十六人ナリシ（臺中廳出役ノ分）

〔※欄外記入「現在ハ看護兵ヲ派遣シ服薬セシム」〕

一、埔里社經理部倉庫所屬保甲人夫ハ當廳出役ノ分千六百名ニシテ其ノ輸送先ハ眉溪ナリシ為何等故障ナク順調ニ進行シツ、アリタリ衛生状態等モ柑仔林ヨリハ良好ニシテ罹病婦還ヲ命シタル者モ少カリシ然ルニ本月六日夜經理部倉庫長ヨリ人夫三百名ヲ眉溪ニ同三百名ヲ霧社ニ七日早朝派遣スヘキヲ人夫取締山口警部ニ命セラレ尚八日二人夫二百名ハ眉溪ニ同二百名ヲ霧社ニ派遣方同様命セラレタリ

一、派遣人夫中五月七日午前中ニ逃走セシ者彰化支廳下出役人夫百八十二名員林支廳下出役人夫三十一名計二百十三名ナリシ其逃走ノ重ナル原因ハ左ノ如シ

〔※欄外記入「逃走者二百十三名」「逃走ノ原因」「前方ニ進メタルニ因ル」〕

（1）最初徴用セラル、際保甲役員ヨリ今囀ノ出役先ハ土城眉溪間ノ担送ニ従事スヘキ旨ヲ命セラレ居リタルニ今日ニ至リ山奥ニ出役ヲ命セラル、ハ初メヨリノ約束ニ違反スルコト

（2）眉溪ヨリ前方ハ埔里社ニ比シ寒氣強ク現時携帯シ来リタル衣類寢具ノミニテハ到底寒氣ニ堪ヘサルヲ以テ之ヲ嫌フコト

（3）此際警察官ノ命ニ從ヒ埔里社ヨリ山奥深く出役スルトキハ討伐開始トナルモ帰庄スルコト能ハサルヘシ警察官ノ言葉モ信シ難キ一例ハ先年東勢角地方蕃社討伐ノ際モ最初人夫徴用ノ際ハ一週間又ハ二週間ノ豫定ニテ出役セシメナカラ一ヶ月以上モ使役セシメタルコト

（4）我等（人夫自身ヲ指ス）ハ小使錢ノ如キモ既ニ消費シ了リタレハ今ヨリ山奥ニ行ク中ハ之ヲ取り寄スル道ナク副食物ノ如キモ充分ナル給與ヲ得サレハ到底警察官吏ノ命令ニ從フコトヲ得スト云フ

一、五月七日出發ニ際シ萬一ヲ慮リ山口警部ヨリ一同ニ對シ懇々諭示スル處アリ尚彼等ノ希望ハ可成之ヲ容ル、ヲ以テ交替人夫ノ入山スル迄指定ノ場所ニ於テ担送ニ従事スヘキヲ命シ小使錢ナキ者ニ對シテハ何等カノ方法ヲ以テ貸與スヘキ旨説示セシニ大部分ノ者ハ之ヲ承諾セシモ一部ノ人夫等ノ扇動ニ依リ遂ニ逃走セラル、ニ至リタリ

〔※欄外記入「一部ノ人夫逃走ヲ扇動シタリ」〕

一、扇動者ノ重ナル者ハ員林支廳下油車店保頼金城ニシテ彼等ハ大声ヲ發シ不可去ト叫ヒツ、アルヲ以テ之ヲ取押ヘ其不心得ヲ論シタルニ同人ハ不可去ト叫ヒタルコトナシト否認シ同僚人夫ト共ニ入山セシメラレ度旨申出タルモ尚他人ヲ扇動スルノ恐れアルヲ以テ之ヲ雜役人夫ニ使用シ解散ノ後彼ニ對シ嚴重處分スヘキ筈ナリ

一、五月八日派遣ヲ命シタル人夫ニ對シテハ前例アリ旁々充分注意ヲ加ヘ出發前懇々不心得ナキ様説示シタルモ尚二十餘人ノ逃走者ヲ出シタルハ甚タ遺憾ナリシ尚彼等ノ要求ヲ容レ阿片購買代金等一時經理部ヨリ立替貰フコト、トシ又小使錢モ實際已ヲ得サルモノハ貸與スルノ条件ニテ一同入山セシメタリ

一、山口警部ハ、五月七日人夫ト共ニ眉溪ヨリ霧社ニ至リタルニ宿舍等ノ設備ナク午後四時頃ヨリ宿舍ノ設備ヲナシ（仮リニ夜露ヲ凌ク丈）宿所ヲ定メタルニ到着セシ人夫ハ何レモ悲觀セシ模様アルヲ以テ之ヲ慰藉シ寢ニ就カシメタルニ夜間ニ至リ寒氣甚クシク現在彼等カ所持セシ寢具ニテハ到底堪ヘ得サルヲ以テ相當ノ防寒衣ヲ保甲ニ於テ準備送付セシムル必要アリ

〔※欄外記入「人夫ノ寢具不充分」〕

一、出役先ヨリ逃走帰來シタル者ニ對シテハ二十圓ヲ標準トシ保甲過怠處分ニ付シ尚前貸金ヲ賠償セシムル

コトニ當廳下ハ一定シ居レリ
右通報ス

（八二）徴用人夫ニ關スル情況 [五七四二一〇一八二]

嘉警保第四、四二四號

大正三年五月十四日

本保第六六〇號

嘉義廳長津田毅一印

民政部警察本署長殿

徴用人夫ニ關スル情況

保甲徴用人夫ニ關スル情況ニ就テハ五月五日嘉警保第四〇六八號ノ一ヲ以テ及通報置候通り多少罹病者ヲ出シタルモ概シテ成績良好ナリ逃走者ノ如キモ僅カニ二十餘名ニ過キスシテ五月十日現在ノ人夫事故別表（五月十二日千名逃走ノ風評ハ事實無根ニシテ其旨電報通報ノ通り）ノ通りニシテ尚ホ人夫取締總監督警部補ノ報告ニ依ルニ當廳下出身ノ人夫モ討伐隊ノ行動開始ト共ニ前進スル風評一般人夫間ニ傳ワリ殊ニ霧社以東ニ移サル、ニ於テハ或ハ多數逃走者ヲ出スノ虞アリ加フルニ臺中廳ノ人夫ハ一ヶ月交代ニテ出役シ居ル由ノ處我嘉義廳人夫ハ討伐終了迄ハ其筋ノ通達ニ基ツキ交代セシメサルコト、ナリ居ルヲ以テ臺中廳同様交代セシメラレタシト切りニ要求シ居ル狀態ニ付キ極力之レカ慰撫ニ勉メツ、アリテ目下ノ處ニテハ他廳人夫ニ比シ我廳人夫ハ從順ニシテ其成績良好ナリト云尚ホ當廳ニ於テハ是等出役人夫ヲシテ倍々良成績ヲ挙ケシムル方法ニ付細心ノ注意ヲ拂ヒ各其人夫ノ在所タル保甲等ニ関シ各支廳ヲ通シテ左記ノ通り施行セシメツ、アリ

右御参考迄通報ス

「※欄外記入「保安課長㊦警察本署長㊦」「逃走者二十四名アリ」

記

一、出役人夫ニ對シテハ各所属保正、甲長等ヨリ此際奨励的慰安ノ書面ヲ發セシメ同時ニ逃走等ノ不利ナルコトハ勿論其ノ保ノ不名誉ナルコトヲ申シ送ラシムルコト

二、逃走、疾病其他ノ事故發生シタル保ニハ適良ナル候補者ヲ選定シ置カシムルコト

三、出役人夫ノ給料ハ保甲人夫徵用規程第八條ニ依リ其任務終了後ニ於テ受付セラレ其時々給與セラレサルヲ以テ間ニハ義務的出役ノ如ク誤解シテ其家族ニ通信スルヤモ保シ難キニ付是等誤解セサル様豫テ保正、甲長等ヲシテ一般ニ周知セシメ置クコト

四、前項ノ事情ニ付出役人夫中ニハ已ニ小使錢ニモ窮シ居ル向アル趣キニ付小使錢ノ送付方ヲ在所ニ要求シ來ル際ハ之ニ應スヘキ様豫テ傳達方取計リ置クコト尤モ此場合ニハ引率警察官吏ニ於テ其ノ必要ヲ証明シ來ルモノトス

五、出役人夫ニ関シテハ引率警察官ニ於テ出来得ル限り家族ヘノ通信ヲ奨励シ尚ホ發信ハ成ルヘク端書ヲ用ヒシメ一應引率者ニテ之ヲ檢閲發送セシムルノ方法ヲ採リ一般民情ノ融和ヲ測リツ、アリ

以上ノ如クニシテ各人夫等ノ通信ノ要領ニハ勞役ハ頗ル輕ク且ツ危険ノ虞レナキモ食物ハ嗜好ニ適セサルト鉄線釣橋ニハ多大ナル苦痛ヲ感シツ、アル由ニ有之候此外尙出役人夫ヲ慰撫スル方法トシテ管内各保正中ニハ各保正中ヨリ互選シテ慰問使ヲ派遣シ物品等ヲ寄贈スルコトニ協議シ居ル向モ有之候得共是等ハ今暫ラク時機ヲ見テ廳下全体ヲ通シテ齋一ノ行動ヲ執ラシムルコトニ目下考案中ニ有之候

終

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用（二）（前）

備考

支廳名	最初徴用人員	五月二十二日現在				現在	摘要
		逃走	解備	其他	計		
直轄	一五〇	四五	三三三	一	七八	七二	
打猫	一五〇	一三	三三九	一	五二	九八	
斗六	一五〇	一九	二七	一	四六	一〇四	
西螺	一五〇	四九	二八	一	七七	七三	
北港	一五〇	四九	一一	一	六〇	九〇	五月二十三日解隊
朴仔脚	一〇〇	一二	一三	一	二五	七五	
塩水港	一五〇	三四	二〇	一	五四	九六	五月二十三日解隊
店仔口	一五〇	二	五	一	七	一四三	
中埔	五〇	三	三	一	六	四四	五月二十三日解隊
竹頭崎	五〇	一	三	一	四	四六	
土庫	五〇	二	六	一	八	四二	
下湖口	五〇	二三	四	一	二七	二三	五月二十三日解隊
東石港	五〇	一	六	一	六	四四	
計	一、四〇〇	二五二	一九八	一	四五〇	九五〇	

（八三）徴用人夫成績表（※嘉義廳）

「五七四二—一〇一九一」

「※欄外記入「鉄線橋ニ苦痛ヲ感ズルハ蕃地ニ慣サル為ナリ漸次如此コト無キニ至ラン」

霧社ヨリボアルンニ向ケ五月十九日出發シタル人夫中四十名逃走シタル形跡アリ

（八四）徴用人夫情況ノ件 「五七四二一一〇一八八」

嘉警保第四八三〇號

大正三年五月二十五日

⑩ ⑩

本保第七〇八號

嘉義廳長津田毅一 ⑩

民政部警察本署長殿

徴用人夫情況ノ件

生蕃討伐陸軍部隊所要人夫ニシテ第一回當廳下ヨリ徴用シタル千四百名ニ関スル事故表ハ別紙ノ通りニシテ軍隊行動開始ト共二人夫ヲモ前進シツツアル趣キニテ是ト同時二人夫ノ逃走者増加シ總監督警部補始メ各引率者ハ百方之レガ防止ニ努メツ、アルモ陸軍部隊人夫取扱當該官ハ更ニ顧慮スル處ナク往々苛酷ノ取扱ヲ爲スタメ續々逃走者ヲ出ス原因ヲ惹起スルニアラサルヤトモ思料セラレ由來當廳下ノ如キ此種ノ人夫徴用ハ始メテノ事ニ屬シ徴用ニ就イテモ多大ノ苦心ヲ要シタル次第ニテ人夫服役取締警察官ニ関シテモ其取扱ニ就テハ特ニ注意ヲ為サシメ居ル次第ニ付陸軍當該官モ諸般ニ涉リ監督警察官ト打合セノ上取扱ヲ為サバ良好ナル成績ヲ得ルコト、思料セラレ候條左ニ霧社駐在總監督警部補高木力藏ノ報告要領ヲ摘記シ御參考也

〔※欄外記入「保安課長⑩警察本署長不在」
「軍隊人夫ノ使役苛酷ニ渉ル」

右通報ス

追テ五月二十三日解隊ナリタル人夫二百十四名に關シテモ現金ノ支払ヲ為サズ引換證書ヲ交付セシ趣キニテ之亦タ今後ノ人夫徴用上惡影響ヲ來ス恐レ有之狀況ニ付申添候也

〔※欄外記入「五月廿參日解隊ノ人夫ニハ賃金ヲ支払ハス引換証書ヲ交付セシ趣」〕

〔※嘉義廳用箋使用〕

記

於霧社高木警部補報告要領

一、五月二十日ポアルンヨリノ情報ニヨ依レバ二十日朝苜菜主山ニ荷物担送ノ人夫ハ毎月ノ降雨ニテ寒氣烈シキト道路險惡及危險地域ナルニ加ヘテ十九日夜二十日ノ朝食料不足ノ為メ臺中廳下ノ人夫三百餘名嘉義廳下ノ一部ハ頗ル激昂シ全部逃走ヲ企テ引率警察官ノ言ヲ信セス隊伍ヲ整ヘ下山セントシタルヲポアルンニアル聯隊長ハ事情ヲ詳細ニ説示シ今一回苜菜主山ニ担送シ一泊ノ上ポアルンニ歸着次第解隊ヲ誓ヒテ担送ヲ為シタリト而シテポアルンハ引率警察官並ニ人夫ハ何レモ蕃屋ニ假泊スルト云フ

二、従來經過シタル各經理部倉庫（柑仔林ヲ除ク）ノ主計始メ其他ノ陸軍雇員等ハ人夫ニ關シ待遇上甚タ不當ニシテ萬事命令ニ藉口シテ毫モ警察官ノ意見ヲ酌マス專断ニ取扱ヒアリト

〔※欄外記入「柑仔林以外ノ各倉庫員ハ人夫ノ待遇不當ニシテ豪モ警察官ノ意見ヲ聞カス」〕

三、人夫逃走ノ原因ハ屢々倉庫ヲ轉属スルト軍隊行動開始ト共ニ前進スルト臺中廳下ノ人夫ハ時々交替アルニ反シ嘉義廳下ノモノハ之レガ模様ナキヨリ前進ヲ嫌ヒ既服役賃金ノ不支給、逃走後ニ於ケル保甲處分モ知リツ、逃走ヲ企ツルモノ多キモ主タル原因ハ陸軍部隊ノ人夫取扱者ノ當ヲ失スルヲ其最大因ナル者ト思料セラル

〔※欄外記入「人夫逃亡ノ原因ハ主トシテ人夫取扱當ヲ失スルニ因ル」〕

四、眉溪ノ瑞秀倉庫長及元霧社倉庫長中村主計等ノ如キハ人夫逃走スルモ差支ナシト高言シ殊ニ瑞秀倉庫長ノ如キハ人夫逃走セバ經理部ハ却テ利益ヲ受クヘシ忤誠ニ不穩當ナル語ヲ為シツ、アリテ何事モ言下ニ命令ニ口ヲ藉リ人夫ニ関シ毫モ同情心ナキ有様ニ付引率警察官ニ於テ倍ニ人夫ノ監督ニ困難ヲ感シ居ル状態ナリト云フ

〔※欄外記入「倉庫長人夫逃走セハ經理部ノ利益ト放言セリト云フ」〕

（八五）―― 徴用人夫成績ニ關スル件 〔五七四二―一〇一九二〕

嘉警保四八六二號

大正三年五月二十八日

本保第七二七號 嘉義廳長 津田毅一印

民政部警察本署長殿

徴用人夫成績ニ關スル件

徴用人夫服役ニ關シ討伐軍經理部長ヨリ別紙ノ通り通牒有之候条御参考迄

右通報ス

尚ホ店仔口支廳八百五十名ヲ徴用シタル處眉溪倉庫ニ轉屬以前ニ於テ逃走者二名疾病五名ヲ出シタルモノニ候条申添候也

終

〔※欄外記入「保健課長、警察本署長」〕

（八五）―二 人夫服務精勵ノ件通牒 [五七四二―一〇一九三]

寫

軍經第二〇號

人夫服務精勵ノ件通牒

大正三年五月二十二日

討伐軍經理部長土屋善龜

嘉義廳長津田毅一殿

今圓ノ太魯閣蕃討伐ニ關シ軍需品轉送ノ為メ店仔口支廳ヨリ供給セラレタル保甲人夫百四十三名ハ五月二十
六日眉溪倉庫到着以來一名ノ患者、逃亡者等ヲ出ス事ナク役務ニ精勵シ成績極メテ良好ニシテ一般ノ模範ト
為スヘキモノト認メ候條御參考込ニ配屬警察官吏ノ氏名ト共ニ及通牒候也

巡查 高橋 龜太郎

同 鈴木 文平

巡查補 劉 尾 生

以上

（八六）（電報通報） [五七四二―一〇四六八]

大正三年五月二十八日電話通報

臺中廳長

警察本署長宛

本廳巡查ノ監督ニ属スル阿緞廳下人夫五百名本日キライス山中間中継所へ配属ヲ被命出發ニ際シ我等ハ埔里社マテノ約束ニテ来リ防寒ノ用意ナキ為寒氣ニ堪ヘストノ理由ノ下ニ出發ヲ拒ミ又東港ノ人夫ハ支廳ニテ防寒用ノ衣類ヲ取上ケラレタリト苦情ヲ述ヘ容易ニ應セサリシヲ以テ守備兵ヲ要求シテ配置シ嚴重説諭ヲ加ヘ漸ク午前九時出發セシメタル旨佐々木警部補ヨリ報告アリタリ

右参考マテ通報ス

終

（八七）人夫出役人員調

〔五七四二一一〇四九九〕

人夫出役人員調		五月三十一日調		
所轄別	徴用人員	延人員	帰還人員	現在出役人員
警務課	二〇、一四八	九九、〇六七	一九、六一七	五三一
草鞋墩	一、〇五一	一一、二八八	八四一	二一〇
林地埔	四三〇	五、三一〇	二三〇	二〇〇
集々	一、七〇〇	二一、二九三	一、六一一	八九
埔里社	二、五四〇	二八、九二九	二、〇八〇	四六〇
合計	二五、八六九	一六五、八八七	二四、三七九	一、四九〇

内訳				
担送	二八〇	三、五八〇	(破損)	
道路	二五、三七一	一五九、六四三		二四
軍隊専用	一六八	一、三四四		
炭焼	五〇	一、五〇〇		一
合計	二五、八六九	一六五、八八七		二四、三七九

(八八) 輸送監督及人夫状況ニ關スル件 [五七四二一〇一九四]

中警保第四一七八號

大正三年六月四日

本保第七六四號

臺中廳長 枝徳二

民政部

警察本署長 龜山理平 太殿

輸送監督及人夫状況ニ關スル件

保甲人夫監督巡查及人夫ノ状況ニ關シ左記ノ通り在追分陸軍經理部倉庫付山口警部ヨリ報告ニ接シ候
 右人夫患者ノ待遇甚タ苛酷ニ失スルノ嫌アリ将来人夫徴用ニモ尠カラサル影響ヲ及ホスモノト思料セラレ候
 右通報ス

〔※欄外記入「人夫患者ノ取扱冷酷ニ失ス」〕

左記

一 五月二十一日小官當追分到着以降ハ氣候著シク寒冷ヲ覺ユル為メ職員ト人夫ヲ問ハズ患者激増シ追分ニアル警察職員ニテ病氣ニ後送治療中ノモノニ名解隊トナリタルモノ一名アリ尚ホ其他ニ病氣休業中ノモノ毎日三名内外アリ休業セサルモノト雖モ或ハ感冒ニ或ハ下痢症ニ或ハ頭痛ヲ起ス等職員ノ半バ以上半病人ナル有様ナリ

二 保甲人夫ニシテ追分ボアルン蕎菜主南峰合歛山以東ノ各倉庫ニアル人夫ノ約三割ハ常ニ諸種ノ疾病ニ冒サレ休業シツ、アリ當追分ニ於テ本日ノ人夫總員一二四二名ノ内患者二四五名ニシテ他倉庫所屬ノ人夫ニ比シ多少好成绩ヲ示シ居レリ

〔※欄外記入「追分ホアルンキライシユ南峰合歛山以東ノ人夫ハ約三割ノ病人アリ」〕

三人夫ニ對スル給與ハ米ハ稍可ナルモ副食物ハ粗末ニシテ重^{（マヤ）}ニ塩鱈ト菜脯等ノミ多ク脂肪分ノアルモノヲ給與セサルヨリ身体次第ニ衰弱ヘ傾キツ、有之此ノ傾向ニテ時日ヲ經過スル時ハ今后半ヶ月后ハ或ハ使役人夫ノ半ハ使用ニ堪ヘサルニ至ラサラシカト憂慮セリ

〔※欄外記入「糧食米ハ可ナルモ副食物ハ脂肪分ナキニ依リ漸次衰弱ス」〕

四人夫ハ一般ニ防寒具少ナク為メニ一層ノ疲勞ヲ覺ヘツ、有之様推察セラル

〔※欄外記入「人夫ニ防寒具ナキ為メ困難ノ躰アリ」〕

五 追分ニ於テハ日々ノ人夫患者ハ前述ノ如ク二百五十名内外ナルニ不拘該病人ヲ診察スルモノハ看護長一人ニシテ診察及薬剤モ無之等ノ有様ニテ毎日午前十時頃ヨリ午后四時頃迄ヲ費シ其診察タルヤ誠ニ怪シキモノ有之人夫ニ於テモ看護長ノ診察ハ稍不信用ノ模様ニテ間ニハ事實病氣ニアリナカラ診断ヲ受クルヲ欲セ

サルモノサエ有之候ニ付相當資格ヲ軍スル軍医ヲシテ一週間ニ二回若クハ一回ノ出張診察ヲ要求候モ人員ノ都合上其ノ運ヒニ至ラス其ノ俣ニナリ居レリ

〔※欄外記入「追分ハ軍医ナキニ依リ看護長ニテ投薬スルヲ以テ人夫信用セス」

六今回ノ保甲人夫中ニハ最初ヨリ全ク勞働ニ堪ヘサルモノ（老衰従来ヨリ疾病ニ罹リ居リタルモノハ不具者ノ類）多數アリ是等人夫ハ已ムヲ得ス帰還セシムルニ至リタルモノアリ是等ノ人夫ハ經理部ニ於テ各廳別ニ調査其筋ヘ照會ノ準備中ナルカ如ク聞及候是等勞働ニ堪ヘサル人夫ニ對シテハ應募當時ノ狀況ヲ聞クニ派出所巡查及ヒ保正等カ頭數揃ヘニ出役セシメタルモノナルヲ証スルニ餘リアル次第候

〔※欄外記入「保甲人夫中到着當時ヨリ勞働ニ堪ヘサルモノ多數アリ徴用當時警察官ノ不注意ト認ム」

七保甲人夫中ニハ阿片吸食者多數アリ入山翌日ヨリ全ク煙膏ヲ所持セスシテ為メニ勞働ニ堪ヘサルモノ多數有之候ニ付此等ニ對シテハ臨機ノ方法トシテ一部分宛ヲ取り纏埔里社ヘ下山セシメ購買セシメツ、有之候モ合歛山以東ニ就業シツ、アル是等吸食者ニ對シテハ到底煙膏ヲ購求セシムルノ不可能ナルモノト推察セラレ候ニ付テハ之レカ前後策トシテハ合歛山附近ニ煙膏購買ノ出張店如キモノヲ設ケルカ果シテ所持ノ煙膏吸食者ハ勿論病人ト異ナルコトナキニ付病者トシテ帰還セシムルカノ二途ニ出ルノ外ナク考ヘラル先般入山セシ細井警部ニ右口頭報告致シ置キタル次第ニテ同警部ニ於テ帰還后何レカニ決定スヘキ旨申居レリ

〔※欄外記入「阿片吸食者多ク阿片欠乏ノ上ニ勞働ニ堪ヘス」

八人夫ノ衛生状態ハ前述ノ通り概シテ不成績ナルヨリ經理部側ニ於テハ警察官ノ取締カ如何ニモ不充分ナルカ如ク五月三十一日ノ如ク經理部長ノ命令ナリトテ當追分ノ倉庫長水島主計ハ休業中ノ患者ヲ懲戒の二極メテ不完全ナル而モ毎日ノ如キ降雨ニ雨漏ノ甚シキ人夫小屋ニ移轉セシメ而シテ是等患者ニハ懲戒の二減食セシメントスル交渉ニ接シ候ニ付小官ハ本件ニ就テハ絶對的の反對ヲ主張シ今日ノ處従来ノ通待遇シ居レ

り

九前記ノ通り比較的の患者多數有之ニ依リ可成就業者ヲ多カラシメント毎朝五時ニハ健康者ト患者ヲ多（重病者ヲ除キ）トヲ問ハス嚴重ナル点檢ヲ行ヒ該点檢ニ依ツテ直接監督ノ任ニアル巡查ハ事實休業ヲ要スル患者ナルヤ否ヤヲ鑑別シテ事實休業ノ已ヲ得スト認ムルモノノミヲ受診セシムル事ニシテ就業ヲ督励シ一方患者ニ對シテ特ニ土語ニ通スル巡查一名ヲ附シテ便ヲ計リ出来得ル限りノ手當ヲ為ス事ニ致シ居レリ結果他倉庫ニ比シ好成績ヲ挙げ居ル次第ト信シ居レリ

以上

（八九）徴用人夫取扱ニ關スル件 [五七四二一〇一九九]

嘉警保第五、四五二號

大正三年六月十日

④

※付箋

嘉義廳長 津田毅一 函

民政部警察本署長殿

本保第八〇一號

徴用人夫取扱ニ關スル件

去ル五月二十六日、二十七日兩日ニ涉リ當廳ヨリ徴用輸送シタル七百名ノ保甲人夫中直轄徴用ニ係ル七名ハ（五月二十六日派遣ノモノ）六月七日歸着シタルニ付其ノ事情ヲ取調タルニ左記ノ通り申立候条人夫取扱上

御參考迄

右通報ス

本件ハ當時人夫引渡地ナル霧社經理部出張所へ別途照會中

記

一、歸來シタル七名ハ六月一日夕刻多數人夫ト共ニ合分山へ到着シタル二人夫監督高橋巡查（何廳巡查ナルカ亦名不祥）ハ右七名ト外臺南廳大目降支廳下三名計十名ニ關シ所屬相違ノ旨ヲ以テ高橋巡查ヨリ別紙ノ書面ヲ添ヘラレ翌朝合歛山倉庫ニ引返シ同月午後四時頃到着直ニ倉庫ニ就キ聞合セタルニ更ニ要領ヲ得ス六月三日終日各所ヲ取調タルモ所屬不明ナル為メ一同ハ六月四日止ムナク歸宅スルコトニ協議シ同日午後九時頃埔里社ニ到着同所一泊ノ上ニ八水駅ヲ經テ歸宅セリト而シテ同人夫等ハ六月一日ヨリ六月二日朝昼ノ三回ハ食事ヲ得ルコト能ハス頗ル困難セリト云フ

以上ノ如クニシテ右歸來者ノ申立ヲ悉ク信ジ難キモ亦タ他ニ何等カノ原因アルヘキモノト思料ス

〔※欄外記入「警察官ノ引率事情適當ナラサルニ起因スルモノト認ム」

〔※付箋↓六月一日、高橋巡查署名捺印の合歛山倉庫宛のもの。印刷不鮮明で解読不能〕

（九〇）物資輸送其他ニ關スル件 [五七四二一—一〇二〇四]

〔※欄外記入「經理部員ニ通知ノ事」

中警保第五〇六六號

印

大正三年六月十六日

臺中廳長 枝 徳二印

本保第八五六號

民政部警察本署長 龜山理平太殿

物資輸送其他二關スル件

保甲人夫監督トシテ菁菜主山南峰へ出張中ノ松井警部補ヨリ左記ノ通報告ニ接シ候ニ付御参考迄ニ及通報候也

左記

一、物資輸送ノ狀況

ポアルン迄ノ輸送ハ担送ニシテ左迄困難ノ狀況ニアラスポアルンヨリ菁菜主山中継所へ至ル間ハ行程僅カ二三里位ナランモ道路ハ名ノミニシテ一方ハ断崖ナリ其ノ危険ナルコト實ニ名状スヘカラサルス程ニシテ優ニ六時間ヲ要ス此ノ如キ状態ナルヲ以テ物資ハ半担送ト為シツ、アリ同所ヨリ菁菜主山南峰へ至ルモ之ト同様頗ル困難ナリ同所ハ寒氣強ク夜間氷点以下ヲ下ルコト多シ為ニ病者續出シ輸送力ヲ削減スルコト夥シ稀ニ凍死者ヲ出スコトアリ目下出役人夫約四百人監督巡查十一名アリ木瓜溪中継倉庫ハ花蓮港廳下木瓜溪ノ上流川岸ニアリ菁菜主山南峰ヨリ約三里餘一万五千米トルノ地点ニアリ此行程約十時間乃至十二時間ナリ殊ニ此山道ハ自然ノ俣ナルヲ以テ頗ル險惡ナリ之ニ加フルニ生蕃人ハ竹槍ヲ諸所へ設ケアルカ故ニ之亦危険ナリ小職ノ如キモ此ノ竹槍ノ一端ニ触レ右手掌ヲ負傷シタルモ幸ヒ執務ニ差支ナキヲ得タリ此ノ如キ状態ニシテ輸送人夫ノ困難ハ見ルニ忍ヒサルノ感ナキニアラス當所ヨリ前進隊ノ駐屯地ナル「サカヘン」社込ハ約二里餘ナルモ亦山道屹立シ險惡ニシテ困難ナリ加フルニ時々蕃害アリテ人夫等ヲシテ心胆ヲシテ寒カラシメツ、アリ以上ノ如キ狀況ナルヲ以テ前進軍隊へ物資ノ供給充分ナラス目下半食ノ状態ニアリ小職等ニ於テモ亦減食シツ、アルノ現況ナリ

〔※欄外記入〕

三里

三里

二里餘

ボアルン——キライ主山南方——木瓜仲繼——サカヘン」

「軍隊ハ半食ニ減シ人夫及警察官モ減食シ居レリ」

二、人夫ニ對スル所遇

人夫ニ對シ陸軍側ニ於テハ其ノ人夫ノ性質ヲ解セサルノ結果多少酷ナル取扱ヲ為スモノアルモ此等ニ關シテハ之レカ徴用ニ關スル一般ノ狀況ヲ明示シ物資ノ輸送ハ人夫ニ依ルノ外他ニ途ナキコトヲ論シ稍之レカ取扱ニ付テ酷ナルヲ免カル、ニ至レルモノ、如シ蕎菜主山中繼所ノ如キハ未タ酷ナル担送ヲ続行シツ、アルヤニ聞ク食物ニ付テハ人夫即チ本島人ノ常食トモ云フヘキ豚ノ油肉等絶對給與ナキ為メ一般ニ疲勞シ居ルノ状態ナリ殊ニ當所并ニ前方ハ物資ノ供給充分ナラス為メニ減少セラル、結果大ニ苦情ヲ唱ヒツ、アル狀況ナリ

〔※欄外記入〕「キライシユ山中繼所ハ酷ナル取扱ヲ為ス」「人夫ハ副食物ニ豚ノ脂肪ナキ為メ大ニ疲勞セリ」

三、人夫ノ健康状態

人夫ノ健康状態ハ一般ニ良好ナラス殊ニ近来赤痢患者續出シ送還スルモノ多シ蕎菜主山南峰ハ寒氣強キニ拘ラス防寒具ノ準備ナキ為メ健康ヲ害スルモノ多ク死亡者一日平均一人ニ相當スト認メラル當所ノ如キハ目下八百八十一人ノ人夫ヲ有シ之レカ三割弱ノ病者アルモ實際ニ於テハ二割位ナラン内一割ハ負傷者ナリ負傷ハ輸送ノ際足部ニ受クル所ノ刺傷切傷擦過傷ヲ重ナルモノトス病者ノ所遇ハ一般ニ良好ナラス病者ニハ粥食ヲ為サシメツ、アリ當所ハ稍ヤ患者ニ對シ懇切ナルカ如シ

〔※欄外記入〕「880人ノ内三割弱ノ病者但内一割ハ負傷者」「患者ニ對シ懇切ナルカ如シ」

四、人夫等ノ感想

一般ニ出役人夫ハ義務心ニ乏シキカ故ニ稍ヤモスレハ逃走ヲ企ツルノ傾向アリ現ニ逃走ヲ為シ菁菜主山中
 繼所ハ斷崖ニアルヲ以テ同所ニ於テ捕ワレ逆送セラル、モノ尠ナカラス又ボアルンヨリ當所ニ至ル迄ハ山
 道險惡ニシテ困難ナル為メ之ヲ避ケントシ或ハ病氣ヲ装ヒ或ハ岩石ノ間ニ潜伏スル等之レカ使役上大ナル
 困難ヲ感シツ、アリ

〔※欄外記入「人夫ハ逃走ヲ企テル傾向アリ 又病氣ヲ装ヒ休業セントスル者アリ」

五、前進聯隊ノ現況

本月五日第一聯隊本部ハ當所ヨリ歩兵一小隊ヲ残シ「サカヘン社」へ前進セリ其ノ翌日即チ六日同聯隊第
 十一中隊ハ將校斥候トシテ出勤中敵蕃ナルバトラン蕃ト衝突シ百間戦闘ヲ續ケ我隊ハ大高中尉重傷兵卒十
 一名重軽傷人夫即死三名負傷一名ヲ出シ退却シタリ敵ノ損害明確ナラサルモ二三ノ死傷アルモノ、如シ輕
 傷者數名ハ當所ニ於テ治療中其ノ他日々敵蕃ノ為メニ死傷者ヲ出シ我隊ノ損害尠ナカラス目下聯隊長以下
 バトラン社攻撃前進計畫中小職ハ後方二里餘ノ木瓜溪畔ニアリテ全部輸送監督ニ従事シツ、アリ

六、警察官吏ノ現況

警察官吏ハ一般ニ糧食充分ナラス殊ニ肉類ノ如キハ皆無ノ状態ナリボアルン菁菜主山南峰ハ稍ヤ普通ナル
 毛當所即チ木瓜溪ニアリテハ何等加給品ナク酒茶ハ勿論ナシ副食物トシテハ塩鮭ノ小ナルモノ一片位ニシ
 テ味噌汁サヘ食スルコト稀ナリ殊ニ飯ハ不足ヲ告ケ減食シツ、アルノ状態ナリ一般警察官吏ノ健康状態良
 好ナラス巡查稻垣藤兵衛ハ赤痢病ニ罹リ昨八日埔里社病院へ後送セラレ本日又夕巡查坂下徳衛同病ノ疑ア
 リ當所衛生隊ニ於テ収容治療中

〔※欄外記入「木瓜溪ニ在リテハ加給品ヲ為サス」「警察官ノ健康状態良方好ナラス」

（九一） 出役人夫病氣帰還者取扱ニ関スル件 [五七四二一〇二〇八]

陸受	
大正三年六月十九日	第四三三三號

中警保第五〇八一號

大正三年六月十八日

台中廳長枝徳二〇

本保第八七五號

民政部警察本署長 龜山理平太殿

〔※欄外記入「保安課長〇 警察本署長不在」「陸軍部 副官〇 參謀長（花押）」〕

出役人夫病氣帰還者取扱ニ關スル件

出役人夫病氣帰還者取扱方ニ關シ別紙ノ通り鹿港支廳長ヨリ報告ニ接シ候条参考迄ニ及通報候也

當支廳管内ヨリ討蕃開始相成本年四月二十一日以來人夫募集既ニ五回七万七千人ノ出役人夫アリ其内病氣
 帰還ノモノ約百名斗リ重体ニ陥リ引取トシテ家族立越シ引取リタルモノ一名有之候陸軍經理部ニ於テハ多
 數ノ人夫殊ニ蕃地ニシテ病者ノ救護上ノ設備ハ不容易コト、ハ思料候モ病者救護ハ人道上息ニスヘキモノ
 ニ非ラスト信ス本月十一日當支廳ヨリ出役人夫七名合歛山方面ヨリ病氣解備トナリ下山途中菜市頭第六保
 募集人夫馬芝堡打鉄厝庄許廳ナルモノ左足腫張潰膿シ歩行ノ自由ヲ失ヒ路傍ニ倒レ同行ノ人夫之ヲ助ケ追

分迄来り埔里社担架人夫ヲ請ヒタルモ容レラレス依テ患者輸送部ニ輸送ヲ請シモ亦タ容レラレス不得止担架ノ借用ヲ請シモ許サレス之レカ治療ヲ怠ルトキハ足部切断セサルヘカラサルトノ看護長ノ診断ニシテ殆ント當惑如何セントシ居タル處同人ノ兄許盾入山スルニ會シ同人ニ保護方ヲ託シタリト云フ如此實例ハ尠カラサルモ病者ニハ毫モ医療ヲ與ヘス放任シアルトノ事ハ病氣帰還ノ人夫間ニ於テ暗々トシテ囁シ又人夫監督トシテ出張中ノ巡查ヨリモ此等ノ通信ニ接シ居レハ此儘病者ニ對シ救護ノ設備無之二於テハ今後人夫募集上多大ノ影響可致ハ勿論民情上ニ悪感情ヲ與フル義ト思料ス

終

〔※欄外記入「病氣解備人夫帰還途中ノ取扱冷酷ヲ極ム」〕

〔九二〕 徴用人夫ニ關スル件 〔五七四二一〇二二三〕

大正三年六月二十一日

阿緞廳長 齊藤謙太郎印

本保第八九〇號

警察本署長 龜山理平太殿

阿警保第四一九〇號

徴用人夫ニ関スル件

タロコ蕃討伐軍隊所要人夫徴用相成廳下ヨリモ前後已ニ三千名ヲ出役セシメ候處前出役ノ人夫中往々逃亡帰庄スル者有之是等ニ對シテハ相當過意處分ニ附スヘク目下夫々詮議中ニ有之候處彼等ニ就キ其實情ヲ調査スルニ其陳述スル處一樣ニシテ多クハ防寒防雨ノ用意ナク寒冷ニ不耐且ツ道路險惡其担送荷物モ意外ニ過重ニ

シテ加フルニ粗食ナリト云フ外其取扱甚々過酷ナリト云フ者多シ然ルニ或ル部隊ニ附屬シタル人夫ハ殆ント嘗テ逃亡帰庄セル者ナク偶々病氣其他ノ事故ノ為メ帰庄シタル者モ軍醫ノ証明セル外所屬中隊長ヨリ途中ノ収容其ノ他ニ關シ便宜ヲ與ヘラルヘキ旨ヲ記載セル書面ヲ所持シ居リ平素ノ取扱モ懇切ナルモノ、如シ依テ察スルニ人夫ノ逃走ハ其所屬部隊員ノ人夫ニ對スル處遇ノ如何ニ關係スル處不尠カ如此ハ他日多數ノ人夫ヲ徴用スヘキ場合ニ當リ甚々シキ障害ト相成ルヘキニ就キ兵馬腔隙ノ際軍隊ニ對シテハ至難ノ要求ナルヤモ難計候得共目下ノ民情ニモ關係スル處不尠候條將來軍隊ノ人夫所遇上ニ就テハ十分ノ注意ヲ拂ヒ特ニ傷病疾病等ノ為メ解備セラル、場合ハ相當日給旅費等ノ支給ハ勿論収容旅行等ニ關シテモ相成ヘク便宜ヲ與ヘラル、様御交渉相成候様致度

右照會ス

終リ

〔※欄外記入「人夫ノ逃走スルハ所屬隊ノ待遇如何ニ起因スルカ如シ」〕

（九三）人夫前進拒絶ニ關スル件 [五七四二一〇二一七]

中警保第五一八〇號

大正三年六月二十二日

臺中廳長枝徳二印

本保第九〇〇號

民政部警察本署長龜山理平太殿

人夫前進拒絶ニ関スル件

南投廳下關ヶ原駐屯山口警部ヨリノ報告ニ依レハ關ヶ原專屬彰化支廳下出役人夫五十五名沙轆支廳下出役人夫三十八名ハ六月二十日無名溪へ前進ヲ命セラレタルニ支廳ヨリノ豫定期日ヲ經過セシヨリ當地ニ於テ交代ヲ待チ死ストモ前進ヲナサストテ轉属ヲ拒ミタルヨリ倉庫長ハ不得止兵力ヲ以テ迫リタル為漸クニシテ前進セリト 依テ兩支廳ハ出役豫定期日數ヲ限定シタルヤ否ヤヲ確メタルニ決シテ之ヲ限定シタルコトナキ旨報告ニ接セリ右ハ人夫等カ全ク疲勞ノ結果之ヲ口實トシ交代ヲ迫リタルモノト認メラレ候
右通報ス

終

(九四) 徵用人夫取扱方ニ關スル件 [五七四二一〇二一五]

〔※欄外記入「宇野警視へ通報ノ事」〕

臺警保第五八三一號ノ一

大正三年六月二十四日

本保第九一五號 嘉義廳長 津田毅一印

民政部警察本署長殿

徵用人夫取扱方ニ關スル件

菁萊主山西側中繼所勤務當廳巡查白瀬長藏ノ報告ニ依レハ同中繼所員ガ人夫取扱ノ過酷ナルコト恰モ奴隸ノ如ク物資担送ニ就テハ引率警察官ニ於テ選定出役セシメツ、アルニモ不拘同所員ハ自ラ苦力小屋ニ臨檢シ毫

モ事情等ヲ斟酌セス強制的ニ出役ヲ命シ若シ病氣其他正當ノ事故ヲ以テスルトキハ之ニ鞭撻ヲ加ヘテ出役ヲ強ユル為メニ病軀ヲ起シテ之ニ應スト雖到底担送ノ目的ヲ達シ得ヘキニアラス如此場合ハ言下ニ歐打セラ
ル、ヲ常トセリト故ニ現場ヲ遁レテ歸庄センカ保甲民ハ口ヲ揃ヘテ之ヲ責ムル而已ナラス自己ハ勿論所屬甲
内ニモ科罰セラレテ累ヲ他人ニ及ス亦タ現場ニ止マラス病氣解傭ニ至ル迄ハ斯ル苦痛ヲ繰リ返サザルヘカ
ス彼等ノ進退谷リテ遂ニ自殺ヲモ為シ兼間敷狀況ニシテ現ニ六月十三日當廳塩水港支廳管内出身人夫蔡筆外
二名ハ同所ヨリ九丁ヲ距レタル山林にて縊死ヲ企テタルヲ苦力頭某ガ右三名ノ舉動ニ怪シミテ逃走スルモノ
ニアラサルカト尾行シテ發見シ幸ニ無事ナルヲ得タリト云フ御参考迄
右通報ス 終

（九五）保甲人夫出役調査表

〔五七四四一—〇三〇〇〕

〔※欄外記入「臺中」〕

保甲人夫出役調査表

（六月二十六日現在）

人夫出役總數	歸還者數	逃走者數	病氣後送者數	死亡者數	差引現在出役數
七二六〇	一八一—	七二〇	六二五—	三	四一〇—

備考

内訳

月日	行先地	員數
四月二十一日	土城	六〇〇
〃 二十二日	柑仔林	六〇〇

備考

大正三年太魯閣原住民討伐陸軍部隊における保甲人夫徴用 (二) (前)

〃	二十四日	埔里社	一、〇〇〇
〃	五月二十四日	追分	四六〇
〃	二十七日	霧社	一、〇〇〇
〃	二十九日	同	五〇〇
〃	六月八日	霧社	一、〇〇〇
〃	二十三日	同	五〇〇
〃	二十五日	同	一、〇〇〇
合	計		七、二六〇

外ニ四月二十七日土城行土木局ノ分四〇〇名

一保平均出役人員 八人九分 (保數八五八保)

(九六) 病氣帰還人夫ノ待遇ニ關スル件

[五七四二一〇二二〇]

副二

陸受	
大正三年六月三〇日	第四六八七號

印

中警保第五四五七號

大正三年六月二十七日

印

臺中廳長枝徳二印

本保第九五五號

民政部警察本署長 龜山理平太殿

㊦

病氣婦還人夫ノ待遇ニ關スル件

保甲人夫監督トシテ木瓜溪ニ出張中ナル巡查久保田源助ハ本月十六日病氣解隊ヲ命セラレ頃日帰廳病氣婦還人夫ノ待遇ニ關シ報告スル處ニ依レハ左ノ如シ

左記

官役人夫病氣婦還者ニ對シ埔里社前方各倉庫ニ於テ食事ヲ給セサルヲ以テ婦還ヲ命セラレタル人夫ハ所持金ヲ有スルモ霧社前方ニ於テハ購フモ飲食物ナク絶食徒步スルノ悲境ニ會ヒ本職ハ去ル十六日木瓜溪ニ於テ病氣解隊ヲ命セラレ婦途病氣婦還人夫五名ヲ同道シ葑菜主ボアルン眉溪ノ各倉庫ニ宿泊シタルモ宿泊所倉庫員ハ解隊人夫ニ對シテハ食事ヲ與フル能ハサル旨ヲ述ヘ容易ニ食事ヲ給セサルヲ以テ各倉庫ニ於テ再三交渉ノ結果同道セシ人夫五名ニハ給與セラレタルヲ得タルモ警察官ト同道セサル人夫ハ出發地点ヨリ埔里社迄絶食徒步セサルヘカラルヲ以テ將來病氣婦還ノ証明書ヲ有スル者ニ對シテハ埔里社迄ハ各倉庫ニ於テ食事ヲ給與シ相當保護ヲ與ヘラル、様致度シ

右通報ス

終

〔※欄外記入「保安課長 警察本署長」「陸軍經理部長㊦ 副官㊦ 參謀長㊦」〕

「病氣婦還者ニ對シ食事ヲ給與セス」

（九七）保甲人夫ノ待遇ニ関スル件 [五七四二—一〇二一八]

中警保第五三四五號

④ 大正三年六月二十九日

臺中廳長 枝 徳二団

本保第九五六號

民政部警察本署長 龜山理平 太殿

保甲人夫ノ待遇ニ関スル件

保甲出役人夫ノ待遇ニ關シ左記ノ通り員林支廳長ヨリ報告ニ接セリ

右通報ス

左記

先般ヨリ軍隊徴用人夫監督トシテ霧社及ポアロン地方へ出張中ノ員林支廳巡查五十嵐修吾ハ咽喉炎症ニ罹リ軍医ノ診断ヲ受ケ帰廳ヲ命セラレ本日帰廳口頭ヲ以テ報告シテ曰ク霧社及ポアロン地方ニテ輸送ヲ担当シ居ル人夫ハ實ニ可憐ノ点多々有之是レ一ニ各倉庫長ノ方針如何ニ依リ人夫及人夫監督巡查ニ對スル待遇ノ岐ル、處ニシテ霧社倉庫長タル中村二等主計ハ人夫及人夫監督巡查ヲ遇スルコト實ニ言語道斷ニシテ同倉庫附屬ノ人夫及警察官ニ對スル待遇ノ一般ヲ掲クレハ人夫ニ對シテハ朝昼夕共ニ小ナル菜埔一切ニ朝ノミハ之ニ附スルニ塩鮭ノ生物少量ヲ加フルノミ巡查ニテハ人夫ノモノニ加味スルニ「ジャコ」少量ヲ加フルノミニテ如何ナル健康者ト雖モ遂ニ營養ハ不良ニ陥リ肉落チ後ニ下痢ヲ生シ其他諸病ヲ發シ人夫モ其監督タル巡查モ遂ニ後送帰還セサル可ラサル事トナルヲ普通トス而シテ他ノ方面即チ合歡山及關ヶ原等ノ倉庫ニ於テハ霧社

ノ待遇トハ大ニ異リ從テ人夫及其ノ監督者等モ比較的成績良好ナリ依テ霧社倉庫ニ在リテハ今一步右待遇ヲ進メラレ人夫及其ノ監督タル一般巡查ノ健康ヲ保持セラレン事ヲ切ニ希望スト

右ハ五十嵐巡查口頭報告ノミナラス人夫監督トシテ當支廳ヨリ出張シ居ル各巡查ヨリノ來信ニ依ルモ比ニ皆然リ是レ敢テ針小棒大ノ言ニモアラサルカ如ク認メラレ候

終

(※欄外記入「保安課長警察本署長」「霧社倉庫長ノ人夫ニ対スル取扱宜シカラス」)

(九八) 人夫食事供給二千スル件 [五七四三一—〇三四四]

南警保第二九七二號

印

大正三年七月一日

南投廳長石橋亭印

本保第九八六號

警察本署長殿

印

印 人夫食事供給二千スル件

六月二十七日付電報ヲ以テ六月三十日人夫一千名廳下土城ニ宿泊食事供給ノ件通報相成候處之□日正午頃ヨリ風雨烈シク遂ニ夜ニ至リ臺中南投境界烏溪増水シ交通途絶トナリ右人夫ハ離散シ一部ハ萬斗六ニ宿泊一部ハ土城ニ宿泊シタルモ尚他ニ宿泊シタル者モ有之之レカ收容上本日出發スル能ハス依テ引續キ食事供給セラレ度旨引率官ヨリ申出有之候ニ付テハ事実不止得義ト認メ供給セシメ置候条御承認相成度

右報告ス

以上

〔※欄外記入「保安課長 警察本署長」不在〕

（九九）保甲人夫ノ待遇ニ関スル件 [五七四二一〇二二二]

中警保第五七七二號

大正三年七月七日

臺中廳長 枝徳二郎

本 第 號

民政部警察本署長 龜山理平太殿

〔※欄外記入「保安課長 警察本署長」

保甲人夫ノ待遇ニ関スル件

保甲人夫ノ待遇其ノ他ニ關シ左記ノ通関ヶ原出張先山口警部ヨリ報告ニ接シ候右報告書中合歡山以東ノ人夫ニ對シテハ徴用規程第十條ニ依リ四貫目ヲ標準トスヘキ旨規定セラレタル以上ハ勿論之ニ依ルヘキハ當然ナルモ前線糧食不足ノ結果規定ノ倍額則チ八貫目ヲ担送セシムルトセハ夫ニ相當スル割増金ヲ給セラル、ハ相當ト相信シ候又保甲人夫ニシテ就業中負傷シ休業スル場合ハ公症患者トシテ相當ノ賃金ヲ支給セラル、ハ是亦至當ト信シ候糸經理部ニ交渉相成候様致度
右通報ス

追テ人夫患者ニ對スル手當ハ改善ヲ要スル必要可有之義ト思料セラレ候ニ付申添候也

左記

一、當関ヶ原ハ合歡山ニ比シ氣候暖カニシテ凌キ易ク先ツ健康地ト認メラレ候モ當地ノ輸送区域ハ合歡山及

無名溪間ニテ全輸送線中第一ノ難所ト称セラレツ、アル困難ノケ所ニシテ為メ二人夫ノ疲勞甚タシク多
數ノ休業者ヲ出シ居ル次第ニテ是等人夫ノ取締上ニ誠ニ困難ヲ感シツ、有之候

- 一、担送荷物ノ量ハ規程ニ據レハ合嶽山以東ハ一人ニテ四貫匁ヲ標準ト相成居候モ前方戦闘線ノ糧食不
足ノ為メ目下ノ處八貫匁ノ量ヲ担送セシメツ、有之候此ノ点ニ付テハ經理部ニ對シ交渉ヲ為シタル次第
ニ候モ兎角前記ノ次第二ニ強ヒテ四貫匁宛ヲ担送セシムルコトヲ要求スルカ如キハ失當ト存候ニ付普通
晴天ノ際ハ八貫匁宛ヲ担送セシムルコト、シ雨天等其他格別ノ困難ヲ豫想セラル、ル場合ニ限り四貫匁
内外ノ量ヲ担送セシムルコトニ致シ居り候本職當関ケ原ニ到着以來（六月二十一日）幸ニ晴天續續キニ
付キ日々八貫匁ノ荷物ヲ担送セシメツ、有之候為メ今日ニテハ輸送上意外ニ好成绩ヲ擧ケツ、有之候右
規定ニ依ル四貫匁ノ量ヲ其ノ倍額即チ八貫匁ノ量ヲ担送セシムルニ付テハ相當割増金ヲ要求可然思料候
モ如斯事件ハ小職ヨリ倉庫長等ニ要求スルヨリ本廳ノ手ヲ經テ其筋ヘ要求スルノ適當ナルモノト考ヘ候
ニ付可然御取計相成度候

〔※欄外記入「賃金ノ割増ハ不可能ナラン」〕

- 一、保甲人夫ノ患者即チ休業者ノ四分ノ三ハ身体疲勞ノ為メ休業ノ已ムヲ得サルニ至ルモノニ實際ノ疾病休
業者ハ四分ノ一強ニ有之候

〔※欄外記入「疾病休業四分一」〕

- 一、各倉庫軍医及看護長ノ診察治療ハ誠ニ不親切ニシテ其ノ程度實ニ外観者ヲシテ驚嘆セシムルモノニテ有
之候當倉庫専屬軍医ノ如キハ先ツ親切ニ診察スル例ニ候モ夫レニテモ人夫等ハ常ニ軍医ノ不親切ヲ唱ヘ
居り候ニ付小職ハ夫レトナク時々談話ノ間ニ改良ヲ促シツ、有之候ヘ共一人ノ軍医ニテ何等設備ナキ原
野ニ於テ多數ノ患者ヲ診察スルコト、テ軍医モ其ノ勞苦ニ堪ヘス不知ノ間ニ不親切ニ渉ル如キ観有

之到底人夫ノ患者ヲシテ満足セシムル如キハ不可能カト思料セラレ候此ノ両三日ハ從來ニ比シ稍ヤ人夫ノ患者ニ對シテモ意ヲ用ヒツ、アルヤニ身受ラレ候

〔※欄外記入「軍医ノ診察不親切ナリシモ現在少シク改善セリ」

一、當倉庫軍医ノ談ニ依レハ討伐軍全線患者ニ對スル處要衛生材料ハ常ニ不足勝ニテ充分ナル治療及施薬ヲ為ス能ハス為二人夫ノ患者ニ對シテハ實ニ氣ノ毒ナル次第ナルモ詮方ナキニ依リ輕易ナル患者ニ對シテハ薬ヲ與フル能ハサルヲ以テ少シ重病者ニ對シテハ相當ノ治療ヲ加ヘ又薬ヲ與フル方針ニテ目下請求中ナル衛生材料到着セハ出來得ル限り手當ヲ為ス筈ナル趣候モ察スルニ現今ノ衛生状態ニ對スル申訳ニ外ナラサルト思料セラレ候

現今疾病ノ重ナル^(マヤ)モノハ皮膚病（足腐レ多數ヲ占ム）外傷（担送途中岩石其他ニテ負傷セシモノ）梅毒（從來ヨリ持チ來リシモノ）下痢症、感冒及老衰病等ニ候

一、當倉庫付人夫ノ患者中約四分一強ハ疾病又ハ身体虚弱ニシテ勞働ニ堪ヘス解備スル方可然思料セラル、モノ有之候モ倉庫長ノ方針トシテ病重ク快復ノ見込モノナキニアラサレハ断シテ解備セストテ我等警察官ノ目ヨリ見ルトキハ實ニ死ニ類セシモノト思ハル、患者ニテモ解備セス後送モ為サ、ル有様ニテ見ルニ忍ヒ難キモノ有之候ニ付キ倉庫長及軍医ト再三ノ交渉ノ結果昨二十七日ヨリ多少ツ、解備スルコトニ致シツ、有之候

一、保甲人夫ニシテ就業中ニ負傷（岩石其ノ他ニテ身体ノ一部ヲ負傷シタルモノ）休業（医師診断ノ結果）セシ場合ハ公症トシテ相當ノ賃金ヲ支拂フヘキモノト思料セラレ候ニ付其ノ旨倉庫長トモ交渉中ニ候モ未タ何レトモ決定セスニ付其ノ筋へ御稟申相成様致度候

一、人夫ニ給スル食事ハ今尚ホ不十分ニシテ彼等ヲ満足セシムルニ至ラス副食物ノ重ナル^(マヤ)モノハ大根切干ヲ

豚油ニテ煮附ケタルモノ塩鱈、サイポウ等ニシテ彼等カ労働ニ對スル營養ハ不足ニシテ日々身体衰弱シテ休業者ノ多數ヲ出スニ至リ候次第ナルモ倉庫ニ於テハ一般定メラレタル糧食ノ外他ニ適當ノ副食物ヲ給スヘキ途ナキヨリ何トモ詮方ナシトノコトニ候

〔※欄外記入「コレ以上ノ副食物ノ供給ヲ要求スルハ不可ナラン」〕

一、合歡山以東ノ警察官及人夫ノ夜間休憩スヘキ場所ハ各人各個ニ閑暇ヲ見テ築キタルモノニテ極メテ簡單ニシテ漸ク露ヲ凌クニ足ルモノニテ幸ニ土地乾燥シ建築材料モ豊富ニシテ水利ニ便ナル為メ比較的身体ノ健康ヲ保チ居候

一、現今當倉庫ニ專屬スル人夫ハ①別表ノ蓮桃園、新竹、臺中、嘉義、臺南、阿緬、南投廳ノ出役者ニ候處何レモ先月中ニ入山セシモノハ交代帰廳ヲ迫リツ、有之候ニ付懇諭服役セシムルコトニ務メツ、ツ之有候モ新竹、嘉義、臺南、及臺中廳ノ一部（彰化支廳人夫）ハ逃走ノ虞アリ警戒中ニ候是等重ナル原因ハ各所共ニ保正其ノ他ノモノニテ交代期限ヲ豫約セシモノ、如ク申立テ居ルモ事實ハ輸送困難ニシテ身体日々衰弱スルト共ニ近來蕃害頻々タルト家事上ノコトヲ心配スルニアルモノ、如ク察セラレ候

〔※欄外記入「逃走ノ虞アリ 人夫交代ヲ要求ス」〕

一、當倉庫專屬ノ警察官ニ對スル倉庫長ノ待遇ハ餘リ宜シカラスシテ巡查巡查補ニアリテハ大ニ不服ヲ鳴ラシツ、有之候其ノ原因トモ云フヘキハ合歡山以西ノ如ク糧食ノ豊富ナラサルニ因ルヘキモ一ツハ倉庫長ノ注意ノ足ラサルト倉庫付事務員等ノ人物ニ乏シク自分等ノミ飽食スレハ他ハ如何ナルトモ顧ミサル者ナルヤニ見受ケラレ候ニ付キ倉庫長ニ對シ夫レトナク注意ヲ促シ候結果今日ニテハ多少異ナル点ヲ認めラレ候モ今尚ハ相當ノ給與ナクモ戦地ノ事ニ候ヘハ是等ノ点ニ付重ネテ交渉ヲ為スモ面白カラサルコトト思料候ニ付キ其俟ニ致居候

（一〇〇）人夫使役情況ニ關スル件 [五七四二一〇二二七]

嘉警保第六五六七號

大正三年七月十日

⑩

嘉義廳長津田毅一 印

本保第一〇三二號

民政部警察本署長殿

〔※欄外記入「保安課長（花押）警察本署長不在」〕

人夫使役情況ニ關スル件

六月二九日付ソワサツ合流点倉庫在勤當廳ヨリ出役人夫監督巡查田中武範ノ報告ニ依ル人夫情況左記ノ通り

ニ有之候条御参考迄

右通報ス

記

一、保甲人夫ノ各出役地ニ於ケル困難ハ既ニ一般ノ認メラル、處ナルモ殊ニ同地方ニ於ケル人夫ニシテ草鞋ノ供給不十分ナル為メ洗足ニテ重量ヲ負テ岩角ヲ攀降スルハ實ニ悲惨ナル狀況ニアリト云フ

〔※欄外記入「草鞋供給ノ不充分ノ報告ハ今回初メテ聞ク處ニシテ軍需品ノ運搬困難ノ為メ一時到着セザルモノナラン」〕

終

二、人夫中ノ疾病解備セラレタルモノ、内倉庫専属ノモノハ相當保護ヲ受ケテ歸途ヲ全シ得ルモ戦線ニ在ル軍隊専属ノ人夫ニ對シテハ其軍隊ニ於テ解隊ノ事由ヲ人夫票ニ記入シ與フル而已ニシテ其俾解放セラ
ル、為メ途中非常ナル困難ニ逢イツ、アルモノアリト云フ

三、人夫ニ關スル衛生上ノ施設ハ全ク備ヘ無キモノ、如ク罹病、傷病者モ數日間ニ一度軍医ノ診断ヲ受クル
ニ止マリ深ク蕃地ニ入りテ服役シツ、アル者ノ事故ニ關シテハ實ニ同情ニ堪ヘスト云フ

以上

〔※欄外記入「病氣帰還ノ人夫ニ對シ保護ヲ加ヘサルハ警察官モ其ノ責ヲ免レサルヘシ」〕

（二〇一）（電報訳文） 「五七四四一〇一四一」

大正	年	月	日	午前	午後	時	分	發信	大正三年七月十八日午後十時受信			
警察本署長					保安課長							
指	定	受	信	者	名	發	信	地	着	信	者	名
警察本署長					關ヶ原					山口警部		

譯文

七月十五日ヨリ糧食少ク總テ食事半減トナリ ○輸送スヘキモノナキ為人夫ノ一部ハ命ニ依リ休ミ居レリ是
等ノ人夫ニモ賃金ヲ支拂フヘキハ當然ナリト思フモ倉庫長ハ支拂ハズト云ヒ居レリ如何ニスヘキヤ返待ツ

（二〇二） 出役人夫ノ状況ニ関スル件 [五七四二一〇二三一]

中警保第六三五六號

大正三年七月二十一日 ㊦

臺中廳長 枝徳二團

本保第一一〇〇號

民政部警察本署長 龜山理平 太殿

〔※欄外「保安課長 ㊦ 警察本署長 不在」〕

出役人夫ノ状況ニ關スル件

出役人夫ノ状況ニ関シ合歡山倉庫付警部補松延寅松ヨリ左記ノ通報告ニ接シ候右ハ多少參考トモ可相成思料
セラレ候

右通報ス

左記

一、人夫及警察官ニ對スル軍隊ノ感情

人夫ニ對スル倉庫員及軍人等ハ從來虐待的ニ涉リ動モスルト少シノ欠点ヲ見テ何等言語ヲ解セス毆打スルコト多カリシカ近頃ニ至リ之等ノ行為ヲ見ス而シ下級ノ雇員及職工等ニ於テ欠点アリトテ時ニハ毆打スルコトアルモ事實調査ノ上處分スル様ニ致シ居リ候人夫ニシテ甚タ遺憾トスルハ病氣ニアラスシテ病氣ト称シ出役ヲ免レントスル者アルヲ認ム之レ全ク輸送ノ困難ニシテ身体ノ疲勞ニ基因スルコト多シ之等ニシテモ十日以上担送繼續シテ相當申出テアラハ監督者ノ手加減ニテ休業セシメルコト、ナシ居リ病氣ニアラスシテ無斷休業スルコトハ許サス病氣診斷ノ際病氣ニアラスシテ診斷ヲ受ケ結果無病ト診斷セ

ハ虚偽ナリトテ看護長ヨリ折檻セラル、コトアリ全ク病氣ト断定スルモ投葉ナキハ遺憾トス投葉アルモ一回少量ヲ給スルニ過キス負傷ナレハ膏藥或ハ「ヨジムチンキ」位ヲ塗布シテ休業ヲ與フル位ナリ故ニ全クノ病者ト雖トモ診断ヲ嫌ヒ居レリ又診断ノ方法ニ付テモ甚タ粗雑ニシテ顔色ヲ見ル位ナルヲ以テ狡猾ナル患者ハ一朝ニ二回ノ診断ヲ受クルコトアリ一回ハ休業トナルモ二回目ニ解隊トナル例アリ解備患者取扱ニ付テハ從來如何ナル重病者ト雖解備放還シタリ不得止監督者ニ於テ其ノ班中ノ強壯者ヲシテ埔里社迄担送後送シツ、アリシカ六月末ヨリ徒歩出来サル者ハ總テ患者輸送部ニ收容ノ上後送シツ、アリ近頃途中ニ於テ倒ル、モノ少ナシ

警察官ニ對テハ軍隊側ヨリ總テ継子扱セラレ苦力ト同シク別視セラレ居ル様ニ思ワレ候卑劣ノ例ニ有之候モ下給品ハ雇員以上總テ定日ニハ支給致シ居リ候モ警察官ニハ支給スルモノニアラストシテ三回ニ一回ノ下給ヲ受クルノミニ有之候又担送荷物中紛失或ハ抜荷等アル時ハ警察官ニ責ヲ負ハシメントシ警察官ノ人夫監督不充分ナリト或ハ警察官力途中ニ於テ抜キ取ルナラントノ言ヲ弄スルコトアリト聞ク其ノ實倉庫員或ハ軍人力護衛途中或ハ倉庫ニ於テ抜キ取ルモノニシテ或ル軍人カ日本酒數本ヲ雜貨店ニ持チ行キ菓子ト交換シタルヲ店員ヨリ聞キタリ倉庫員ハ多クハ一時ノ雇傭ニシテ無責任極マリ實ニ慨嘆ニ不堪或時ハ巡查ト共ニ同盟罷業ヲナサントシタルコトアリ倉庫長ノ異ナルニ從テ多少警察官及人夫ニ對シ待遇ヲ異ニスト雖モ今因交代シタル當倉庫長竹田久太郎ナルモノハ巡查ヲ冷遇スルコト甚シク葑菜主山方面ニ勤務中十數名巡查ヲ帰廳セシメタルモノニシテ當地ニ來リタル後モ巡查ニ對シ不感ノ念アルモノ、如シ幸ニ當倉庫ニ於テハ衝突ナシ

二、衛生状態

臺中廳下ノ人夫七月十五日現在二百七十一名ニシテ内患者毎日ノ平均五十名内外近頃下痢症者著シク減

三、
糧食ニ就テ
少シ足部ノ負傷最モ多ク其他「マラリヤ」往々有之候之レ湿氣ノ多キト担送ノ困難ナルニ基因スルナラ
ン然シ六月初旬ニ比シ衛生状態稍ヤ良好ニ向ヒツ、アリ降雨ノ際ハ患者増加スルモ全クノ患者ニアラス

粳精米ニ副食物ハ大根漬ト塩魚ニシテ豚肉ヲ食セサルモ人夫トシテハ普通食ニシテ充分ニ食シ居リ空腹
ナリトテ不満ヲ訴ヘタルコトナシ然ルニ今十六日ヨリ二十日迄糧食不足ノ為メ半減食ヲ命セラレ一般ニ
大恐慌ヲ来シ居リ候人夫間苦情多シ輸送困難ナリ所持金アルモノハ雜貨店ニ至リ臺灣菓子ヲ購入シテ携
帶シ居リ或ル班ハ十數圓ヲ集メテ雜貨店ニ購入方依頼シタルモノアリ一人七合五勺ヲ半減セラレ四合ニ
至ラサルヲ以テ人夫ハ空腹ヲ告クルハ當然ナリ輸送出来サルニアラサルヤト認ムルモ一般ノコトナレハ
警察官及人夫ヲ督励シテ出役セシメントシ居ルモ永ラク持續スヘキモノニアラス來ル二十日頃ニハ大分
ハ解隊ノ説アリ本件ニ付テハ倉庫長ト共ニ講究中ニ有之候

以上

（一〇三）討伐ニ關スル狀況ノ件 [五七四二一〇二三七]

中警保第六四三〇號

大正三年七月二十三日 ①

臺中廳長 枝徳二印

本保第一一〇三號

警察本署長 龜山理平 太殿

〔※欄外記入「保安課長 警察本署長」〕

討伐ニ關スル狀況ノ件

客月以來バトラン方面并ニセラオカフニ方面ニ於ケル討伐其ノ他ノ狀況ニ關シ左記ノ通セラオカフニ倉庫付警部補松井喜一郎ヨリ報告ニ接シ候

右参考迄通報ス

左記

一、物資輸送ノ狀況

客月初日小職第一聯隊附トシテ木瓜溪ニ駐屯同隊全部ノ輸送ヲ監督セシ以來漸次輸送人夫ノ數ヲ増加シ加フルニ天候稍回復シタル結果物資ノ供給稍遺憾ナキヲ得タリ木瓜溪ニ至ル間ハ前報告ノ如ク木瓜溪ヨリサカヘニ社ニ至ル間ハ其ノ當初蕃人ノ襲撃ニ遇ヒ輸送頗ル困難ヲ感シ人夫ノ死傷者ヲ出スコト稀ナリトセス然レトモバトラン蕃ハ多ク戰鬥力ヲ有スル軍人、警察官ヲ狙撃スルモ人夫ハ概シテ狙撃セザリキ其後軍隊ノ前進ニ伴ヒ何レモ蕃人ハ逃走セルト一方帰順シタルトニ依リ從テ輸送モ完全ニ進行セリサカヘニ社前方ハ溪底深ク且ツ大森林アルヲ以テ蕃人ノ狙撃多ク危険ナリ為ニ輸送頗ル困難ヲ感セリ其後機關砲隊白砲隊ノ前進ニ伴ヒ此等蕃人ノ影ヲ没シ全部ノ蕃屋ヲ焼拂シ輸送稍確實ナルヲ得タリ此ノ如クシテ六月十二日確實ニ木瓜溪下流ナル警察隊ト連絡ヲ取ルコトヲ得ルニ至レリ同十五日ヨリ前進ヲ初メ第一聯隊ハ三梯段トナリ第一梯隊ハ十六日夕コ大山ヲ横断シ内夕コ奥蕃ルツビ合流点ニ向ケ急進セリ第二梯隊ハ同十七日第三梯隊即チ第五中隊及輸送隊ハ二十一日何レモマヤン社ヲ出發急進セリ其山道タルヤ單ニ蕃人ノ蕃路ヲ前進スルコト、テ断崖ヲ上リ山ヲ越ヘ溪底ニ下リ糸繩ヲ以テ断崖ヨリ断崖ニ移ル等輸送隊ノ困難ハ實ニ名状スヘカラサル程ニ有レハ殊ニ軍隊スラ五日間ノ行軍豫定ナリシカ六日間ヲ

二、
人夫ニ對スル所遇

費シタル狀況ニシテ我カ輸送隊ハ終日十六七時間ノ行軍ヲ續ケ七日ニシテ漸ク當地ヘ到着スルヲ得タリ此間携帶シ来リタル糧食ニ欠乏ヲ告ケ殆ント五日目ニ三合四勺ノ米ヲ分配シ六日目ニハ糧食ナキ為メ一同蕃人ノ耕作セル畑ヨリ芋ヲ掘リテ之ヲ食シ僅カニ飢ヲ凌キタルノ状態ナリ尚ホ行軍中疾病者身体ノ衰弱シタル者ハ稍ヤ三十名位落後セシモ漸次收容シ其他ハバトラン方面ニ残留セルモノハ警察隊ニ收容セラレ未タ生死不明ノモノ四五名アリ目下之レカ調査中

當當方面ノ輸送狀況ハバトラン方面ニ於ケル如ク未タ物資ノ供給充分ナラス我警察官吏ノ如キハ三日間殆ント生味噌ニテ生活セシコトサエアリ一日ノ降雨アレハ忽チ交通ヲ絶タレ翌日ハ直ニ食事半減ノ有様ナリ當地前方ノ輸送ハ目下道路隊ニ於テ道路ヲ開キ軍隊多ク駐屯シアルヲ以テ左述危険ニアラス輸送モ漸次良好ニ進行シツ、アリ後方ハ僅カニ守備隊ノ一小隊カ一分隊ノ駐屯アルノミナルヲ以テ無名溪倉庫トルツピ中継所間ニ於テ時々蕃人ノ為ニ賊首セラル、者多ク甚タ危険ナリ目下之カ嚴重警戒ヲ為シツ、アルト同時ニ附近森林ノ伐採ヲ為シツ、アリト雖賊首ハ未タ全ク絶ツコトヲ得サルハ遺憾トスル處ナリ

人夫ニ對スル所遇ニ就テハバトラン方面ハ既報ノ如ク陸軍側殊ニ經理部員ハ冷酷ナリ人夫等ハ可成物資ノ輕量ヲ欲スルハ當然ノコトナルモ經理部員ハ道路其ノ他ノ關係ヲ詳知セス無理ニ量積ヲ増加シ輸送セントシツ、アルヲ以テ此等ニ對シテハ充分ニ其不可ナルヲ明示シ輸送ニ遺憾ナキヲ期セシメタリ然レトモサカヘン社出發ノ際非常ナル難路ナルニ拘ラス過度ノ担送ヲ為サシメタル結果該物資ノ一割位ハ溪底ニ投棄セラル、如キ現象ヲ呈出セリ殊ニ甚シキハ斯ク担送ヲ為サシメタル為メ患者ノ收容充分ナラス其儘捨置カル、ノ非運ニ相遇セルモノ當地ニ至ル迄三十餘名ニ達セルモ其後漸次收容シ今尚生死不明ノモノ四五名アルヲ以テ之レカ調査中ナリ此ノ如ク陸軍經理部員ハ人權ノ何タルヲ解セサルノ觀アリシヲ以

テ之レカ救済方法ニ關シ交渉シタルモ戰時ニ於テハ到底不可能ナリト斥ケラル然ルニ其ノ後當地ニ到着シタル第一聯隊長ヘ宛テ松山枝隊ヨリ行倒人發見ノ報ニ接シ大ニ之レカ善後策ニ窮シ小職ノ許ニ右ノ件ニ關シ協議ヲ為スニ至レリ目下小職ニ於テ極力之レカ調査整理ヲ為シツ、アリ

當方面ニ於テモ之レト同シク保甲人夫ノ運用ニ關スル一般ノ事情ヲ知ラス人夫ヲ過酷ニ使役スルノ惡風アリ殊ニ當倉庫嶋田二等主計ノ如キハ軍經理部ニ對シテハ何等ノ意見ヲ陳フルコトナク盲從シ部下并ニ警察官吏ニ對シテハ冷酷極マル行為ヲ要求シ人夫ニ對シテハ當地ヨリルツビ中繼所間往復四里餘ノ山道ヲ担送シ午後三時頃帰レルモノヲ再ヒ使役スル等過酷ヨリ寧口慘酷ナル使役ヲ強ユル為メ翌日担送力ニ大ナル打撃ヲ受クル等其他枚挙ニ遑ラス此ノ如ク冷酷ナル勞働ヲ強フルニ拘ラス雨天ニ際シ半食即チ一日三合ノ米ヲ絶シタルコトサエアリ其他副食物ノ如キモ人夫徴用規程ニ列記シタル十分一二達セス少量一食一本ノ「サイボー」位ヲ給スルノミニシテ其ノ他ノ副食物ハ皆無ノ状態ナリ尚ホ患者輸送部ノ人夫ニ對スル所遇ハ概シテ冷酷ナリ平素看護長一名アルノミナルヲ以テ多數ノ患者ヲ取扱フコト能ハス數日間何等ノ手當ヲ為サス捨置カル為死亡スルモノサヘ出スニ至レリ本件ニ關シテハ軍醫部ニ交渉ノ結果少シク冷酷ノ度ヲ減シ目下僅カニ手當ヲ為シ後送シツ、アルノ現況ナリ人夫ノ所遇ニ對シテハ遺憾ノ点多シ

三、人夫ノ健康状態

人夫ノ健康状態ハ既報ノ如ク一般ニ良好ナラス殊ニバトラン方面并ニ当地附近ハ足部ノ創傷ヨリ濃毒症ニ罹ルモノ稍ヤ一割弱ニ達ス尚ホ本月初メヨリ多數ノ人夫ヲ收容シタル當倉庫ハ赤痢病并ニ下痢症患部者發生ヲ見ルニ至レリ然ルニ本月七日大暴風雨以來降雨續キタル為メ同病患者ノ續出スルコト多ク今ヤ一割五分以上ノ患者ヲ出スニ至レリ之レカ豫防ニ関シテハ部下警察官吏ヲ督勵シテ收容治療ヲ受ケシム

四、
人夫等ノ感想

ルコトニ務メツ、アルモ如何セン當所患者收容所ハ僅カニ看護長一名ノ配屬アルノミニシテ到底之レカ豫防救治ニ間然ヲ期スルコト能ハサルヲ以テ軍醫部ヘ數度交渉ノ結果漸ク本日迄三回ノ後送ヲ為スニ至レリ今ヤ看護長ノ外軍医ヲ以テ之レカ豫防救治ニ當ラシメツ、アリ尚ホ當所倉庫長島田二等主計ノ如キハ此等ニ付テハ全然無經驗ナルト無頓着ナルニハ殆ント不責任ノ状態ナリ小職ハ衛生専務巡查巡査補ヲ特設シ日二三回ノ糞池ノ消毒患者ノ健康調査之レカ收容ニ當ラシオメ極力之レカ豫防ニ努メツ、アリ然レトモ病毒ハ大ニ散蔓猖獗ヲ極メツ、アリ尚ホ去月各廠ヨリ徵用シタル人夫中ニハ他人ノ代理トシテ一定ノ金額ヲ受取り来リタルモノ多シ此等ハ多ク花柳病其他ノ疾病ヲ包藏シ来リ何等勞働ヲ為サス病氣帰還ヲ乞フモノ多シ尚ホ阿片吸食特許者ノ徵用セラレタルモノハ多ク過激ナル担送ニ堪ヘ難ク是又帰還ヲ出願スルモノ多シ患者收容所ノ患者ニ對スル所遇ハ何レモ冷酷ニシテ戰傷患者殊ニ軍人ヲ除ク外ハ其設備不完全ナルト取扱ノ粗漏ナルトハ一般ノ認メタル處ナリ殊ニ當所收容所ノ如キハ二千數百人夫ヲ有シ其日ノ患者ヲ診斷スルコトサヘ出来得サル狀況ニシテ遺憾ノ点多シ

一般ノ人夫ハ義務心ニ乏シキコトハ多言ヲ要セサル處ナルカ近来ニ至リ逃走スルモノ多シ殊ニ當方面ハ断崖多ク担送困難ナリ加フルニ食物ノ關係ニ營養不良ノ状態ナルヲ以テ担送力ヲ殺減スルコト尚ホ甚シ當所ヨリ後方ルツビ間ハ所々断崖アルモ左迄困難ナラス往復五時間位ニシテ担送ヲ終ル然ルニ前方ソアサツ倉庫間ノ担送ハ蕃山ノ急悪ナルト里程ノ長キトニ依リ之レカ往復ハ優ニ八時間乃至十時間ヲ要ス為メニ身体ノ強壯ナラサル人夫ハ途中ニ於テ金一圓乃至貳圓ヲ出シ強壯者ニ依頼シ担送スルモノ間々發見スルコトアリ此ノ如キ状態ナルヲ以テ人夫等ハ之等ノ苦痛ニ堪ヘス病氣ヲ裝ヒ或ハ匿レ以テ出役ヲ免カレントスルモノ多キニ至ル尚ホ人夫徵用規程ニ依レハ合歡山以東ハ担送量四貫以内トアルモ右規程

ハ陸軍側ニ於テ承認シ居ラスト主張シ今日尚ホ八貫目迄ノ担送ヲ為サシメツ、アリ人夫ハ一般ニ副食物ノ給與ナキト担送ノ重キトニ大ナル不平ヲ漏シツ、アリ近來出役人夫中ニハ營養不良ノモノ多ク使役上頗ル困難ヲ感シツ、アリ

五、警察官吏ノ現況

當所ニ配属セル小職ノ部下ハ巡查三十一名、巡查補五名ナリ此等警察官吏ノ目下ノ状態ハ副食物ナリ一食汁一腕ニ足ラス又ハ塩鯖ノ一片位ナリ為メニ何レモ營養不良ノ状態ナリ本件ニ関シテハ數度交渉シタルモ物資欠乏ノ今日到底之レ以上ノ給與出來得サル狀況ナリ殊ニ近來ニ來リ赤痢病并ニ下痢症ニ感染スルモノ多ク已ニ一名ノ巡查ヲ後送シ又々四名ヲ後送セサルヘカラサルノ状態ニシテ健康状態良好ナラス此等ハ過般來連日ノ降雨ト人夫ニ此種ノ疾病多キ為メ遂ニ感染シタルモノナリ本廳ヨリ出張シタル職員ニシテ後送セラレ又ハ後送セントスルモノ左ノ如シ

七月十五日後送スミ

巡查 中島 弘光

七月十六日後送スヘキモノ

々 真杉 千里

々 末次 浅六

々 西井 貞逸

右ハ何レモ赤痢病又ハ之ニ疑ヒアルモノ

六、其他参考事項

人夫ニ對スル諸般ノ狀況ハ以上ノ如クナルカ保甲人夫徴用ノ如何ニ困難ヲ為シツ、アルヤ其性質ノ何タルヤヲ解セサル陸軍側ニ於テハ人夫ヲ過酷ニ使役スルコト甚シ現ニ小職カ第一聯隊附以來ノ人夫モ尚ホ現存シアルカ數十日ニ一日ノ休養モ與ヘサル状態ナルヲ以テ其疲勞タルヤ實ニ甚シ此等ニ付テモ經理部

當局者へ交渉シタルモ目下ノ狀況ヨリセハ物資輸送上其餘裕ナキヲ以テ止ムヲ得ス強テ之ヲ使役シ居ル
 状態ナリ警察官吏軍隊及人夫ハ甚シク副食物ナク營養不良ノ状態ナルニ拘ラス多クノ倉庫長タル主計中
 ニハ自己ノミ物資ノ自由ナルニ任セ鶏一羽ヲ一食ノ副食物ト為シ又ハ鶏卵ノ如キ豆乳其ノ他總テノ副食
 物ヲ取り居ルノ狀況ナリ當倉庫ニアル二等主計島田均平ノ如キハ其一人ナリ又山本主計ノ如キハ去月中
 軍隊ニハ煙草ノ加給品ヲ給與セス自己及部下ノ雇員等ニ多ク之ヲ分與シ此等ノモノハ朝日一個ニ付人夫
 二十二錢宛ニ賣却シタル事實等モアリ片山二等主計竹田二等主計ノ如キハ稍々公平ノ處置ニ出テタルモ
 ノト認めラルル中村主計ノ如キハ自己ハ朝夕飲酒シ職務ニ熱心ヲ欠クモノト認めラルル兎ニ角彼等ハ自己ノ
 勝手ナル言動ヲ為シ稍モスレハ警察官吏ヲ云々スルノ癖アリ殊ニ人夫徵用規程ノ如キハ軍隊ニ於テ之ヲ
 認メス云々ト云ヘリ又副食物ノ給與ノ如キハ全然勵行シ居ラス之ニ反シテ急患ナル蕃山ノ担送ヲ増額ノ
 重量ヲ負担セシムル等無盾モ實ニ甚シト信ス

終

(一〇四) 經理部倉庫員ノ行為ニ関スル件

[五七四五—一〇一八四]

中警保第六七四〇號

大正三年七月三十一日

㊦

臺中廳長 枝 徳二 ㊦

〔※欄外記入「保安課長㊦警察本署長不在」〕

本保第一一五一號

民政部警察本署長龜山理平太殿

經理部倉庫員ノ行為ニ関スル件

經理部倉庫員ノ不始末ニ付討伐軍セラオカフニ倉庫付警部補松井喜一郎ヨリ左記ノ通報告ニ接シ候
右通報ス

左記

討伐軍經理部倉庫ハ人夫其ノ他諸般ノ事項ニ關シ何等之ヲ處理スルコトナク人夫ノ死亡行衛不明等ハ進
テ之ヲ處理スヘキ責任ヲ有シ居ルニ拘ラス倉庫長初メ此等ノ件ニ付テハ全然不干渉ノ状態ナリ此ノ如ク人
夫ノ權利關係ヲ放棄スルニ於テハ討伐終了後殆ント人夫ノ後始末ニ窮スルモノト認メラル軍需品ノ如キ殆
ント不整理ノ状態ナリ尤モ甚シキハ去ル六月二十日第一聯隊附サカヘン社倉庫カ同地出發ノ際白米三十餘
鐘其ノ他ノ物資ヲ放棄シ来リタルカ如ク經理部員不始末タルヤ其ノ他枚拳ニ違アラス此ノ如キニモ拘ラス
人夫ノ出役等ハ食物ノ給與ヲ充分ニセス強テ出役ヲ要求スル等尚ホ稍ヤモスレハ警察官ヲ云々スル等ノコ
ト多シ尚ホ人夫徴用規程ノ如キハ之ヲ非認シ給與其ノ他ノ要求ヲ容レサルノ状態ナリ

終

(一〇五) 出役人夫ノ衛生状態ニ関スル件 [五七四五—一〇二〇三]

中警保第六九三四號

〔※欄外記入〕保安課長㊦警察本署長〔不在〕

大正三年八月五日 ㊦

臺中廳長枝徳二印

本保第一一六一號

警察本署長龜山理平太殿

〔※欄外記入「衛生課長印」〕

印

出役人夫ノ衛生状態ニ関スル件

出役人夫衛生状態ニ關シ討伐軍無名溪倉庫付警部補松井喜一郎ヨリ左記ノ通報告有之帰還後ニ於ケル衛生ノ取締ハ最モ注意ヲ要スヘキ義ト思料セラレ候
右通報す

左記

セラオカフニ倉庫配属人夫ニ去月十日頃ヨリ赤痢大腸炎等ノ下痢症患者續発シ之カ豫防ニ付テハ患者收容所ニ數回交渉ヲ重ネタルモ僅カニ看護長一名位ノ配置アルノミニシテ到底之レカ豫防ノ實績ヲ挙クル能ハサルヲ以テ小職ヨリ直接討伐軍々医部ヘ交渉シタル結果相當豫防施設ヲ為スコトニ決定シセラオカフニ倉庫ニ於ケル豫防ハ小職其衝ニ當リ衛生専務巡查ヲ設ケ構内ノ清潔保持飲食物取締并ニ豫防施設ヲ為スコト同時ニ患者收容所ニ於テ粘血便患者下痢患者ハ直ニ之ヲ收容後送スルコト、為セリ同所ニ於ケル同患者ノ數タルヤ約五百名ニ近シ其後日々同患者ヲ埔里社分院へ後送スルコト、ナリシ以來セラオカフニ後方各倉庫ニ此等ノ患者ヲ散發スルニ至リ其數千餘ニ及ヘリト然ルニ去月下旬以來セラオカフニ倉庫ニ於テ身体ノ衰弱者及下痢患者ノ收容セラレサルモノヲ合シ埔里社倉庫へ轉属ノ名称ヲ以テ後送シタル者亦多數アリ右ノ如キ状態ナルヲ以テ赤痢病并ニ下痢患者ハ益々傳播シ今ヤ豫防ニ途ナキ現況ニ有之候此等ニ付テハ軍医部等ヨリ種々ナル命令ヲ發シ豫防ニ付キ注意セラレアルモ各倉庫ニハ之レカ豫防ニ使用スヘキ藥品スラナキ状態ニシテ殆ン

印

印

ト傍觀スルヨリ外途ナキ現況ナリ然レドモ當地ニ於テハ清潔保持飲食物并ニ排泄物ノ注意方等ニ関シ嚴重ナル取締ヲ為シツ、アルモ之ヲ根底ヨリ撲滅スルヲ得サルノ狀況ナリ

以上ノ如クナルヲ以テ多數ノ保甲人夫カ今ヤ解隊帰還セントスルノ時ニ當リ各自此等ノ疾病ヲ携帯シ帰郷セシカ其流行ヲ見ルヤ必然ナリ此際ニ當リテ若シ之ヲ等閑ニ付センカ延ヒテ産業上ニ及ホス影響多大ナリト信ス解隊ニ當リ大ニ警戒ヲ要スヘキ事項ト認メラレ候條相當ノ施設相成様致度シ

（終）

（一〇六）陸軍部隊所要保甲人夫ノ狀況 [五七四三—一〇三二六]

陸軍部隊所要保甲人夫ノ狀況

一、人夫小屋ノ設備

人夫小屋ノ狀況ヲ見ルニ極メテ粗造ニシテ一朝降雨アルトキハ雨漏リ甚シク又暴風雨ノ被害アルモ之カ修復ヲ為サ、ルヲ以テ降雨ノ際ハ徹宵就眠スルヲ得サルヲ以テ翌日ノ出役ニ差閤ヲ生シ又ハ疾病ニ罹ル者多シ現在ノ人夫小屋ハ概ネ約一千人ヲ收容スルニ過キス然シ同時ニ二千人以上ヲ宿泊セシムルコトアルヲ以テ仮令晴天ノ時ト雖モ半以上露營スルコトアリ不得這ハ討伐行動ノ狀況ニ依リ一時多數ノ人夫使役ノ必要ヲ生シタルト經費上ノ關係ニ因ルモノト認メラル、モ陸軍ニ於ケル最初ノ計画其當ヲ得サルモノト思料ス故ニ后方倉庫所在地ノ人夫小屋ハ雨漏セサル程度ニ修復ヲ為スヲ要ス然ラサレハ健康衛生狀態不良ニ陥ルノミナラス人夫ノ不平心ヲ惹起シ使役及徴用上ニ大ナル悪影響ヲ及ス虞アリ

二、患者ノ取扱ニ付テ

患者ハ未軍医ノ患者スル狀態ハ（埔里社衛戍病院ヲ除ク）甚タ冷淡ニシテ其ノ診察形式ニ流ル、ノミナラ

ス患者ニ觸指スルヲ厭忌スル傾アリ其ノ甚シキニ至リテハ大便ニ血液ノ混スル者及外部ニ腫物其ノ他又ハ傷病アルニ非サレハ疾病者ト看做サス内科ニ屬セル疾病ハ毫モ顧ミテ故ニ人夫中血液ノ混スル大便ヲ為ス者アルトキハ之ヲ數人分配シテ軍医ニ提供シ帰還ヲ命セラル、者アルカ如シ故ニ疾病ノ為帰還シタル人夫ニシテ帰郷後第二回ノ徵募ニ應ジテ出役スルモノアリ如此ハ固ヨリ軍医ノ診断粗慢ニ流ル、ニ因ルト雖モ又警察官ノ人夫取締上十分ナル責ヲ免ル、コトヲ得ズ本件ニ對シテハ埔里社出役中ノ出田警部ヲシテ各倉庫附警察官ニ對シ將來斯ル不都合ナキ様傳達セシメ置キタリ

人夫ノ疾病ニ罹リタル者ニテ患者輸送部ノ手ヲ經テ后送セラル者ハ途中担架ニ依リ埔里社衛戍病院へ入院セシムルヲ以テ其ノ取扱上ニ付キ非難スヘキ点ナキモ患者輸送部ニ移ス程度ニ達セサル罹病者ニシテ帰還ヲ命セラレタル者ハ帰還途中或各倉庫ニ於テハ解傭人夫ノ故ヲ以テ之ニ食事ノ供給ヲ為サ、ル蕃コトアリ又軍醫衛生部員モ同様ノ理由ヲ以テ之ヲ顧ミス頗ル冷酷ナル取扱ヲ為スト云フ

右ハ倉庫員及軍醫衛生部員ノ取扱其ノ當ヲ失スルハ言ヲ俟タルニ其ノ地程無ノ警察官ガ罹病患者ニ對スル注意ヲ拂フモ思料ナク且人夫保護ノ責任ヲ尽サルモノト認メラル、ヲ以テ本件ニ付テモ出田警部ヲシテ警察官ニ患者ノ保護方ニ付傳達セシメ置キタリ

服役中ノ人夫ニシテ偶々疾病ニ罹リ休業セムトスルトキ或倉庫長ハ之ヲ毆打シテ出役セシメ居レリ人夫ハ不得止病ヲ推シテ出役スルモ遂ニ其苦痛ニ堪ヘサル者アリト云フ而モ人夫ニシテ逃走帰庄スルトキハ保甲民ハ之ヲ責ムル而已ナラス自己ハ勿論過怠金ニ處分セ、ルヲ以テ逃走スルヲ得ス遂ニ三名ノ者ハ溢死ヲ企テントシタルヲ苦力頭發見シタルコトアリト云フ斯ル狀況ニシテ□患者ニ對スル取扱ハ甚タ冷淡ニシテ其ノ當ヲ得タルモノニ非スト認メタル將來出來得ル範圍ニ於テ衛生機關ヲ設置シ其ノ取扱事情ヲ改善スルノ必要アリト認ム

三、給與ニ付テ

人夫ノ賃金ノ多寡及糧米ニ付テハ何等ノ不平ヲ聞カサルモ副食物ニ關シテハ各地不平ノ声ヲ以テ滿タシ居ルノミナラス副食物人夫ノ常食ニ反スルヲ以テ其ノ疲勞甚シク大ニ担送力ヲ減殺スルハ事實ナリ蕃地ニ於テ終始豚肉又ハ新鮮ナル野菜等ノ供給ヲ要求スルハ不可能ノ事ニ屬スト雖モ陸軍部ニ於テ人夫ニ多少ノ脂肪分ヲ供給スル方法及副食物ノ調理方法ヲ研究スルトキハ人夫ノ嗜好ニ投スルモノヲ供給~~得ル~~得ルコト、備~~スル~~スルヲ得此ノ欠点ヲ排除スルヲ得ン

四、人夫ノ死体ニ付テ

人夫ノ死体（凍死又ハ病死）ヲ往々路傍ニ數時間放置シタルコトアリテ人夫等ハ之ヲ目撃シ非常ニ憤慨スルノミナラス自然其出役ヲ厭忌シ加フルニ病氣帰還者ハ帰郷后其ノ状態ヲ吹聴スルヲ以テ将来人夫徴用上困難ヲ感スル向アリ斯ル事實ハ前方ニ在ル戰鬪部隊ニ在リテハ已ムヲ得サルコト、認めラル、モ合歛山附近ニ於テ如此死体ノ取扱ヲ為スハ經理部々員ノ怠慢ト云ハサルヲ得ス松本副官ハ侍從長官出迎ノ為下山ノ際モ死体ノ放置シタルヲ目撃セラレタリト云フ

五、各部隊ノ人夫取扱ニ付テ

人夫取扱方ニ付テハ六月上旬參謀長及經理部長ヨリ一般ニ訓示セラレ其後總督閣下ヨリモ重テ訓示セラレタル為多少改善セラレタルモ尚未タ上意一般ニ貫徹セサルモノアルカ如シ各廳ヨリ報告ヲ見ルニ部隊ニシテ人夫ノ取扱~~當~~宜ヲ得タル處ニ在リテハ逃走者ヲ出サ、ルモ冷酷ナル取扱ヲ為ス部隊ニ在リテハ逃走者續出シ又病氣帰還ヲ命セラレタル人夫ノ談話ニ徴スルモ部隊ノ取扱如何ニ依リ人夫ノ感情ヲ異ニセリ倉庫付雇員中ニハ行動開始前時ニ採用シタル者アリテ警察上ノ要視察人アリ斯ル輩カ人夫ヲ使役スルニ當リテハ其ノ苛酷ナルコト想像ニ餘タリト云フ目下觀察ヲ要スル雇員ノ氏名取調中

六、人夫取締警察官ノ狀況

人夫取締警察官派遣ノ計畫ハ警部一、警部補四、巡查、巡查補二七〇ニシテ之ヲ各地ニ分属セシメタルヲ以テ其ノ監督者タル警部警部補ノ配置セラレタル箇所ハ四ヶ處ニ過キス他ハ悉ク各廳ヨリ集合セシ巡查巡查補ノミニテ之ヲ統率スル者ナカリシ為メ往々警察官ノ行動道德ノ点少カラス從テ倉庫長ノ非難ヲ受ケシカ如シ右ハ最初ノ計畫ニ於テ監督者□□適當ニ派遣セザル少キニ起因セシモノト認メラルモ現今ニ於テハ各地ニ警部又ハ警部補ヲ配置セシヲ以テ以上ノ如キ欠点ナキニ至リシモノト思料ス

七、人夫徵用ノ狀況

各廳ニ於ケル人夫徵用ノ狀況ハ強壯者ヲ撰拔スルニ急ヲ用ヒ居ルモ派出所巡查又ハ保正等ハ其ノ配當人員ヲ徵用スルニ急ニシテ其ノ選拔ニ至テ注意ヲ拂ハサルモノアルヲ以テ行動開始前ニ出役セシ人夫中担送ニ不適當ノ者多數アリタルハ事實ナルヲ以テ其當時人夫徵用方ニ付キ各廳ヘ注意シ置キタリ其ノ結果六月下旬ヨリ出役セシ者ハ従前ニ比シ其ノ趣ヲ異ニセリ然レトモ尙未タ到着當晝后□ケシ疾病帰還ヲ命セラル、者アルハ遺□少カラス依テ昨二十五日付民政長官名テ人夫徵用上ニ付注意方通達ヲ發シ置キタリ

